

ふ

深井克美 (ふかい・かつみ/1948～1978年)

函館市生まれ。自由美術協会の西八郎に師事。1970年武蔵野美術学園絵画教室夜間部入学。72年自由美術展入選、佳作作家。73年自由美術協会展で会員に推挙。以後毎回出品。見た目はグロテスクだが魂を鷲掴みされる絵。78年没、自死、30歳。作品は北海道立近代美術館に大半が収蔵。洋画家

深井 隆 (ふかい・たかし/1951年～)

群馬県生まれ。1976年東京藝術大学美術学部彫刻科卒。84年東京藝術大学美術学部彫刻科講師。85年文部省在外研究員として英国(王立美術学校/R.C.A)に滞在、研究。88年中原悌二郎賞 優秀賞。89年平櫛田中賞。89年日本橋高島屋で個展。94年東京藝術大学美術学部彫刻科助教授、2005年同校教授。96年詩画集「深井隆画集 13月の青空 アルパートストリート 93番地」を出版(新潮社)。2018年退任記念 深井隆展—7つの物語—(東京藝術大学大学美術館)。彫刻家、版画

深沢 修 (ふかさわ・おさむ/1948年～)

山梨県生まれ。独学の美術家。70年代初めより個展、グループ展で発表。1975年自由美術展に出品、76年、85年佳作賞。「試行する美術展」、「セルユニオン展」に参加。88年「山梨県新人選抜展」(主催/山梨県立美術館)で山梨県立美術館賞。和紙の原料を用いて自ら紙を漉き、独特の地肌をした「紙」を作り上げている。洋画家、和紙

深沢邦朗 (ふかさわ・くにろう/1923～2009年)

埼玉県生まれ。「チポリーナ」のパッケージのイラスト。1986年と87年の共同募金のポスターの原画。60年小学館絵画賞。75年現代童画会の初代会長。79年現代童画会を退会。83～2009年自ら設立した童画芸術協会の会長。2009年没、86歳。童画家

深沢軍治 (ふかさわ・ぐんじ/1943年～)

甲府市生まれ。1964年東京藝術大学油画科入学。卒業後71年同大学院美術研究科(木版)を修了。72年日本版画協会で奨励賞。油彩画へと回帰。86年、山梨県新人選抜展(主催/山梨県立美術館)で山梨県立美術館賞。86年在外研究員としてNYで現代美術を学ぶ。2009年まで京都市立芸術大学教授。版画家、洋画家

深沢紅子 (ふかさわ・こうこ/1903～1993年)

盛岡市生まれ。1923年女子美術学校洋画科卒、岡田三郎之助に師事。1925年二科展に入選。33年婦人美術協会を設立。37年一水会展に出品。41年一水会賞。46年一水会会員。49年一水会展で会員優賞。52年一水会委員。47年女流画家協会に創立会員参加、50年から出品。上品な繊細な女性像、花、静物。55年～自由学園美術科講師。山梨県で没。90歳。洋画家、美教

深沢策一 (ふかさわ・さくいち/1896～1947年)

新潟県生まれ。東京中央商業学校卒。1922年日本版画協会展入選。28年日本創作版画協会会員。31年日本版画協会創立会 員。29～36年「新東京百景」の制作に参加。36年ベルリン美術オリンピック銅賞。風景画に長じ、装本にも活躍。東京で没、50歳。版画家、装填、絵本

深沢省三 (ふかさわ・しょうぞう/1899～1992年)

盛岡市生まれ。1923年東京美術学校西洋画科卒。20年帝展入選。22年紅子と結婚。「赤い鳥」「子供之友」に挿絵。27年日本童画家協会を結成。48年岩手県立美術工芸学校教授。56年岩手大学特設美術科教授。山梨県で没、93歳。洋画家、童画、美教

深沢史朗 (ふかさわ・しろう/1907～1978年)

栃木県生まれ。1924年上京、26～30年川端画学校に学ぶ。27～35年梅原龍三郎に師事。国画創作協会展に出品。65年銅版画個展。68年現代美術展、70年クラコウ国際版画ビエンナーレ出品。72年フレンヘン国際版画ビエンナーレ四位賞。東京で没、71歳。79年栃木県美で追悼展。版画家

深沢孝哉 (ふかさわ・たかや/1937～2020年)

神奈川県生まれ。61年東京藝術大学卒、林武に師事。65年渡仏。73年昭和会展昭和会賞。白日会常任委員、副会長。2020年没、83歳。洋画家

深沢幸雄 (ふかさわ・ゆきお/1924～2017年)

山梨県生まれ。1949年東京美術学校工芸科彫金部卒。54年から銅版画を独習。57年日本版画協会展協会賞。58年版画部春陽会賞。63年現代日本美術展優秀賞。81年『深沢幸雄銅版画全作品集』刊行。86年多摩美術大学教授。メゾチントを中心に多様な技法。87年紫綬褒章、91年山梨県立美術館で回顧展。92年山梨県文化功労賞、95年勲四等旭日小綬章。94年メキシコ合衆国アギラ・アステカを受賞。91～94年日本版画協会理事長。2016年市原市名誉市民。2017年没、92歳。版画家、美教

深堀隆介 (ふかほり・りゅうすけ/1973年～)

名古屋市生まれ。1995年愛知県立芸術大学美術学部メディアデザイン専攻学科卒。ディスプレイ会社に勤務、アクリル樹脂と出会う。2000年金魚に魅了される。02年器の中に樹脂を流し込み、その上に直接金

魚を描くオリジナルの技法で発表。03年ターナー・アクリル・アワード 2003 入選。07年貸工場を改装し、新たにアトリエ『金魚養画場』開設。12年池袋西武での個展が TBS テレビの王様のブランチ内の“ジャックと豆知識”のコーナーで紹介。大反響を呼び約 10,000 人の入場者。13年調布市文化会館で個展 7 月 17 日に 10,000 人を超える入場者。19年平塚市美術館で個展開催。現代美術家

深見公道 (ふかみ・こうどう/1922~1992 年)

福岡県生れ。1944年東京美術学校油画科卒。56年自由美術家協会会員。64年主体美術協会創立に参加。65~80年和泉短期大学教授。80~90年玉川学園女子短期大学教授。団体展に出品、個展開催。神奈川県で没、70歳。洋画家、美教

深水正策 (ふかみず・しょうさく/1900~1972 年)

長野県生れ。上智大学中退後渡米。コロンビア大学、ハーバード大学に学び、渡欧6年間。太平洋美術会に属す。1957年ごろから10年間余銀座・渡辺木版画店のサロンで毎月一回版画懇話会を上野誠と主催。ドライポイント、エッチング、木版。1967年北多摩郡狛江町狛幼稚園、代々木東京高等服装女学院に勤務。1972年没、72歳。版画家、美教

深見隆 (ふかみ・たかし/1926~2007 年)

長崎県生れ。1952年行動美術協会入選。以後、同展に出品を続ける。54、55年四人展(他に田中稔之、朝比奈隆、前川桂子)を養清堂画廊で開催。56年朝比奈隆と前川桂子とともに3人展を村松画廊で開催。57年田中稔之、朝比奈隆、前川桂子とともに村松画廊にて4人展を開催。55年行動美術新人賞、会友、56年行動美術賞、59年行動美術協会会員。60年安井記念賞。82年ギャラリー・ジェイコで「深見隆自選展」を開催。川崎市で没、80歳。洋画家

深見東州 (ふかみ・とうしゅう/1951 年~)

兵庫県生れ。同志社大学経済学部卒業。中国国立清華大学美術学院美術学学科博士課程修了。中国国家一級美術師。仏画を浅井秀水女史、日本画と水彩画を犬飼得之氏に師事す。油絵と西洋画を松下友紀氏に習い、水墨画を安永麦州氏に師事す。1999年「BESETO 美術祭東京展」に出展、NY市ソーホーのグラントギャラリーで個展を開催。2000年中国政府文化部主催で北京市紫禁城にて個展を開催。02年中国芸術研究院より、外国人初の国家一級美術師の認定を受ける。著作、美術作品集から評論集、句集。洋画家、日本画、水彩、水墨

蔭谷紅児 (ふきや・こうじ/1898~1979 年)

新潟県生れ。尾竹竹坡の内弟子、4年間。1920年竹下夢二を訪ねる。21年古屋信子の新聞小説の挿絵で人気作家。24年「令女会」に詩画「花嫁人形」が有名。25年渡仏。サロン・ナショナル、サロン・ドートンヌで入選。29年パリで個展。30年帰国。挿絵画家

として活躍。54年東映動画スタジオ設立に参加、カラーアニメーション「夢見童子」を監督。中伊豆町で没、80歳。87年蔭谷紅児記念館が新発田市に開館。挿絵画家、版画、詩人

深谷 徹 (ふかや・てつ/1913~1992 年)

前橋市生れ。1933年群馬師範学校卒。40年日本大学中退。53年渡仏。54年マドリッド美術学校でプレスコ画を学ぶ。55年帰国。創元会常任委員。52年日展で特選。日仏具象派協会を結成。56年国際具象派協会展に参加。65年日展で菊華賞、評議員。風景画、静物画を描く。東京で没、78歳。洋画家

吹田文明 (ふきた・ふみあき/1926 年~)

徳島県生れ。徳島師範学校卒。小学校で版画を手がけ、水性絵の具と油性絵の具を塗り重ねて心理空間を表現する画法を確立。1957年日本版画協会展恩地賞、翌年協会賞、会員。67年、サンパウロ・ビエンナーレで版画部門最高賞。徳島郷土文化会館の壁画をてがけるなど大型作品にも取り組む。版画家

福井 勇 (ふくい・いさむ/1908~1988 年)

京都府生れ。1928年京都府師範学校卒。30年関西美術院で都鳥英喜、黒田重太郎に師事。33年二科展入選。38、40、41年京都市展で京都市長賞。43年二科会会友。46年行動美術結成参加会員。68年京都精華短期大学教授。81年京都精華学園理事長。98年没、80歳。洋画家、美教

福井市郎 (ふくい・いちろう/1893~1965 年)

奈良県生れ。1921年神戸で洋画家グループ「コルポオ」を結成。この頃から銅版画を始める。21年日本創作版画協会などに出品。25~28年渡仏、サロン・ドートンヌに油彩で2回入選。28年国画会に出品。28年資生堂ギャラリーで個展。29年川西英らと「三紅会」結成。30年兵庫県美術家連盟創立参加。35年「神戸絵画館」画廊を主宰。65年没、72歳。版画家、洋画家

福井勝重 (ふくい・かつしげ/1910~1978 年)

兵庫県生れ。大阪美術学校卒、1952年京都市立美術大学修。東光会委員。63年関西水彩画協会を関西水彩画会創立委員。日本南画院理事。東京都美術館収蔵。1978年没、68歳。水彩画家、南画家

福井敬一 (ふくい・けいいち/1911~2003 年)

台北市生れ。1939年帝国美術学校西洋画科卒。36国画会展に入選、会友、のち会員。51年トキワ松学園講師。53~90年上高井美術会講師。53~90年武蔵野美術大学非常勤講師。90年、80歳トキワ松学園女子美術短大を退き、同校名誉教授。93~2000年JUJU4人展を80歳以上の4人で結成。ゆう画廊にて各自の実験作品を毎年発表。2002年自作品600余点を須坂市に寄贈。2003年紺綬褒章。2003年没、92歳。洋画家、版画家

福井謙三 (ふくい・けんぞう/1904~1938 年)

神戸市生れ。1929年東京美術学校洋画科卒、長原孝太郎、小林万吾、岡田三郎助に師事。28年帝展入選。29~32卒業と同時に渡仏。34年銀座資生堂

に帰朝第1回個展を、翌年新宿ノーヴにて第2回展を開催。春陽会には第7、12、13、15回等に出品。1938年没、34歳。洋画家

福井爽人（ふくい・さわと/1937年～）

北海道生れ。1962年東京藝術大学美術学部日本画科入学。65年同大学卒。67年東京藝術大学大学院修了、同大学非常勤助手。法隆寺金堂再現模写事業に参加。69年院展で奨励賞（白寿賞・G賞）（以後6回受賞）。73年東京藝術大学イタリア初期ルネッサンス壁画調査団に参加、ジオット壁画模写。74～78年山本丘人らの遊星展（資生堂ギャラリー）に参加。82年院展で日本美術院賞（大観賞）。83年日本美術院賞（大観賞）、院展同人。84年～より東京藝術大学助教授、91～2005年同大学教授。日本画家、美教

福井芳郎（ふくい・よしろう/1912～1974年）

広島市生れ。1928年帝展入選。31年に大阪美術学校を卒業して帰郷、広島洋画研究所を開設した。32年広島洋画協会の結成に参加。36年広島の洋画グループ二紀会の結成に参加。戦後は「ヒロシマの怒り」「黒い雨」など原爆記録画を制作。57年新協美術会の創立に参加。1974年没、62歳。洋画家

福井良之助（ふくい・りょうのすけ/1923～1986年）

東京生れ。1944年東京美術学校工芸科卒。54年自由美術協会展で佳作賞。55年孔版画を始める。59年初個展を開催。66年より度々渡欧。謄写孔版による孔版画。85年長谷川仁記念賞を受賞。相模原市で没、62歳。（出典 わ眼）版画家

福王寺法林（ふくおうじ・ほうりん/1920～2012年）

山形県生れ。田中青坪（せいひょう）に師事。院展を中心に出品、1971年内閣総理大臣賞。74よりヒマラヤの連作を発表。77年芸術選奨。84年芸術院賞。94年芸術院会員。98年文化功労者。2004年文化勲章。子に日本画家、福王寺一彦。2012年没、91歳。日本画家

福岡通男（ふくおか・みちお/1949年～）

北九州市生れ。1976年東京芸術大学油画科卒、78年同大学大学院修了。88年個展（泰明画廊）。89年セントラル美術館油絵大賞展大賞。90、93、08年個展（泰明画廊）、95年個展（東美特別展・東京美術倶楽部）。2002年個展（東美アートフェア・東京美術倶楽部）。洋画家

福沢一郎（ふくざわ・いちろう/1898～1992年）

群馬県生れ。東京帝国大学文学部中退。1924～31年渡仏。30年「一九三〇年協会」展出品、独立美術協会結成に参加。39年美術文化協会を設立。57年日本国際美術展で最優秀賞。76年群馬県立近代美

術館で回顧展。78年国立国際美術館で回顧展。多摩美術大学、女子美術大学で教授。91年文化勲章。92年没、94歳。洋画家

福島金一郎（ふくしま・きんいちろう/1897～1994年）

岡山県生れ。神戸仏語学校卒。1924年二科展入選。信濃橋洋画研究所に通う。28～32年渡仏。アカデミー・ランソンに学ぶ。ボナールに師事。41年二科会会員、のち理事。73年二科展で青児賞。81年二科展で総理大臣賞。東京で没、96歳。洋画家

福島繁太郎（ふくしま・しげたろう/1895～1960年）

東京生れ。1921年東大政治学科卒。21～22年英国に留学、仏に定住（1923～34）、ドラク、ルオー、ピカソ、マティス等現代絵画を蒐集、100点以上の福島コレクション。精選された作品よりなる。日本現代美術史上無視しえない影響を与えた。1955年4月「みつゑ」臨時増刊「旧福島コレクション」に76点掲載。パリで評論家ワルドマー・ジョルジュを主幹とした高級美術雑誌「フォルム」を1928年から数年発行、新人発見。戦後銀座で画廊フォルムを運営し有望な新人育成。美術評論家として新聞雑誌で活躍。著書に「印象派時代」（石原求竜堂、初版昭和18年）「エコール・ド・パリ」I・II・III（新潮社昭和23～26年）「フランス画家の印象」（毎日新聞社昭和25年）「ピカソ」（新潮社昭和26年）「近代絵画」（岩波書店・岩波新書昭和28年）「ルオー」（講談社・アートブックス昭和29年）。熱海市で没、65歳。（引用 東文研）美術評論家、コレクター

福島秀子（ふくしま・ひでこ/1927～1997年）

東京生れ。1943年文化学院女学部卒。50年美術文化展に出品。51年「実験工房」を結成。57年国立近代美術館で「前衛美術の15人」展に出品。アンフォルメル展にタピエ推薦出品。60年みつゑ賞1位。シェル美術賞2位。61年渡欧。91年佐谷画廊で個展。97年没、70歳。洋画家

福島瑞穂（ふくしま・みずほ/1936年～）

広島県生れ。1959年女子美術大学芸術学部洋画科卒。61年フランスへ留学（～1965年）。86年安井賞展佳作賞。独立美術協会会員、女流画家協会委員、女子美術大学大学院客員教授。洋画家

福島淑子（ふくしま・よしこ/1985年～）

長野県生れ。2009年武蔵野美術大学造形学部油絵学科油絵専攻卒。グループ展出品は03～04年、design festa vol.17～19。05～06年 GEISAI 8～10。06～08年シェル美術賞展（2007年グランプリ）。個展出品は08～10年東京・GALLERY MoMo、10年、丸善日本橋店。洋画家

福田 寛（ふくだ・かん/1901～1950年）

青森県生れ。県立八戸中学校から東京美術学校に進み、1921年卒業。香川県高松高等師範学校～函館女子校を経て、八戸高等女学校、青森女子師範学

校、44年八戸中学校で教鞭。34年十和田湖風景画会を組織、東奥展審査員。後輩の育成、指導にあたり、帝展にも数度入選。1950年没、50歳。洋画家、美教

福田剛三郎 (ふくだ・ごうざぶろう/1886～1977年)

青森県生れ。1905年上京し、水彩画研究所を主宰する大下藤次郎に学ぶ。さらに黒田清輝らが結成した白馬会に入会、07年中村不折、中川八郎らとともに展覧会を開催。のちに帰郷し当時日本画が盛んだった八戸市で最初に油彩画を始め、その普及につとめた。1977年没、91歳。洋画家、水彩

福田繁雄 (ふくだ・しげお/1932～2009年)

東京生れ。1956年東京芸術大学美術学部図案科卒。会社員を経て58年独立。単純化された造形に錯視など視覚の生み出す遊びを楽しむような、機知とユーモアに富んだデザインを特徴とした。70年開催の大阪万博の公式ポスター、75年ポーランド戦勝30周年記念国際ポスターコンクールで最高賞。85年のつくば科学博で「子供広場・さがし絵の森」や「UCC 館」の展示、オブジェ、玩具、彫刻を手がけた。2000年から日本グラフィック・デザイナー協会会長。72年ワルシャワ国際ポスタービエンナーレで金賞、86年毎日芸術賞、87年ニューヨーク・アートディレクターズクラブ ADC の「名誉の殿堂賞」。97年紫綬褒章。東京で没、77歳。グラフィック・デザイナー

福田新生 (ふくだ・しんせい/1905～1988年)

福岡県生れ。1922年福岡県豊津中学校卒。26年川端画学校修了。24年光風会展出品、25、26、27年光風賞。26年槐樹社出品、29年槐樹社の解散、旺玄社の会員、34年同会退会。40年一水会展で岡田賞、46年会員、50年会員佳作賞、52年会員佳作賞、一水会委員。48年日展で特選。55～56年渡欧。日展審査員をつとめ、60年日展会員、70年改組日展内閣総理大臣賞。80年日展参与。著書も多い。東京で没、82歳。洋画家

福田たね (ふくだ・たね/1885～1968年)

栃木県生れ。小学生の時に日本画を習い始める。1898年五百城文哉の画塾の寄宿生となる。1903年上京し不同舎に入り、先輩青木繁に出会い、ロマンスが芽生え5年間続く。06年「逝く春」を青木繁と一緒に制作。55年頃示現会展に初入選。四女の書家芥川ヤス子と「絵と墨の母子展」を銀座画廊で開く。たねは会社員と結婚し、経済的に恵まれ絵画を描き続けた。68年5月没、享年83歳。(佐)洋画家

福田豊四郎 (ふくだ・とよしろう/1904～1970年)

秋田県生れ。川端龍子・土田麦僊に学ぶ。京都絵専卒。吉岡堅二・小松均らと山樹社を結成、のち創造美術協会を創立、新制作協会に合体し、その会員となる。毎日美術賞受賞。1970年没、65歳。日本画家

福田眉仙 (ふくだ・びぜん/1875～1963年)

兵庫県生れ。久保田米遷に師事、橋本雅邦の教えを受けて東京美術学校に通う。1898年日本美術院の創立に参加。1903年内国勸業博覧会に出品。09年～11年中国に写生旅行、名峰・峨眉山にちなみ眉仙と号する。14年画壇から離れ、独自の道を歩む。48年兵庫県文化賞。戦災で所在不明となった中国旅行時の記録画《支那三十回巻》を再現した《中国三十絵巻》を1958(昭和33)年に完成。1963年没、88歳。日本画家

福田平八郎 (ふくだ・へいはちろう/1892～1974年)

大分市生れ。1915年京都市絵画専門学校卒。在学中、文展に入選。帝展、新文展、日展に出品。京都画壇の重鎮であるが、単純化された独特の画風を確立。30年美術研究会「六潮会」を結成。36年六潮版画を出版。61年文化勲章。京都で没、82歳。日本画家、版画

福田義之助 (ふくだ・よしのすけ/1890～1959年)

茨城県生れ。三宅克己に水彩画、藤島武二に油彩画を学ぶ。1914年文展に水彩画入選。20年日本創作版画協会展に木版画出品。28年帝展に油彩画入選。28年渡仏。43年白日会展に出品、会員。52年日展で特選・朝倉賞。茨城県で没、69歳。洋画家、版画

福地敬治 (ふくち・けいじ/1930～1997年)

大阪生れ。1955年大阪市立美術研究所終了。56年春陽会研究賞。68年春陽会会員。69～71年関西女子美術短大専任講師。69年渡欧、通算7年。パリ市立美術研究所終了。銀座美術ジャーナル画廊、三越本店等で個展。97年没、66歳。(出典 わ眼)洋画家、美教

福地復一 (ふくち・ふくいち/1862～1909年)

三重県生れ。東京美術学校図案科初代教授となり、のち日本図案会を創設。東京美術学校事件で校長岡倉天心排斥の中心。1909年没、47歳。明治時代の美術家、美教

福留章太 (ふくとめ・しょうた/1912～1988年)

高知市生れ。1938年東京美術学校油画科卒、南

薫造に師事。40年国展入選。43年国展で褒状。47年国画奨励賞。49年国画会会員。70年渡欧米。71～86年鳥取女子短期大学幼児教育学科教授。鳥取県で没、75歳。洋画家、版画、美教

福永公美 (ふくなが・こうび/1872～1934年)

東京生れ。幼時に狩野派を学び、南宗派の中村芳谷より絵の師事を受ける。日本銀行に勤める傍ら、浮世絵師の豊原国周に師事。1894年日本青年絵画協会・絵画共進会で三等褒状、95年日本青年絵画協会・絵画共進会で三等褒状。尾形月耕を慕って門下。1901年鏑木清方や山中古洞、須藤宗方ら烏合会を結成。1901年秋日本絵画協会・日本美術院連合絵画共進会で一等褒状、02年同会において二等褒状、04年セントルイス万国博覧会にて一等銀牌。内国勲業博覧会でも極賞、褒賞。文展入選。浮世絵、日本画家

福原信三 (ふくはら・しんぞう/1883～1948年)

東京生れ。コロンビア大で薬学をまなび、1913年帰国。父とともに資生堂を経営、28年社長。中学時代から写真を学び、大田黒元雄らと「写真芸術」を創刊、独自の芸術写真論を展開した。資生堂画廊創立者。写真集に「巴里(パリ)とセイヌ」「光と其(その)諧調」。1948年没、65歳。資生堂画廊創立

福原ヘンリー (ふくはら・へんりー/1913～2010年)

カリフォルニア生れ。戦後、ニューヨーク州に住み花卉業を営む。独学で水彩画を学ぶ。個展や展覧会に出品。全国美術連盟水彩画展で最高賞。ピッツバーグ水彩画協会グラムバック賞。全国水彩画協会会員・ピッツバーグ水彩画協会会員。81年引退。2010年没、96歳。水彩画家

福本章 (ふくもと・あきら/1932～2011年)

岡山市生れ。1956年東京藝術大学美術学部油画科卒、大橋賞。58年油画専攻科を修了、同科副手。60年国際具象派展覧会出品。61～64年新樹会招待出品。63～81年国際形象展招待出品。64、69、75年日動サロン個展。67年で昭和会賞。67年渡欧し72年パリに移住。76年辻邦生の連載小説「時の扉」挿絵担当。85年辻邦生「雲の宴」挿絵担当。1990年立軌会に参加、2007年まで出品。98～2004年倉敷芸術科学大学芸術学部教授。00年第23回安田火災東郷青児美術館大賞、展覧会開催。01年大原美術館で「福本章」展開催。02年連載小説、山崎朋子「サンダカンまで」挿絵を担当。2011年没、79歳。洋画家、挿絵

福本春子 (ふくもと・はるこ/1904～1981年)

東京生れ。1944年熊岡美彦に師事。47年日展入選。54年二科展に入選。60年二科会展で特選。71年二科会会員。75年日動画廊で個展。女流画家協会委員を歴任。81年没、77歳。洋画家

藤井勘介 (ふじい・かんすけ/1947年～)

兵庫県生れ。1963年山南町立和田中学校卒。京都の増永彌太郎に師事。74年日本画家として独立。墨絵を独学で学ぶ。81年小松均に師事。88年東京で初個展開催。91年マシラ(日本猿)を描き始める。現在、京都在住、無所属。日本画家

藤井浩佑 (ふじい・こうゆう/1882～1958年)

東京生れ。不同舎を経て1907年東京美術学校彫刻科卒、第一回文展出品、以後出品を続ける。11年文展三等賞を四度受賞。16年日本美術院同人、以後院展に出品、36年文展審査員、院展を退き帝国美術院会員、37年帝国芸術院会員、50年日展運営会理事。1958年没、75歳。彫刻家

藤飯治平 (ふじい・じへい/1928～2005年)

西宮市生れ。1951年芦屋市の新制作神戸研究所に通い伊藤継郎に師事。53年京都大学経済学部卒。54年阪急百貨店美術画廊で個展。67年ソ連、中央アジア旅行、フランス留学。パリ大学美術考古研究所で建築史を学ぶ。71年石版画集「地中海」、86年「城のある街」刊行。72年兵庫県美術展に招待出品。73～78年安井賞展に出品、入選。日本橋三越本店、高島屋大阪店で個展。兵庫教育大学教授。油彩画、石版画手掛。2005年没、77歳。洋画家、版画

藤井二郎 (ふじい・じろう/1906～1992年)

大阪生れ。1925年川端画学校、信濃橋洋画研究所に学ぶ。27年二科展入選。28～32年渡仏、グラント・ショミエールに通う。32年二科展に滞欧作特陳。41年二科会会員。71年二科展で青児賞。79年二科展で文部大臣奨励賞。神戸山手女子短期大学芸術科教授。西宮市で没、86歳。洋画家、美教

藤井善助 (ふじい・ぜんすけ/1873～1943年)

滋賀県生れ。京都府立商業卒。大阪金巾製織、江商(のち兼松江商)、山陽紡績の創立役員。1904年生地滋賀県北五箇庄村村長。神崎郡立実業学校を創立。41年衆議院議員(当選3回、国民党)。中国古美術収集家、コレクションは藤井有鄰館(京都市)に展示。1943年没、71歳。コレクター、美術館

藤井達吉 (ふじい・たつきち/1881~1964年)

愛知県生れ。1912年フェウザン会、国民美術協会に創立会員。19年 高村豊周、岡田三郎助、長原孝太郎らと装飾美術家協会の結成。21年雑誌『主婦の友』に手芸の手ほどきについて連載。29年帝国美術学校設立時に図案工芸科の教授。32年豊田市で和紙工芸の指導。53~55年開館の愛知県文化会館美術館のため、自作、所蔵作品を愛知県に寄贈。1964年没、83歳。近代工芸の革新を志した工芸家、図案家。2008年碧南市藤井達吉現代美術館が開館。工芸家、**図案、版画、美教**

藤井 勉 (ふじい・つとむ/1948~2017年)

秋田県生れ。岩手大学教育学部特設美術科に進み、盛岡市を拠点として創作活動。1976年シェル美術展で佳作賞。77年昭和会展で優秀賞。80年安井賞展で入選。写実的な少女画をライフワーク。パリなど国内外の各地で個展を開催。盛岡市で没、69歳。**洋画家**

藤井一代 (ふじい・かずよ/1948年~)

東京生れ。師:深沢昭明。1971年白百合女子大学フランス仏文学科卒。2001年一明会展ボード賞。ヌーベル賞、02年一明会展内田晃賞、鈴木マサハル賞、03年一明会展金賞、05年創美展出品。白亜美術協会会員推挙(~'08年)。07年 個展、二人展、グループ展など多数開催、08年山根美神館作品收藏、現在無所属。**洋画家**

藤井外喜雄 (ふじい・ときお/1901~1994年)

石川県生れ。1917年大澤鉦一郎らと「愛美社」を結成。18年文展入選。21年二科展入選。23年渡欧、アカデミー・コラロッシに学ぶ。のちアカデミー・ジュリアンに学び、ソルボンヌ大学で舞台美術学ぶ。29、31年帝展に入選。77年東京セントラル美術館で個展。91年渡欧。94年没、93歳。**洋画家**

藤井令太郎 (ふじい・れいたろう/1913~1980年)

長野市生れ。1937年帝国美術学校本科西洋画科卒。53年春陽会賞。54年春陽会会員。55年武蔵野美術大学教授。57年日本国際美術展で神奈川県立美術館賞。77年安井賞選考委員。雄渾な筆致と堅固な画面構成で知られる。椅子の画家。東京で没、66歳。(出典 わ眼)**洋画家、美教**

藤井 蓮 (ふじい・れん/1979年~)

京都生れ。1998年、独学で絵を始める。2005年カラージュ貼り絵、ちぎり絵を始める。東京・熊谷守一美術館で個展。08年東京・ギャラリー広岡美術個展。0

9年東美アートフェア・ギャラリーで広岡美術個展。松屋銀座で藤井勘助と二人展。2012年、松屋銀座個展。京都在住。**洋画家、カラー、貼り絵、ちぎり絵**

藤江幾太郎 (ふじえ・いくたろう/1910~2001年)

神奈川県生れ。1927年横浜商業学校卒、~65年三菱鉱業株式会社定年退職。32年頃より松島一郎の指導を受ける。37年白日会展入選、56年会員。50年石井柏亭主催「双台社研究所」修了。62年日本山岳画協会会員。68年日本ヒマラヤ協会(HAJ)が設立、参加。「ネパール・シリーズ」を発表。2001年没、91歳。**洋画家**

藤江 孝 (ふじえ・たかし/1926~1991年)

京都生れ。1948年慶應大学工学部電気工学科卒。52年岩波映画製作所の嘱託となり、助監督。一方、彫刻家の団体である「造形研究会」に加わり、佐藤忠良に師事する。63年「ある化学プラントの記録」を最後に映画制作から離れ、65年、渡仏して彫刻活動に専念。82~83年までサロン・ド・メ、72、77、78年にはレアリテ・ヌーヴェール、74、78年にはサロン・コンパレゾン、同74~84年にはグラン・エ・ジュース・ド・オージュールデュイ、84年4月、ニューヨークのニッポンクラブギャラリーで個展を開き、84年11月東京新宿三井ビル・ロビーで「藤江孝の木遊展」を開催。同85年、東京渋谷の西武百貨店で「藤江孝の木遊展PART2」を開き、同80年、フランス・アルゴン・フィルムの寺山修司作品「上海異人娼館」の演出協力、友人小澤征爾の指揮によるヘネシー・オペラ「マノン・レスコー」の美術コーディネーターなど、求められて映画・舞台美術も手がけた。東京で没、64歳。**彫刻家**

藤江 民 (ふじえ・たみ/1950年~)

富山県生れ。1973年明治大学文学部卒。75年日本版画協会展新人賞。75年白樺画廊個展。77年まで版画制作。以降は和紙にオリジナル手法で制作した絵画、キャンバスに描いた絵画が主体。東京・村松画廊、ギャラリー手、ギャラリーなつか、ギャラリートキ、福井・アートサイト、富山・ギャラリーナウ、マイルストーンアートワークスなどで個展開催。1978年日本国際美術展、「81富山の美術」展(富山県立近代美術館、84、86、88、90、91年にも出品)。**版画家、洋画家**

藤岡節子 (ふじおか・せつこ/1941年~)

東京生れ。1963年女子美術大学短期大学卒、手塚治虫プロダクション入社 アニメーション美術に30年関わる。2000年新構造展会員。06年石津節子から藤岡節子となる。12年新構造千葉支部展「共存」特

選。17年新構造千葉支部展「マテラ迷路Ⅱ」で千葉県立美術館長賞。17年木更津わたくし美術館で個展。**洋画家**

香庵で個展。18年美術展「藤崎孝敏の芸術」沼津市立美術館モン ミュゼ(沼津)。**洋画家**

藤岡 一 (ふじおか・はじめ/1899～1974年)

福岡県生れ。県立中学明善校卒。上京、川端画学校に通う。27年東京美術学校西洋画科卒。29～33年渡仏。帰国後、独立展に出品。41年独立美術協会会員。67年同会で児島賞。資生堂ギャラリーで12回個展。福岡市で没、75歳。**洋画家**

藤崎 眞 (ふじさき・まこと/1906～1948年)

福岡市生れ。神戸高等商船学校入学。汽船実習などで欧米を見学、絵画の道を志す。1934独立展入選、児島善三郎を知る、以後も入選を重ね、46年会友。40年福岡県美術協会創設参加、戦後は西部美術協会設立参加、会の運営に尽力。また、戦後は新興美術展に出品。1948年没、42歳。**洋画家**

藤川栄子 (ふじかわ・えいこ/1900～1983年)

高松市生れ。奈良女子高等師範学校中退。1923年彫刻家藤川勇造と結婚。安井曾太郎に師事。27年「一九三〇年協会」展に出品。33年婦人美術協会を設立。二科展に27年以降生涯通じ出品。46年女流画家協会創立。47年二科会会員、82年二科展総理大臣受賞。東京で没、83歳。**洋画家**

藤沢典明 (ふじさわ・のりあき/1916～1987年)

福井県生れ。1935年福井師範学校卒。36～46年新制作派展に出品。47～51年美術文化協会展に出品、同会会員。55年二科展で二科賞。59年二科会会員、のち理事。86年二科展で総理大臣賞。70年和光大学教授。85年福井県立美術館で回顧展。東京で没、71歳。**洋画家、美教**

藤川光次 (ふじかわ・こうじ/1907～1971年)

1907年生れ。帝展、文展に出品、日展で菊華賞、委嘱。新世紀美術協会会員。弦屋光溪の父。1971年没、64歳。**洋画家**

藤島英輔 (ふじしま・えいすけ/1878～1956年)

下関市生れ。1894年頃上京、洋画研究会紫瀾会を組織。太平洋画会研究所に学ぶ。1905年太平洋画研究所委員。13年日本水彩画会創立に参加、評議員。1927年名古屋市立工芸学校教鞭を執る。戦後に中部水彩協会を創立。名古屋市で没、78歳。**洋画家、水彩、美教**

藤川勇造 (ふじかわ・ゆうぞう/1883～1935年)

高松市生れ。1908年東京美術学校彫刻科卒、フランスへ留学。09年アカデミー・ジュリアンに入学し、10年頃ロダンの助手となる。16年帰国、二科会の彫刻部で指導的役割を果す。29年二科技塾を設立して菊池一雄、堀内正和ら後進を育成。35年帝国美術院会員に推された。東京で没、51歳。主要作品『シュザンヌ』(1909, 東京国立博物館), 『ブロード』(13, 東京国立近代美術館), 『兎』(16, 同), 『マドモアゼル S』(23)。**彫刻家**

藤島武二 (ふじしま・たけじ/1867～1943年)

鹿儿岛県生れ。1890年曾山幸彦ら洋画を学ぶ。白馬会創立会員。1902年頃「天平の面影」制作。05年文部省留学、渡仏、渡伊。08年頃「黒扇」制作。10年東京美術学校教授。12年本郷洋画研究所開設。24年帝国美術院会員。37年文化勲章受章。東京で没、75歳。(出典 わコレ)**洋画家、美教**

伏木田光夫 (ふしきだ・みつお/1935年～)

北海道生れ。1953年原精一に師事。57年武蔵野美術学校西洋画科卒。帰省、制作に没頭。62年全道展会員。63年国画会国画賞。69年渡仏、サロン・ドートンヌ出品。トラブール国際グランプリ(リヨン)招待作家。75年より東京文芸春秋画廊にて隔年個展。89～92年全道展事務局長。87年日高支庁庁舎ロビーに陶板壁画「日高・海への讃歌」設置。97年札幌芸術の森美術館にて個展回顧展開催。99年札幌市民芸術賞。2006年北海道文化賞。**洋画家、壁画**

藤島 茂 (ふじしま・しげる/1914～1990年)

札幌市生れ。札幌市豊水小学校高等科卒、1940年松村外次郎に師事する。42年第二科展入選。46年再興された二科展に出品。52、58年二紀展褒賞。61、71年同人賞、会員、78年宮本賞、79年文部大臣賞、二紀委員。木彫、石彫、塑像と多彩な技法を修得し、60年神奈川県鷹取山磨崖仏を制作、81年には杉並区阿佐谷世尊院内弘法大師像、88年には豊島区金剛院弘法大師像を制作。シャモ、牛等の動物を得意とした。横須賀市で没、76歳。**彫刻家**

藤崎孝敏 (ふじさき・こうびん/1955年～)

熊本県生れ。27才独学で油絵を描きはじめる。1986年毎年銀座にて個展。87年渡欧、放浪しながら制作。93年アートミュージアム銀座70余点回顧展、画集刊行。2002年東急 Bunkamura ギャラリー(渋谷)文化財メインギャラリーにて個展、詩画集出版。12年枝

藤島 奨 (ふじしま・しょう/1915～2002年)

東京生れ。1946年名古屋市立第四高等女学校で教鞭をとる。47年一水会展入選、53年一水会賞、54年会員、60年委員、77年常任委員、95年運営委員。49～70年愛知県立旭丘高等学校で教鞭をとる。50年日展入選。69年改組日展特選。76年特選、83年日展会員、87年会員賞、92年評議員、96年参与。70年文化庁主催日本代表作家展。河合塾美術研究所

に勤務のちに所長。78～92年名古屋女子大学教授。79年愛知県芸術選奨文化賞。98年愛知県文化功労者。99年個展(電気文化会館ギャラリー, 名古屋)。2002年没、87歳。2008年、個展-遺作展(電気文化会館ギャラリー, 名古屋)。洋画家、美教

藤島大千 (ふじしま・だいせん/1965年～)

東京生れ。1988年高山辰雄に師事。91年～入選12回。97年日展特選、02年日展特選。2003年から無鑑査出品。上野松坂屋で個展。15年日展準会員、16年日展会員。日本画家

藤田 修 (ふじた・おさむ/1953年～)

横須賀市生れ。1979年多摩美術大学絵画科油画専攻卒。85年神奈川県美術展(85、89年特別奨励賞。88、91年特選。94年神奈川県立近代美術館賞)90年日本国際美術展・ブリヂストン美術館賞、2010年個展「藤田修—深遠なるモノログ」(横須賀美術館)写真製版によるフォトエッチングの上に、エッチングやアクアチントなどの技法を行う。版画家

藤田謹三 (ふじた・きんぞう/1916～1990年)

北海道生れ。米国国際大学卒。関東軍所属南部美術報国際隊員、報道画家。1964年ローマン派美術協会創立主宰。71年国際海洋画家協会創立。77年内閣総理大臣賞(ローマン派美術協会展)。82年東京都知事賞(ローマン派美術協会展)。1990年没、73歳。洋画家

藤田金之助 (ふじた・きんのすけ/1902～1977年)

大阪生れ。最初は日本画を志、庭山耕園塾や京都市立美術工芸学校、次いで小林古径のもとで学んだ。1931～36年石丸一らと大阪の前衛グループロボット洋画協会創立に加わる。38年より九室会に参加。57年視力が低下。藤田は馬が好きで、終生繰り返し描きました。『ドン・キホーテ』を題材にしたものも多く、《ロシナンテとダブルの合唱》より2年前に、油彩画《焼け跡のドン・キホーテ》(当準備室所蔵)を手掛け、76年にも、ドン・キホーテの連作を描いています。1977年没、75歳。洋画家

藤田 謙 (ふじた・けん/1973年～)

愛知県生れ。1993年東京芸術大学美術学部工芸科入学。97年同彫金専攻卒。99年同大学院美術研究科工芸専攻彫金修了、彫金研究室非常勤助手(～2003年)。00～04年現代工芸美術展(東京都美術館)出品、00年記念賞、04年現代工芸賞受賞。02～03年、日展出品。彫金家

藤田孝屯 (ふじた・こうとん/1933年～)

愛知県生れ。1955年愛知学芸大学美術科卒。53

年光風会展、日展に入選。65年光風会会員、81年光風会評議員。75、80年日展特選。79年中日展大賞。87年愛知県芸術文化奨励賞。洋画家

藤田太郎 (ふじた・たろう/1901-1944年)

高知県生れ。1935年国画奨励賞、会友。南無美社結成に参加。1944年没、43歳。洋画家

藤田重夫 (ふじた・しげお/1903～1978年)

高松市生れ。信濃橋洋画研究所に学ぶ。小出檜重に師事。新世紀美術協会会員。大阪で没、75歳。洋画家

藤田慎一郎 (ふじた・しんいちろう/1920～2011年)

東京生れ。1938年旧制広島県立福山誠之館中学校卒業。大原美術館に就職。50年同美術館20周年記念行事を開催、梅原龍三郎、安井曾太郎、浜田庄司、河井寛次郎、武者小路実篤、志賀直哉、柳宗悦等を東京から招き、公開の座談会等が行われ、学芸員として諸行事の進行に務めた。以後、大原総一郎の片腕として、展覧会の企画実施、コレクションの拡充のための作品購入にあたった。51年「現代フランス美術展(サロン・ド・メ日本展)」(日本橋高島屋)が開催、戦後のフランス美術が紹介されたことから、その出品作6点を購入。国内外の現代美術の収集に力を入れた。現代美術収集は、戦後から現代につらなる国内美術館における先駆的な活動として特筆される。61年同美術館の副館長、64年に館長。在職中は、近現代絵画をはじめ、民芸、工芸、古美術等にわたる広範な領域のコレクションの充実、展示室の拡大にも積極的にあたり、新館(現在の分館、61年完成、陶器館(現在の工芸館、62年月完成)。本館増設(現在の本館新展示室。98年館長を退任、相談役に就任。2002年に相談役を退任。91年全国美術館会議の会長。80年フランス政府よりシュヴァリエ芸術文化勲章。81年文部大臣表彰。2011年没、91歳。30年間、大原美術館長

藤田嗣治 (ふじた・つぐはる/1886～1968年)

東京生れ。東京美術学校西洋画科卒。白馬会に入選。1913年渡仏。モディリアニ、スーチンらと交友。33年サロン・ドートヌ会員。二科会会員。戦争記録画を制作。帝国芸術院会員。55年仏国籍を得る。フランスで没。81歳。(出典 わ眼)洋画家

藤田藤四郎 (ふじた・とうしろう/1904～1990年)

兵庫県生れ。1927年神戸高等商業卒。28年版画制作。29年春陽会展に版画出品。31年日本版画協会出品。32年日本版画協会会員。32年「艸

園会」に加わる。39年春陽会展で春陽会賞。40年春陽会会員。46年朝日美術展で朝日新聞社賞。57年大阪府芸術賞。65年渡欧。74年国立現代美術館推進協議会代表77年国際美術館を開館の中心人物。関西創作版画草分け。大阪で没、85歳。**版画家**

藤田文蔵 (ふじた・ぶんぞう/1861～1934年)

鳥取県生れ。国沢新九郎の彰技堂をへて、1876年工部美術学校に入学、ラグーザに彫刻を学ぶ。肖像彫刻で知られ、東京美術学校(現東京芸大)教授や女子美術学校(現女子美大)初代校長をつとめた。1934年没、74歳。歳。作品「陸奥宗光像」。**彫刻家**

藤田吉香 (ふじた・よしか/1929～1999年)

福岡県生れ。1955年東京芸術大学美術学部芸術学科卒。59年国画会展入選し、国画賞、60年会友。62～66年渡西、サン・フェルナンド国立美術学校に学ぶ。模写に専念し、西洋絵画の古典技法を研究。67年国画会展でサントリー賞、会員。68年昭和会優秀賞。70年安井賞展安井賞。80年松屋銀座、京都高島屋で個展。81年宮本三郎賞。87年高島屋で個展。67～70年女子美術短期大学講師、69～73年東京芸術大学非常勤講師。91～98年京都造形芸術大学教授、98年同大学名誉教授。国画会会員。横浜市で没、70歳。**洋画家、美教**

藤田吉香 II (ふじた・よしか/1929～1999年)

福岡県生れ。1949年松田画塾で松田実に師事。55年東京藝術大学美術学部芸術学科卒。59年第33回国画会展で国画賞。60年国画会会友。62年スペインに留学、サン・フェルナンド美術学校に学ぶ。66年帰国。67年第41回国画会展でサントリー賞、同会会員。女子美術短期大学講師(70年まで)。68年第11回安井賞展に出品。昭和会展で優秀賞。70年第13回安井賞展で安井賞。70年東京藝術大学講師(73年まで)。81年第1回宮本三郎賞。以後、国画会展、日本秀作美術展、国際形象展、現代美術選抜展、明日への具象展などで活躍。99年5月25日没、享年70歳。(佐)**洋画家、美教**

藤田龍児 (ふじた・りゅうじ/1928～2002年)

京都市生れ。1945年同志社工業専門学校を中退。51～54年大阪市立美術研究所に学ぶ。61年美術文化協会会員。62年美術文化協会常任委員。63年美術文化会員賞。89年星野画廊で個展。91年読売新聞日曜版「日本の四季」に紹介。2002年没、74歳。04、19年星野画廊で遺作展。**洋画家**

藤野一友 (ふじの・かずとも/1928～1980年)

東京生れ。慶應義塾大学を中退し、文化学院大学部美術科入学、村井正誠に学ぶ。1951年二科展入選し、二科会に出品。50年代読売アンデパンダン展に出品。54年瀧口修造の紹介、タケミヤ画廊で個展。装丁、挿絵、舞台美術。同人誌に、小説や詩を発表。劇の台本や演出、映画制作、64年国際実験映画祭特別賞。57～65年京浜学園(現・京浜女子学園)附属小学校図画科講師。1980年没、51歳。藤野は、中川彩子の名前で、SM雑誌やエロ小説等に官能的なイラストを描いた。**洋画家、挿絵、装填、美教**

藤野天光・天光 (ふじの・しゅんせい・てんこう/1903～1974年)

群馬県生れ。1928年東京美術学校彫刻科塑造部卒、北村西望に師事し、29年帝展入選、38年文展特選。47年日本彫刻家連盟設立に参加。48年千葉県美術会を結成、常任理事、66年理事長。70年会長を兼任。62年日展文部大臣賞、65年日本芸術院賞。69年日展理事、73年評議員。75年勲三等瑞宝章。千葉県立美術館建設に尽くした。写実主義的な作風で、師の西望が長崎市に「平和記念像」を制作する際に筆頭助手を務めた。主な作品に「鉄工」「古橋選手の像」「輝く太陽」。平成15年遺族により作品346点が故郷の館林市に寄贈された。1974年没、71歳。**彫刻家**

藤彦衛門 (ふじ・ひこえもん/1897～1968年)

岡山県生れ。県立高梁中学を卒業後、1923年東京美術学校西洋画科卒。研究科に進む。25年帝展入選。以後帝展、新文展に入選を繰り返した。37年の「皇后陛下横須賀海軍病院行啓」が宮内省買上げ。42年新文展無鑑査出品。43年光風会会員。高梁市の順正短期大学教授。1968年没、71歳。**洋画家**

藤間 清 (ふじま・きよし/1920～1993年)

神奈川県生れ。1943年東京美術学校油画科油画科卒。50～65年自由美術家協会会員。平凡社の『世界美術全集』編集部勤務。75年山梨県白洲町に別荘兼アトリエを構え、休暇に制作。海外の遺跡や美術館などを訪れ、それらをモチーフにした幾何学的な構成による作品を発表し続けた。1993年没、73歳。**洋画家**

藤牧義夫 (ふじまき・よしお/1911～1935年)

群馬県生れ。1927年上京、図案工房に勤務。29年頃版画を始める。31年春陽会展に出品。日本版画協会展に出品、入選。32年小野忠重らと「新版画集

団」を結成。33年帝展入選。34年国画会展に入選。
34年墨田川絵巻の制作開始、35年完成。35年失踪、
24歳。版画家

藤 雅三 (ふじ・まさぞう/1853～1916年)

大分県生れ。南画を学ぶ。1975年工部美術学校
に入学、カペレッティ、フォンタネージに師事。82年
同校修。久米桂一郎らを指導。85年工部省留学生渡
仏。ラファエル・コランに師事。セーブルで陶器研究。
のち、渡米、陶芸会社で図案主任。NY近郊で没、6
3歳。洋画家

藤松 博 (ふじまつ・ひろし/1922～1996年)

長野県生れ。1945年東京高等師範学校卒。兵庫
師範学校文部教官。49年「読売アンデパンダン展出
品。57年タケミヤ画廊で個展。63年南天子画廊で個
展。57年「前衛美術の15人展」東京国立近代美術館。
59～61年渡米、ニューヨーク近代美術館研究員。シ
ルエット風の作品、「旅人」の連作。個展中心に発表。
名古屋芸術大学客員教授。96年没、74歳。洋画家、
美教

藤村喜美子 (ふじむら・きみこ/生誕年不詳～)

1965年芸術新潮が選ぶ「日本現代アート女流画家
5人」の一人。68年NYに移り住み、個展、展覧会で
精力的に作品を発表。建築家、ピーター・マリノとのコ
ラボレーションも多く、ジョルジオ・アルマーニ邸(ミラ
ノ)の壁画やNYのヴァレンティノ/ショールームも担
当。2003年スイスのチューリッヒにあるマナー美術館
にて、30点以上が永久保存、常設展示。NYで開催
されたカウ・パレード(2000年)、フローレンス・ビエン
ナーレ(2007年)に出展。現在は、NY在住。洋画家

藤村知子多 (ふじむら・ちねた/生没年不詳)

紫泉と称す。1893年頃中丸精十郎の画塾で洋画
を学ぶ。大下藤次郎に出会う。95年明治美術会に墨
画を出品。以降油画出品。98年東京美術学校に入
学。1900年パリ万国博覧会に「海辺」を出品、渡仏。
04年帰国。洋画家

藤本詢子 (ふじもと・あやこ/1985年～)

大阪生れ。2011年京都造形芸術大学修士課程芸
術表現専攻洋画領域修了。15年うたづ Art Award
2015 大賞、Young Creators Award 2015 優秀賞。14
年ホルベイン・スカラシップ奨学生認定。10年松陰芸
術賞、ALBION AWARDS 2010 銀賞受賞。18年個展
「藤本詢子展 -inner confiture-」(そごう大宮店、埼玉)。
洋画家

藤森静雄 (ふじもり・しずお/1891～1943年)

久留米市生れ。1910年上京して白馬会洋画研究
所に通う。11年東京美術学校西洋画科に入学。13
年恩地孝四郎、田中恭吉と「月映」の創刊を企て、木
版画を始める。18年日本創作版画協会の創立に参
加。31年日本版画協会の創立に参加。飯塚市で没。
52、53歳。版画家

藤本韶三 (ふじもと・しょうぞう/1896～1992年)

長野県生れ。関東大震災後、美術雑誌「アトリエ」
「画論」などの編集に従事。1943年の戦時統制によ
る雑誌統合で大下正男と日本美術出版(のち美術出
版社)を設立。戦後、独立して三彩社をつくった。東京
で没、95歳。大正・昭和時代の出版人。「アトリエ」「三
彩」「古美術」等の美術雑誌を刊行、美術ジャーナリ
スト、美術出版社設立

藤本鉄石 (ふじもと・てっせき/1816～1863年)

岡山市生れ。岡山藩の小吏の子として東川原村(岡
山市)に生まれる。25歳で脱藩し、京都を中心に諸国
を遊歴する。国学をはじめ諸学に通じ、詩や画に文
人的才能を発揮した。画は岡山時代に伊藤花竹に学
んだ以外、特定の師はいない。強い筆力の中に漂う
瀟洒な雅致が持ち味である。倒幕を目指した天誅組
の総裁として戦死。幕末の志士・書画家

藤本東一郎 (ふじもと・とういちろう/1913～1998年)

静岡県生れ。1940年東京美術学校油画科卒。大
橋賞受賞。46年光風会会員。47年光風特賞。72年
理事、94年常任理事。46、47年展特選。50年日展
会員。53～55年渡仏、アカデミー・グランド・シヨミエ
ールに学ぶ。93年日展理事。81年改組日展で文部
大臣賞。93年日本芸術院会員。98年没、85歳。洋
画家

藤森兼明 (ふじもり・かねあき/1935年～)

富山県生れ。1958年金沢金沢美術工芸大学洋画
科卒、高光一也に師事。56年日展入選、80、84年
日展改組で特選。95年審査員。96年光風会展辻永
記念賞。2001年日展会員賞。04年日展内閣総理大
臣賞、08年日本芸術院賞、日本芸術院会員、14年
改組新日展副理事長就任(～15年度・18年度～)、5
7年光風会入選、96年辻永記念賞、光風会副理事
長・常務理事。02、08年紺綬褒章。洋画家

藤森悠二 (ふじもり・ゆうじ/1947年～)

東京生れ。1970年千葉商科大学商経学部卒、なら
びに寛永寺坂美術研究所修了。大学在学中に太平
洋美術学校にて大谷幸一に師事。69年に太平洋美

術会展で「遠い視線」が初入選。72年スペインベジャスアルテス・サンフェルナンド美校修了。76年日本肖像芸術会展受賞。77年新彩美術会結成。78年日本肖像芸術会展特選。89年一創会会員。**洋画家**

藤山愛一郎（ふじやま・あいいちろう/1897～1985年）

東京生れ。1934年大日本製糖社長。41年東京商工会議所・日本商工会議所会頭。戦後、公職追放、57年岸信介内閣の外相、日米安全保障条約改定。58年衆議院議員(当選6回、自民党)。1985年没、87歳。絵も描いた。日本商工会議所**会頭、美術愛好家、洋画家**

藤山ハシ（ふじやま・はし/1941年～）

鹿児島市生れ。独学で絵を描く。1968年「人形」シリーズで注目。68年東京セントラル美術館で個展。87年画集出版。87年横浜市民ギャラリーで自選展開催。椿近代画廊(新宿)、ギャラリーヤコブ(銀座)、アートギャラリー環/企画、地球堂ギャラリー(銀座)、アートギャラリー環/企画(京橋、銀座)で個展。**洋画家**

藤谷庸央（ふじや・やすお?/1896～1963年）

愛媛県生れ。1916年愛媛師範学校卒。塩月桃甫に師事。19年東京美術学校に入学。24年愛媛師範、大学に移行し定年まで教える。白塔社・蒼原会愛媛支部・金葉会・愛媛美術協会・愛媛美術教育研究会(後に連盟)の創設および運営の中核。55年愛媛県教育文化賞。1963年没、68歳。**洋画家、美教**

藤原 祥（ふじわら・しょう/1950年～）

松江市生れ。スペイン古典の内面の劇性表現に強く惹かれる。79年サン・フェルナンド国立美術学校卒。島根県立博物館、ギャラリーHera(ストックホルム)で個展。新潟絵屋で2007, 08, 12, 17年個展。**洋画家**

藤原成憲（ふじわら・せいけん/1902～1998年）

大阪生れ。1917年京城工芸学校陶画科中退。日本画、洋画を独学で学び、児童書等の挿絵で生計。24年大阪に転居、その後風刺漫画雑誌「大阪パック」の編集長。29年に「大阪毎日新聞」に連載された「大阪夏の陣従軍記」の挿絵を担当。42～45年北京翼賛会文化部長。雑誌「商店界」(誠文堂新光社)に「あきない史」を連載、また一般向けに絵画教室を設け俳画等を指導、この教室を後に「藤白会」(とうはくかい)と命名し、指導に専念した。75年大阪市民表彰を受ける。兵庫県で没、91歳。**日本画家**

布施信太郎（ふせ・しんたろう/1899～1965年）

山形県鶴岡市生れ。1914年仙台北学院中退、上京、斎藤与里に師事。15年太平洋画会研究所に学ぶ。24, 27, 28年帝展入選。太平洋展に出品。27年太平洋画会会員。戦時中まで太平洋美術学校教授。日本壁画会、南洋美術協会の結成に参加。53年太平洋画会代表。東京で没、65歳。**洋画家、美教**

布施悌次郎（ふせ・だいじろう/1901～1921年）

仙台市生れ。1925年仙台東亜学院専門部英文学部卒。上京、26年太平洋画会研究所に通う。太平洋展に出品を続け、28年太平洋画会賞、会員に推挙。31年太平洋画会委員。57年太平美術会に改称、同会委員。58年太平洋美術学校教授。後、太平洋美術会会長。東京で没、90歳。**洋画家、美教**

不染 鉄（ふせん・てつ/1891～1976年）

東京生れ。千葉県富浦の西方寺で修行。芝中学校、攻玉社中学校、大正大学に学ぶ。画を志し、山田敬中に師事。20歳代初め日本美術院研究生。写生旅行のため伊豆大島と式根島に行き、突然そこで漁師となって三年間滞留した。京都市立絵画専門学校入学、在学中に特待生、1919年帝展で入選。23年京都絵専を首席で卒。在学中は上村松篁と交友、『一遍上人絵伝』を模写。帝展には伊豆を題材にした作品を度々出展。日本美術展では銀牌。46年図画の教員を務めていた縁から奈良県の正強中学校理事長に招かれ、ついで正強高等学校(現・奈良大学附属高等学校)校長を務める。52年に正強学園理事長を退任した後は画業に専念。悠々自適の晩年を送った。1976年没、84歳。**日本画家**

二重作龍夫（ふたえさく・たつお/1916～1988年）

水戸市生れ。熊岡美彦の画塾に学ぶ。東光会展に出品、1939年東光賞。36年文展入選。42年国画会展で褒状。57年日展で特選。69年ル・サロンで銅賞、70年銀メダル、71年金メダル、72年芸術院賞。ニースのフランス国際展グランプリ。ニューヨーク国際展で金賞。フランス国際展で国際芸術絵画大賞。75年太陽美術協会を創立、会長。77年日本橋三越で個展。富士宮市で没、72歳。**洋画家**

二重作龍夫II（ふたえさく・たつお/1916～1988年）

茨城県生れ。熊岡美彦の画塾に学ぶ。1936年昭和11年文展に初入選。38年第7回東光会展で東光賞。42年第17回国画会展で褒状。48年国際展招待。55年新世紀美術委員。57年黒田賞。58年日展特選。59年日展無鑑査。69年ル・サロンで銅賞。69年二ス仏国際展でグランプリ賞金メダル1位。ニューヨーク国際展金賞。70年ル・サロンで銀賞。71年ル・サロン

で金賞。コロア賞。第三文明大賞。全線絵画大賞。72年フランス芸術院賞。フランス国際芸術絵画大賞。75年太陽美術協会設立。77年日本橋三越で個展。88年10月31日没、享年72歳。(佐) **洋画家**

二木直巳 (ふたき・なおみ/1953年～)

東京生れ。1977年武蔵野美術大学造形学部彫刻学科中退。89年イタリア・フィレンツェ滞在。86年頃から「Belvedere」と題する絵を描く。鉛筆と色鉛筆を使用し、線の集積によって作り上げられた画面からは無限の広がりを感じられる。パブリックコレクション：東京国立近代美術館、府中市美術館、国立国際美術館などに収蔵。 **現代美術家、鉛筆**

二木一郎 (ふたつき・いちろう/1956年～)

松本市生れ。1982年東京藝術大学美術学部日本画科卒、84年東京藝術大学大学院保存修復技術修了。84年修了制作でサロン・ド・プランタン賞。87年イタリア取材開始、88年イタリア・安曇野の風景を描く。89。91年春の院展入選。96年個展、以降個展30回開催。現在無所属。 **日本画家**

二見彰一 (ふたみ・しょういち/1932年～)

大阪生れ。1967年春陽会研究賞を受賞。71～88年春陽会会員。73～2011年日本版画協会会員。ドイツ中心にヨーロッパで銅版画家として活躍する。11年神奈川県立近代美術館で個展。13年静岡県立美術館で個展。(出典 わ眼) **版画家**

二見利節 (ふたみ・としとき/1911～1976年)

神奈川県生れの洋画家。井上三綱に師事。1933年春陽会、東光会に初入選。38年春陽会賞。38、39年と文展連続特選。41年新文展無鑑査。48年国画会会員。69年渡欧。紺綬褒章。76年没、65歳。湘南二宮町にふたみ記念館開館(出典 わ眼) **洋画家**

淵上旭江 (ふちがみ・きよっこう/1753～1816年)

岡山県生れ。備前・備中へ来訪した京都の大西酔月に画法を学び、20歳頃に当地を離れ、四国から九州へ渡り、長崎にて中国明清画を習得。その後、諸国を訪ねて制作活動を展開し、1794年大坂の江戸堀に居を構える。以来、鳴亭・画隠屈と称した舎亭に女流画家の鈴川玉簾と同居し、十時梅屋、皆川淇園ら一流の文人たちと交流する日々を過ごした。99年から諸国名勝を写生した画稿を整理し、各々に詩を賦した木版画集『日本勝地山水奇観』4冊を、続いて1802年後篇4冊を刊行。それは当時盛んになりつつあった旅行熱に拍車をかけ、後にその図の一部が歌川広重の名勝錦絵に利用されるほどの人気作とな

った。 **江戸時代中・後期の日本の絵師**

佛子泰夫 (ぶっし・やすお/1916～1992年)

東京生れ。1940年東京美術学校彫刻科卒。港区虎ノ門の俊朝寺住職をつぐ一方、43年新文展入選。47年日展に「女の首」を出品して以降、同展に出品を続け、51年第7回日展出品作「秋の女」で特選・朝倉賞。日本彫刻家協会にも出品。「月光」「寂光」など自然の趣を象徴する穏やかな作風を示した。東京で没、75歳。 **彫刻家**

筆塚稔尚 (ふでづか・としひさ/1957年～)

香川県生れ。1983年東京芸術大学大学院美術専攻版画終了。84、87年西武版画大賞展・優秀賞。87年中華民国国際版画ビエンナーレ・銀賞。90年現代の版画1990(渋谷区立松濤美術館)、94年毎日現代日本美術展・埼玉県立近代美術館賞。97年シャマリエール国際版画トリエンナーレ招待出品。 **版画家**

不動茂弥 (ふどう・しげや/1928～2016年)

兵庫県生れ。1948年京都市立絵画専門学校日本画科卒。1949～74年三上誠、星野真吾らとパンリアル美術協会を結成。81年、個展(大阪府現代美術センター)。84～91年人人展出品。87年近代の潮流-京都の日本画と伝統展(京都市美術館。91年個展(ギャラリー16, 京都)。98年戦後日本画の革新運動-パンリアル創世紀展(西宮市大谷記念美術館)。2010年、「日本画」の前衛1938-1949(京都国立近代美術館、他)。2016年没、88歳。 **日本画家、パンリアル**

船井 裕 (ふない・ゆたか/1932～2010年)

神戸市生れ。1951大阪大学法学部に入学。54年[具体美術協会]結成参加、55年退会。55年[デモクラート美術家協会]、版画制作。57年デモクラート解散後は個展。58年～グレンヘン国際色彩版画[トリエンナーレ]、クラコウ国際版画[ビエンナーレ]、リュブリアナ国際版画[ビエンナーレ]国際的な版画展、コンクール出品。[リトグラフ]、[シルクスクリーン]、[コラージュ]等、多様な技法、素材を制作に取り入れ、一つの表現方法にとらわれない作品づくりを展開。2010年没、78歳。 **版画家、コラー**

船川未乾 (ふなかわ・みかん/1886～1930年)

京都生れ。大阪で廣瀬勝平に洋画を学ぶ。1907年上京して太平油画会研究所に学ぶ、中川八郎に師事。15年京都で個展開催。17年京都帝国大学集会所で個展開催。19年園頼三と詩画集を刊行。22年渡仏、グランド・ショミエール研究所に通う。エッチング研究。アンドレ・ロート研究所に学ぶ。ブラックの影響

を受ける。24年帰国。27年日本橋丸善で個展。京都で没、44歳。洋画家、装填、版画

舟木徳重（ふなき・とくしげ/1918～1995年）

東京生れ。1943年東京美術学校油画科卒。43年光風会展入選、48年光風賞、49年会員、評議員。日展には、同46年日展入選、岡田賞、無鑑査、出品委嘱、64年会員、76年評議員。東京で没、77歳。洋画家

舟木富治（ふなき・よしはる/1930～2012年）

福岡県生れ。1954年福岡学芸大学卒。54～63年自由美術家協会創立に参加、糸園和三郎、平野遼らの感化を受ける。読売アンデパンダン展や九州派展に加わり、地元美術振興に力を尽くす。73年福岡県美術協会理事。県展や市美展審査員も歴任。人間の内面を凝視しようとする画風を特色とする。2012年没、82歳。洋画家

舟越 桂（ふなこし・かつら/1951年～）

岩手県生れ。舟越保武の次男。1977年東京芸大大学院修了後、ロンドンに留学、銅版画をはじめる。木彫りの人物像で著名。95年中原悌二郎賞優秀賞。97年平櫛田中賞。2003年中原悌二郎賞。21年個展で毎日芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞。23年紫綬褒章。著作に「言葉の降る森」「舟越桂全版画 1987-2002」。彫刻家、版画、洋画

舟越直木（ふなこし・なおき/1953年～）

東京生れ。1978年東京造形大学絵画科卒。83年絵画作品個展。80年代彫刻に転じる。「第25回今日の作家展 かも座のしるし」(1989年、横浜市民ギャラリー)、「インサイド/アウトサイド日本現代彫刻の8人」(1998年、新潟県立近代美術館)、シリーズVII岩手の現代作家「舟越直木・阿部陽子」展(2000年、萬鉄五郎記念美術館)。彫刻家

舟越保武（ふなこし・やすたけ/1912～2002年）

岩手県生れ。1939年東京美術学校彫刻科塑像部卒。62年高村光太郎賞。67～80年東京藝術大学教授。72年中原悌次郎賞。73年大聖グレゴリオ騎士団長勲章。78年芸術選奨文部大臣賞。81～83年多摩美術大学教授。99年文化功労者。東京で没、享年89歳。彫刻家、美教

船坂芳助（ふなさか・よしすけ/1939年～）

岐阜県生れ。1962年多摩美術大学卒。76年文化庁在外研修員英国・米国で制作。86年国際交流基金よりインドネシアにてワークショップ個展。70年 東京

国際版画ビエンナーレ展で受賞。73年国際青年美術科展受賞。欧米の国際版画展出品。版画家

船崎光治郎（ふなぎき・こうじろう/1900～1987年）

兵庫県生れ。伊丹中学中退。日本画を志し、京都で川合玉堂に学ぶ。1918年上京。27年『権太日々新聞』に入社。31年日本版画協会展入選、32年会員。35年「新興美術家協会」結成に参加。40年『権太名勝八景』を刊行。42～65年木版画集『房総風物聚』制作。57年『御宿：船崎光治郎自刻版画誌No.1』を創刊。千葉市「版画を作る会」を発足。同会安西七郎、金子周次が参加。66年館山市で船崎光治郎木版画作品展覧会開催。千葉県で没、87歳。版画家

舟山一男（ふなやま・かずお/1952年～）

山形県生れ。1971年県展奨励賞。77年エコール・ド・ボザール卒業（パリフランス国立美術学校）、サロン・ド・ドートンヌ、サロン・ド・ラ・ナショナルに出品78～86年 独立展出品。79年日洋展出品。83年東京セントラル美術館油絵大賞展出品。90～94年ヴェガの会出品（渋谷・西武百貨店）。91～95年21世紀の視標展出品。92年林武賞展賛助出品（東京セントラル美術館）。92～97年みなと会出品（横浜・そごう）。93～94年俊洋展出品（日本橋・三越）。93～94年日本の絵画展出品。洋画家

文挾克明（ふばさみ・かつあき/1905～1971年）

栃木県生れ。1922年川端画学校に学ぶ。26年日本美術学校卒。高間惣七に師事。31～48年独立展に出品。50年自由美術協会会員。71年没、66歳。洋画家

普門 暁（ふもん・ぎょう/1896～1972年）

奈良市生れ。川端画学校に日本画、油彩画を学ぶ。個展を開催、石井栢亭に認められる。1918年二科展に初入選。20年未来派美術協会を結成。27年産業美術研究所を設立。大阪で没、76歳。（出典 わ眼）洋画家

普門 暁 II（ふもん・ぎょう/1896～1972年）

奈良市生れ。東京高等工業学校で建築意匠を学ぶ、中退し、川端画学校に日本画、油彩画を学ぶ。1918年太平洋画会展に出品。個展を開催、石井栢亭に認められる。1918年二科展に初入選。20年未来派美術協会を結成。21年大阪芸術院（求我洋画研究所）を設立、指導。27年産業美術研究所を設立。72年大阪で没、76歳。（出典 わ眼）洋画家

普門 暁III（ふもん・ぎょう/1896～1972年）

奈良市生れ。川端画学校に学ぶ。個展を開催、石井栢亭に認められる。1918年二科展に初入選。20年未来派美術協会を結成。21年大阪に自由美術研究所が設立、指導。27年東京に産業美術研究所を設立。37～43年年日大美術部の講師38年翌年主任。46年GHQの日本美術顧問。52年東京総合美術研究所を開設指導。前衛美術運動の先駆者。大阪で没、76歳。(出典 わ眼) 73年奈良県立美術館で回顧展。洋画家

ぶりお (ぶりお/1976年～)

ブラジル生まれ。日系3世、東京で育つ。都立高校在学時に自作グラフィックソフトでCGを描く。日本大学生産工学部電気工学科卒。パレットクラブ・イラストコース卒。セツ・モードセミナー卒。フィギュア、立体

古川三伸 (ふるかわ・さんしん/1911～1985年)

名古屋生れ。30年安藤洋画自由研究所に学ぶ。36年下郷羊雄らと「ナゴヤ・アヴァンギャルドクラブ」を結成。37年シュルレアリスム絵画グループ「トレビ」を結成。39年福沢絵画研究所に学ぶ。39年美術文化協会結成に参加。48年美術文化協会会員。58年新象作家協会。85年没、74歳。洋画家

古川重明 (ふるかわ・しげあき/1901～1956年)

宮崎市生れ。1921年宮崎県師範学校卒。小中学校の教師。56年まで盲学校講師。34年宮崎美術協会創立参加、日本水彩展に出品し入選を重ねた。日本水彩画会、戦後県支部長、会友。戦後の県水彩画の発展に貢献。1956年没、55歳。57年宮崎県立博物館で遺作展。水彩画家、美教

古川 弘 (ふるかわ・ひろし/1907～1977年)

埼玉県生れ。埼玉師範学校本科卒。1939年白日会会員。36～47年日本水彩画会展に出品。47年水彩連盟会員。67年日展菊花賞。75年日展会員。個展ヤマト画廊。渋谷ギャラリー・ジェイコ等で開催。埼玉県で没、69歳。水彩画家

古川吉重 (ふるかわ・よししげ/1921～2008年)

福岡市生れ。県立中学修猷館を経て、1943年東京美術学校油絵科卒。独立美術協会に出品、独立賞。63～76年NYに留まる。76年以降は日米を往復しながら個展活動。抽象表現主義とミニマル・アートとを折衷した独自の画風で注目を集める。97年新ワシントン空港の壁面を飾る現代美術作家に選抜。2008年没、86歳。洋画家

古川吉重 II (ふるかわ・よししげ/1921～2008年)

福岡市生れ。1935年中学修猷館入学。39年東京美術学校油画科入学。43年東京美術学校を繰上卒業。44年当仁小学校教師、46年香椎高等女学校で美術を担当。49年独立展で独立美術賞。58年グループ「野火」、「アートクラブ」に参加。62年代々木小学校退職し、63年NYで開催される世界美術家会議のオブザーバーとして渡米。63～76年NYにとどまり、64～68年第ニューイングランド展入選。73年新築ビルであるグレイスの社内食堂に壁画を描く。74年ソーホーのロータス画廊で個展。71年頃から始めたカンヴァスによるコラージュ作品発表。77年欧州巡遊、NYに帰る。92年福岡市美術館「古川吉重展」開催、国立国際美術館で「近作展11 古川吉重」が開催。2008年没、86歳。洋画家

古川龍生 (ふるかわ・りゅうせい/1893～1968年)

栃木県生れ。1924年東京美術学校日本画科卒。横浜市本牧中で図画を教える。24年日本創作版画協会展で木版画が入選。34年パリで開かれた現代日本版画展でルーヴル美術館購入。37～50年病気で帰郷。53年上京、「街」「海辺」などの連作を国内外の美術展に出品。神奈川県葉山生れで没、75歳。版画家

古沢岩美 (ふるさわ・いわみ/1912～2000年)

長崎県生れ。1927年本郷絵画研究所に学ぶ。寺田政明を知る。38年創紀美術協会を結成。39年美術文化協会を結成。47年日本アヴァンギャルド美術クラブを結成。美術文化協会展、日本アンデパンダン展等に出品。55年美術文化協会を退会。2000年没、88歳。洋画家

古嶋松之助 (ふるしま・まつすけ/生没年不詳)

洋画家。東城鉦太郎に師事。第二次大戦中、満州、中国北部中部に従軍画家として赴き、多くの軍事郵便絵はがきの原画を描いた。1941年第2回聖戦美術展、41～44年第5～8回海洋美術展に出品。(出典 わ眼) 洋画家

古田十郎 (ふるた・じゅうろう/1903～1994年)

札幌生れ。青山学院卒、米・ドルー新学校卒、牧師、教師、画家として活躍。青山学院中等部長。行動美術協会同人。ステンドグラスの制作。洋画家、ステンドグラス

古野由男 (ふるの・よしお/1909～1978年)

東京生れ。1930年「一九三〇年協会」展入選。32年東京美術学校区画師範科卒。53年浜口陽三らと日本銅版画協会を設立、会員。58年現代美術家協会会員。60年京都銅版画協会主宰。70年日本版画協会会員。63～70年京都市立美術大学非常勤講師。70～78年滋賀女子短大大学教授。京都で没、68歳。洋画家、版画家、美教

古野由男 II (ふるの・よしお/1909～1978年)

東京生れ。1932年東京美術学校図画師範科卒。32～51年島根県の旧制中学、新制高等学校に奉職し、51～69年までは京都市教育委員会、市立堀川高校、紫野高校で教え教育委員会指導主事。51年以降銅版画を始め、53年浜口陽三、駒井哲郎らと日本銅版画家協会設立会員。58年現代美術家協会会員。60年京都銅版画協会を主宰、京都版画家集団委員長。63年「SPACE8」現展委員賞。63～70年京都市立美術大学非常勤講師。68年日本合同版画展(NY)「SPACE11」出品。68年京都市文化功労者。70年日本版画協会会員。70年滋賀女子短期大学教授。53年日本美術教育学会会員、65年日本美術教育連合会会員、66年プラハ世界美術教育会議に日本代表参加。京都市で没、68歳。洋画家、版画家、美教

古橋悌二 (ふるはし・ていじ/1960～1995年)

京都市生れ。1986年京都市立芸術大学大学院構想設計科修士課程を修了。84年芸術集団「ダムタイプ(DUMB TYPE)」を結成、活動を開始、演出。この集団は、古橋を中心にデザイナー、作曲家、コンピューター・プログラマー、ヴィジュアル・アーティストなどによって構成され、インスタレーション、パフォーマンス、ビデオ、出版など、多彩なメディアを駆使して、表現を展開することが目的。88年パフォーマンス「PLEASURE LIFE」により京都市芸術新人賞を受賞。このパフォーマンスは、国内だけではなく、ニューヨーク、ロンドン、コペンハーゲン等でも上演。92年には、テクノロジーを駆使するはずの人間が、ロボット化していることを洗練された手法で表現したビデオドキュメント「pH」を発表、この作品も国内外で発表、上演され、イタリア、ドイツで受賞。95年読売演劇大賞選考委員特別賞、日本文化デザイン賞。1995年没、35歳。造形作家、メディア・アーティスト

古家 新 (ふるや・しん/1897～1977年)

兵庫県生れ。1920年京都高等工芸学校図案科卒。24年信濃橋洋画研究所で鍋井克之に師事。28、29年渡仏。29年全関西洋画協会会員。25、26年渡欧。35年二科展で特待。41年二科会会員。45年行動美術協会の創立会員。62年大阪府芸術賞。大阪で没、80歳。洋画家

古家 新 II (ふるや・あらた/1897～1977年)

兵庫県生れ。1920年京都高等工芸学校卒。21～41年まで大阪朝日新聞社に勤務。24年信濃橋洋画研究所で鍋井克之に師事。26年第13回二科展に初入選。28～29年渡欧。全関西洋画協会会員。33年全関西展に出品。36年第22回二科展で特待。40年紀元二千六百年奉祝展に出品。41年第28回二科展で会員。43年第6回新文展に無鑑査出品。戦後は二紀会の創立に参加。45年行動美術協会創立会員。61年大阪市民文化賞。62年大阪府芸術賞。77年11月29日大阪で没、享年80歳。(佐)洋画家

古屋正壽 (ふるや・せいじゅ/1885～1943年)

山梨県生れ。1908年山梨師範学校卒。11年東京高等師範学校卒。岩手、群馬師範等で教鞭。14年再興院展入選、巽画会、若葉会等に出品。29年日展で

特選。第15回展以後推選、無鑑査。山水を得意、山内多門亡き後は、川合玉堂の門に入り、堅緻な筆技、清新な画境を展開した。没年まで東京高等師範学校の教職にあつて、後進の指導にもあたつた。1943年没、58歳。日本画家、美教

降矢組人 (ふるや・そじん/1930年～)

山梨県生れ。1956年東京藝術大学美術学部絵画科卒。東横美術研究所勤務、所長。迎賓館赤坂離宮壁画天井画修復(～1974年)や高松塚古墳壁画再現研究員(～1976年)文化財修復。1980年代画業に専念。故郷の原風景、野の花や風景といった自然を描く。近年では海外での文化交流事業にも数多く参加。洋画家、文化財修復

古屋台軒 (ふるや・たいけん/1894～1941年)

東京生れ。川合玉堂及び籙木清方の門人。巽画会を経て玉堂の門人となった。橋口五葉、伊東深水、川瀬巴水に続く新人として、1922年渡辺庄三郎の渡辺版画店から新版画の作品「瞽女」、「越後獅子」などを発表している。27年同じく玉堂門人であった児玉希望、長谷川光孝、磯部草丘、田中針水、藤井霞郷、島春潮、鈴木有哉と台軒の8名が集まり、28年戌辰会が結成された。1941年没、48歳。浮世絵師、版画家

古谷博子 (ふるや・ひろこ/1961年～)

東京生れ。1986年多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻卒。88年同大学大学院修了。87年日本版画協会展 山口源新人賞。90年芸術家国内研修員。95年川上澄生美術館木版画大賞展・準大賞。2006年文化庁買上優秀美術作品。2008年高知国際版画ビエンナーレ準大賞。14年多摩美術大学美術学部絵画学科版画専攻教授。洋画家、版画、美教

古吉 弘 (ふるよし・ひろし/1959年～)

広島市生れ。1980年京都芸術短期大学卒。青木敏郎「大徳寺絵画研究所」に通う。88年花と女性美展グランプリ。横浜高島屋にて個展開催、以後隔年。95年東京日本橋三越本店にて個展開催、以後隔年。2005年米、アート・リニューアル・センター(ARC)国際公募人物部門一等賞。09年米アート・リニューアル・センター(ARC)グランプリ「ベスト・イン・ショウ賞。無所属。横浜高島屋友の会油絵教室・色鉛筆教室講師。アートマスターズスクール洋画科講師。洋画家

古野由男 (ふるの・よしお/1909～1978年)

東京生れ。1932年東京美術学校図画師範科卒。32～51年島根県の旧制中学、新制高等学校に奉職し、51～69年までは京都市教育委員会、市立堀川高校、

紫野高校で教え教育委員会指導主事。51年以降銅版画を始め、53年浜口陽三、駒井哲郎らと日本銅版画協会設立会員。58年現代美術家協会会員。60年京都銅版画協会を主宰、京都版画家集団委員長。63年「SPACE8」現展委員賞。63～70年京都市立美術大学非常勤講師。68年日本合同版画展(NY)「SPACE11」出品。68年京都市文化功労者。70年日本版画協会会員。70年滋賀女子短期大学教授。53年日本美術教育学会会員、65年日本美術教育連合会会員、66年プラハ世界美術教育会議に日本代表参加。京都市で没、68歳。版画家、美教

人大手拓次(たくじ)の詩集を装丁、編集した。東京で没、49歳。2015年和歌山県立近代美術館で個展。版画家

ヘンリー福原 (へんりー・ふくはら/1913～2010年)

カリフォルニア生れ。戦後、ニューヨーク州に住み花卉業を営む。独学で水彩画を学ぶ。個展や展覧会に出品。全国美術連盟水彩画展で最高賞。ピッツバーグ水彩画協会グラムバックナー賞。全国水彩画協会会員・ピッツバーグ水彩画協会会員。81年引退。2010年没、96歳。水彩画家

ほ

坊 一雄 (ぼう・かずお/1890～1948年)

広島県生れ。広島師範学校卒。1917年東京美術学校卒。教職。27年渡仏し、アマン・ジャンに師事。サロン・ドートンヌ入選。28年にはフランスから作品を送り帝展に入選。30年サロン・デ・チュイルリー入選、無鑑査。30年に帰国、30～42年清水谷女学校教師。31年大阪三越で個展。大阪を拠点に活動した。1948年没、57歳。1980年東広島市美術館で坊一雄遺作展。洋画家

不破 章 (ふわ・あきら/1901～1979年)

東京生れ。1919年大倉商業学校卒。23年日本水彩画会展出品。光風会展で今村奨励賞。日本水彩画会会員。41年皇紀2600年記念水彩画推奨記録展で最高記録賞。47年一水会会員、常任委員。53年日展特選、朝倉賞。56年日展特選。67年日展会員。74年日本水彩画会理事長。東京で没、78歳。水彩画家

別車博資 (べっしゃ・ひろすけ/1900～1976年)

神戸市生れ。兵庫県立工業学校卒。1920年～水彩、水彩を独習。1930年より日本水彩画会展に出品、国枝金三、石井柏亭に師事。32年日本水彩画会展第一賞、会員推挙。37年一水会展に出品。50年一水会会員。74年日本水彩画会評議員。66年兵庫県文化賞。76年没、75歳。水彩画家

別府貫一郎 (べっふ・かんいちろう/1900～1992年)

佐賀県生れ。1921年川端画学校で藤島武二に師事。26年春陽会展で春陽会賞。29～33年渡伊。33年春陽会展で特陳、昭和洋画奨励賞。35～36年再渡欧。36～40年国画会会員。46、47年日展委員。51～53年日本美術会委員長。一線美術会、新世紀美術協会委員。東京で没、92歳。洋画家

ベル串田 (べる・くしだ/1913～1994年)

岡山市生れ。岡山県師範学校卒。教員。1938年二科展入選、藤田嗣治、東郷青児に師事。57年渡仏。61年渡米。61年二科展会員、72年閣総理大臣賞。66年米、オランダ、スイス、スペイン、仏を訪れ制作。67年仏～NYで制作。70年NY、シカゴ、ニュース、カンヌで制作。84年二科展理事。サロン・ドートンヌ会員。フランスコマンドール文化勲章、ブラジルグラン・クルス最高文化勲章。国会議事堂買い上げ。勲四等。94年没、81歳。洋画家

逸見 享 (へんみ・たかし/1895～1944年)

和歌山市生れ。1913年市立和歌山商業学校卒、上京、ライオン歯磨本小林商店入社、意匠部創設。田中恭吉作品に感銘。19年日本創作版画協会に出品、入選。1928年日本創作版画協会会員。31年日本版画協会創立会員。「新東京百景」を分担制作。友

星加哲男 (ほしか・てつお/1951年～)

呉市生れ。1984年浅井忠記念展入選('90、'92)、上野の森絵画大賞展入選('85、'91、'92)、1989年広島県美術展大賞受賞('86、'88 奨励賞)、92年 ひろしま美術大賞展優秀賞('96 優秀賞 '90、'94 佳作賞)、2011年文部科学大臣賞(第54回新協展)。2013年小磯良平大賞展入選('96、'00、'02、'04、'10)。新協美術会委員/日本美術家連盟会員/呉市美術協会理事。洋画家

星崎孝之助 (ほしざき・こうのすけ/1905～1994年)

神奈川県生れ。正則英語学校卒。1928年渡仏、英仏文学研究とともにヴラマンクに師事、油画を学ぶ。サロン・デ・ザンデバンダン、サロン・ド・メ展及び個展で発表。戦後もパリ中心に活動。57年二紀会委員、のち評議員。アン展会員。67年日本橋東邦画廊で個展。大磯市で没、88歳。洋画家

星 襄一 (ほし・じょういち/1913～1979年)

新潟県生れ。1932年台南師範学校卒。版画を独習。52年日本版画協会会員。56年武蔵野美術学校西洋画科卒。59、61、63年国際版画ビエンナーレ出品。67年サンパウロ国際版画ビエンナーレ出品。60～76年国画会会員。千葉で没、65歳。(出典 わ眼)版画家

保科豊巳 (ほしな・とよみ/1953年～)

長野県生れ。1979年東京藝術大学美術学部絵画科油画卒、81年同大学院絵画専攻修了。84年同大学院博士後期課程満期修了。97年東京藝術大学美

術学部助教授、2006年教授、09美術学部副部長。02年文部科学省在外研究員、渡米、環境芸術インスタレーションの新しい可能性研究。白樺画廊、コバヤシ画廊、田村画廊、表参道画廊等で個展。グループ展;80年今日のアジア美術/香港アートセンターでグランプリ。81年全国大学版画展で買い上げ賞。82年パリ・ビエンナーレに出品等多数。 **インスタ、版画、紙、ガラス、美教**

星野正三 (ほしの・しょうぞう/1899~1978年)

新潟県生れ。1931年光風会展でF氏奨励賞。光風会会員、日本水彩画会会員、日展会友。1978年没、79歳。 **洋画家、水彩**

星野眞吾 (ほしの・しんご/1923~1997年)

豊川市生れ。日本画家。中村正義に会い生涯の盟友となる。卓抜した技法の持ち主で、その質感と対象への肉薄は他の追随を許さない。三上誠とパンリアル美術協会を興し絵画の革新を目指す。星野眞吾賞創設。愛知県で没、74歳。(出典 わ眼) **日本画家**

星野眞吾 II (ほしの・しんご/1923~1997年)

豊川市生れ。1948年京都市立専門学校日本画科卒。49年三上誠らとパンリアル美術協会を結成。62年中部日本画総合展で最優秀賞。71年東京造形大学非常勤講師。74年人人会結成に参加。94年豊橋文化賞。96年豊橋市美術博物館で個展。愛知県で没、74歳。 **日本画家**

星野鐵之 (ほしの・てつゆき?/1939~2018年)

横浜市生れ。1963年東京藝術大学油画科卒。70~2010年兜屋画廊個展、8回。84~99年横浜高島屋個展6回。99、2010年和光ホールで個展。爾麗美術で個展。67~70年美術集団「核展」出品。73年現代日本新人作家展出品。91~93年「和の会」招待出品。96~2010年グループ「光の会」出品。2018年没、79歳。横浜洋画三人組の一人四谷十三雄、芥川麟太郎。 **洋画家**

星野文良 (ほしの・ぶんりょう/1798~1846年)

福島県生れ。白河藩絵師。名は唯実、通称は善輔。別号に爽軒、甲子山人。白河藩絵師・久松(服部)南湖、巨野泉祐らに絵の手ほどきを受け、のちに白河藩主・松平定信の命によって谷文晁の門に入った。定信の子で信州松代城主・真田幸専の養子となった幸貫の御側御納戸日記(真田家文書)には、文政末年から天保年間にかけて文良が席画を描き、御用に関わったという記載がある。定信の桑名藩転封に従い桑名に移った。1846年没、49歳。 **南画文人画、江戸時代後期、白河藩絵師**

星野美智子 (ほしの・みちこ/1934年~)

東京生れ。1963年(東京女子大卒後)東京芸術大学油画専攻卒。63年~油画発表。72年~版画(リトグラフ)発表。77年~国際版画コンクール(リュブリアナ・クラコウ・ブダペスト・マースリヒト・カンピナス・エジプト・中国)出品。92年本の宇宙(栃木県立美術館)。93年個展(ストライプハウス美術館)。94年個展(ブエノスアイレス国立版画美術館)。99年日本の現代版画・北斎の孫達展(スウェーデン)開催。 **版画家**

細井繁誠 (ほそい・はんせい/1905~1977年)

静岡県生れ。韮山中学校中退、遠州見付農業学校に入学。和田三造に師事。1928年帝展入選より38年まで連続入選、39年日展無鑑査。72年文部大臣賞。新協美術創立会員。1977年没、72歳。 **洋画家**

細井文次郎 (ほそい・ぶんじろう/1893~1951年)

愛知県生れ。1918年東京美術学校西洋画科本科卒。同校研究科で黒田清輝の指導を受ける。卒業制作が文部省買上げとなる。志願兵として入隊、翌年除隊。21年成章中学校に赴任、愛知商業学校へ転任、その後、岡崎高等女学校、岡崎高校で教鞭をとる。33年田原画会を結成。25年豊橋洋画協会の中心となり活躍。51年7月12日没、享年58、59歳。(左) **洋画家、美教**

細井三男 (ほそい・みつお/1930年~)

岡崎市生れ。53年愛知学芸大学卒、同大研究員、55年同大学助手。54年春陽会に出品、67年同会会員。62年文部省内地研究員として東京藝術大学絵画技法研究室に学ぶ。71年文部省在外研究員として伊に留学。個展、団体展に出品。74年愛知教育大学教授。94年刈谷市美術館で個展開催。 **洋画家、美教**

細江英公 (ほそえ・えいこう/1933年~)

山形県生れ。1951年高等学校で「富士フォトコンテスト」で最高賞。54年東京写真短期大学卒。「写真サロン」で特選。59年「VIVO」結成。60年個展で日本写真批評家協会新人賞。1963年三島由紀夫をモデルにした写真集「薔薇刑」で日本写真批評家協会作家賞。2010年文化功労者。17年旭日重光章。東京工芸学校教授。清里フォトアートミュージアム館長。 **写真家**

細川宗英 (ほそかわ・むねひで/1930~1994年)

松本市生れ。1954年東京芸術大学彫刻科卒、菊池一雄に師事、同年同専攻科に進学し、55年新制作

派協会展入選。以後同展に出品を続ける。56年東京芸術大学専攻科修了、同校彫刻科副手。56年作家賞。58年新制作協会会員。59年世界平和交友美術展佳作賞。65年新制作展出品高村光太郎賞。68年文化庁芸術家在外研修員として渡米し、メキシコ、ヨーロッパをも訪れる。72年中原悌次郎賞を受賞し、80年高村光太郎大賞展で優秀賞。77年東京芸術大学彫刻科助教授、81年同科教授。83年東京現代野外彫刻展に招待出品し優秀賞。東京で没、63歳。彫刻家、美教

細川護立 (ほそかわ・もりたつ/1883～1970年)

熊本県立生れ。1914年侯爵家の宗家を相続し、旧熊本細川藩主16代目に当る。洋の東西にわたる美術品のコレクションは有名で、国宝、重文級の所蔵品も多い。戦前貴族院議員を約20年つとめ、戦後は文化財保護委員、正倉院評議会々員、国立近代美術館評議員、国立西洋美術館評議員、東洋文庫理事長などの職にあった。またヌビア遺跡保護協力委員長として、同遺跡の保存にも力をつくした。1970年没、87歳。元文化財保護委員会委員、日本刀剣保存協会々長、コレクター

細島昇一 (ほそじま・しょういち/1895～1961年)

栃木県生れ。栃木県師範学校卒、久しく教員職にあり、1934年日本水彩展でN賞、会員。図画教育書の編纂、財団法人育英奨学会を創立し主事。49年日本水彩画会幹事、同会の運営。52年示現会会員。日展入選。東京で没、66歳。水彩画家、美教

細田政義 (ほそだ・せいぎ/1908～1999年)

広島県生れ。東京美術学校油画科卒、関野準一郎に師事、女子美とトキワ松女子短大の講師、前職として富士天然色写真株式会社主任部員とあります。版画家、日本版画協会会員、日版協会員、エッチング、日版協新人賞、国際ビエンナーレ展招待、個展。1999年没、91歳。版画家

細田喜道 (ほそだ・よしみち/1907～1986年)

島根県生れ。岡田三郎助に師事。1931年東美3年生による第1回クラス洋画展に出品。33年東京美術学校西洋画科卒。48年第4回日展に出品。第一美術協会会員。86年4月16日東京で没、享年78歳。(佐)洋画家

細野稔人 (ほその・としひと/1932年～)

埼玉県生れ。1976年二紀展にて菊華賞。80年彫刻日動展招待出品(銀座・日動画廊)。86年フジテレビ、テレビ美術館「彫刻 細野稔人To where?」放

映。91年二紀展にて文部大臣賞。92年文化庁主催現代美術館展招待作品。97年埼玉文化賞。彫刻家

堀田清治 (ほった・せいじ/1899～1984年)

福井市生れ。県立福井中学校卒。上京、太平洋美術研究所に学ぶ。1929年槐樹社展で槐樹社賞。33年帝展で特選。36年文展無鑑査。50年旺文社入会のち代表。58年新樹社を創立し代表。57年日展会員、62年同評議員、69年日展参与。59年渡仏。75年日展で文部大臣賞。79年日本橋三越で画業55年展開催。東京で没、85歳。洋画家

堀田 操 (ほった・みさお/1921～1999年)

長野県生れ。1939年福沢絵画研究所に通う。45～47年シベリア抑留。49年読売アンデパンダン展に1～7回展に出品。50年美術文化展に出品。51サロン・ド・ジュワン創立に関わる。55年瀧口修造の推薦でタケミヤ画廊で個展。60年大宮成人学校の美術講師。62年アートクラブ会員。89年河鍋暁斎研究会入会。1999年没、77歳。洋画家、美教

堀井香坡 (ほりい・こうは/1897～1990年)

京都市生れ。1915年京都市立美術工芸学校卒。18年京都市立絵画専門学校同校卒。菊池契月に師事。15年文展に入選。大正期の京都画壇に特有の官能性をおびた女性像を描く。28年、29年特選。30年帝展より無鑑査出品し、34年帝展で審査員。京都で没、93歳。日本画家

堀尾 実 (ほりお・みのる/1910～1973年)

名古屋市生れ。1923年日本画家・森村宜稲の稲香画塾に学ぶ。30年京都市立絵画専門学校選科入学、34年中退。35年独立美術協会美術研究所に学び、福沢一郎と出会う。48年創造美術協会が結成、48、49年入選。49年中部日本美術展入選、奨励賞。50年新次元派協会を結成。名古屋アヴァンギャルド・新次元派協会連合展を開催。美術文化協会会員。55年水谷勇夫、竹田大助らと前衛絵画グループ・匹亜会を結成。60年個展(愛知県美術館)。1973年没、63歳。日本画家

堀 晃 (ほり・ひかる/1952～2019年)

山口県生れ。広島大学卒。1980年モダンアート展新人賞('81奨励賞'82協会賞)・現代日本絵画展大賞。82年 現代美術選抜展出品・安田火災美術財団展新作優秀賞。88年 昭和会展優秀賞。90、91、92年 両洋の眼「現代の絵画」展出品。92年 個展(日動画廊)、93年個展(日本橋三越)。96年 個展(日動画廊)。2019年没、67歳。洋画家

堀井英男 (ほりい・ひでお/1934～1994年)

茨城県生れ。潮来高等学校卒。1946～56年文化財保護委員会に勤務。60年東京芸術大学油画科卒。大学院中退。独学で銅版画を習得する。1967年日本版画協会賞。68年同会会員、東京国際版画ビエンナーレ招待出品。72、73、78、83年詩画集刊行。76年創形美術学校版画科主任。91年創形美術学校校長。78年銀座・松坂屋で個展。東京で没、60歳。(出典 わ眼) **版画家、美教**

堀内康司 (ほりうち・こうじ/1932～2011年)

東京生れ。1955年グループ「実在者」を版画家の鬘嘯、池田満寿夫らと結成。56～58年フォルム画廊で個展を続けるが30歳代で以後描くことを止める。61年不忍画廊で池田満寿夫の個展開催を企画。96年東邦画廊で空田たけを、山本弘の故人二人と50年代旧作を展示した3人展開催。2011年没、78歳。**洋画家**

堀内唯生 (ほりうち・ただお/1900～1981年)

長野県生れ。1914年高等小学校で中川紀元に図工を教わった。玉川小学校に教員として勤める。25年玉川小学校を退職し、東京へ上京。中川一政に師事。26年春陽会入選。終戦までほとんど毎年入選。ま中川一政の家(東京/永福町)に五年間同居し、中川一政と一緒に画を描いた。61年諏訪市美術館で志村一男、野村千春、堀内唯生の共同展覧会開催。81年茅野市美術館にて堀内唯生個展を開催。1981年没、81歳。**洋画家、美教**

堀内規次 (ほりうち・のりつぐ/1921～1992年)

東京生れ。1938年東京美術学校入学。44年美術文化協会賞。44年美術文化協会会員。47年自由美術家協会会員。53年渡欧、個展。56年朝日選抜秀作展、59年毎日日本国際美術展に招待出品。87年湘南画廊で個展。92年没、60歳。2008年野方・ギャラリー-KANI 個展。2011年堀内規次回顧展西武池袋本店。**洋画家**

堀内ポール (ほりうち・ぼーる/1906～2000年)

山梨県生れ。1921年ワイオミング州で28年アメリカ国籍を取得。46年シアトルに住み、制作。抽象表現主義の画家マーク・トビーと交友。48年シアトル美術館のノースウエストアニュアル選抜。54年コラージュを試み、独創的な画面構成を始めた。作品の多くがコラージュ技法を用いた抽象作品。2000年没、94歳。**洋画家、カラー**

堀内正和 (ほりうち・まさかず/1911～2001年)

京都市生れ。東京高等工芸学校中退。二科会番衆技塾で学ぶ。1947～66年二科会会員。彫刻造形に疑問をいだき、長い間、孤独な試作を続けた。63年高村光太郎賞、69年現代国際彫刻展(箱根彫刻の森美術館)大賞、70年神戸須磨離宮公園現代彫刻展神奈川県立近代美術館賞。現代彫刻のパイオニアであり、その幾何学的な形態の作品は、知的空間構成とユーモアに富み国際的にも高い評価を獲得した。2001年没、90歳。神奈川県立近代美術館鎌倉館で回顧展。**彫刻家、版画**

堀江尚志 (ほりえ・なおし/1888～1935年)

盛岡市生れ。1922年東京美術学校彫刻科卒。在学中既にその俊才の光芒を示し、第2回帝展に「ある女」を出品して特選、第3回帝展の「をんな」も特選、24年無鑑査。其後帝展出品と同時に塊人社に属し、35年帝展審査員に挙げられ将来を嘱望されて居たにも拘らず、其夭折せしは惜まれる。。1935年没、38歳。**彫刻家**

堀江正章 (ほりえ・まさあき/1858～1932年)

長野県生れ。旧姓二木。堀江伝十郎の養嗣子となる。1878年上京、工部美術学校に入学。はじめフェレットに学び、後にサン・ジョバンニに師事。83年同校修業。84年曾山幸彦、松室重剛らと画学専門学校を設立。91年この頃、修身教授の為の掛絵制作を行う。92年大幸館として再興し、教授となる。97年旧制千葉中学校嘱託図画教師。1912年千葉県庁舎落成共進会で指導した生徒の作品集が第一位となり、大正天皇の閲覧となる。1926年西村房太郎校長のすすめで、肖像画を描き始める。32年没、享年74歳。(佐)**洋画家、美教**

堀江良一 (ほりえ・りょういち/1943年～)

名古屋生れ。1966年東京芸術大学油画専攻卒。木版木の制作を始め、多治見北高等学校、加茂高等学校、加納高等学校で美術教師。69年CWA現代版画展で佳作賞。70年養清堂画廊で個展。81年版画グランプリ展。84年クラコウ国際版画トリエンナーレへの出品。2013年美濃加茂市市民ミュージアムで個展。**版画家、美教**

堀尾貞治 (ほりお・さだはる/1939年～)

神戸市生れ。1963年兵庫県展知事賞。65～72年具体美術協会会員。75年パリ遊学。79年東門画廊を創設。87年「堀尾貞治展」大阪府立現代美術センター。2002年芦屋市立美術博物館で個展。07年神戸わたくし美術館個展。11ベルギー・アントワープで個展、英語版作品集刊行。13年NYグッゲンハイム美術館で開催の具体美術回顧展パフォーマンスを実施。

洋画家、具体

堀川理万子 (ほりかわりまこ/1965年～)

東京生れ。1989年東京藝術大学デザイン科卒。91年同学大学院美術研究科修了(サロン・ド・ブランタン賞)。90、92、94、96年個展(小財堂画廊/銀座)91、93、96、98年(蔵丘洞画廊/京都)。97年みゆき画廊で個展。2000年(新生堂/南青山)、03、05、07年銀座和光で個展。洋画家、絵本

堀規矩太郎 (ほりきくたろう/1872～1941年)

茨城県生れ。1901年関西美術会批評会で褒状。翌年3等賞。02、03年関西美術展に出品。06、11年関西美術会競技会で褒状。11年京都専売印刷工場図案主任、煙草のラベルの版下描く。41年没、68歳。洋画家

堀 浩哉 (ほりこうさい/1947年～)

富山県生れ。1967年多摩美術大学入学、68年除籍。学生運動が盛んであった当時、美術大学における学生組織「美術家共闘会議(美共闘)」を立ち上げ、議長。71年に「美共闘 Revolution」を結成。2002～14年多摩美術大学美術学部絵画学科教授。14年退官記念展「堀浩哉展 起源」が多摩美術大学美術館で開催。版画家、パフォー、インスタ、美教

堀越隆次(ほりこし・たかじ/1916～1984年)

土浦市生れ。土浦中学校を経て、1939年東京高等工芸学校卒(千葉大)。同年、日本陶器に入る。服部正一郎に師事。43年二科展入選。51年二科賞。64年二科会員。66年二科展で会員努力賞。79年同会評議員。84年二科会監事。プリミティブな味わいのある画風。瀬戸市で没、68歳。洋画家

堀越千秋 (ほりこし・ちあき/1948年～2016年)

東京生れ。1973年東京芸術大学油画専攻卒、75年同大学院油画専攻、修了。76年スペイン政府給費留学生として渡西、76～97年マドリッドを基点に個展等多数。91年挿絵展 朝日新聞連載小説「斜影はるかな国」に挿絵。96年～スペイン・マドリッド在住。ANAグループの機内誌「翼の王国」の表紙絵を10年描く。エッセーも書く。陶芸、カンテ、舞台美術で才能は縦横無尽に発揮され、膨大な数の作品を残した。2014年スペイン国王よりエンコミエンダ賞。マドリッドで没、67歳。(田村)洋画家、挿絵、絵本

堀越政寿 (ほりこし・まさとし/1925～2014年)

いわき市生れ。1948年東京美術学校卒。50年新制作展に出品74、76年新作家賞、77年協会会員。1976年現代日本美術展等で東京都美術館賞。78年シェル美術館賞展に出品。2014年没、89歳。洋画家

堀 進二 (ほりしんじ/1890～1978年)

東京生れ。1906年太平洋画研究所に入り、新海竹太郎に師事。11年太平洋画会展に出品、会員。16、17、18年文展で連続特選。19年帝展で審査員。60

年日本芸術院賞。57年太平洋画学校の復興に尽力し、校長を務める。東京で没、87歳。(出典 わ眼)彫刻家

堀 忠義 (ほりただよし/1904～1991年)

金沢市生れ。1929年文化学院美術科卒。石井柏亭に師事。28年二科展入選、以降6回出品入選。32～33年渡仏、サロン・ドートンヌに出品。33～43年文化学院美術部勤務。46年一水会会員推挙。日展に第一回から出品、50年日展で岡田賞後、委員。日展依嘱。金沢市文化賞。金沢で没、86歳。洋画家、美教

堀千枝子 (ほりちえこ/1920～1994年)

東京生れ。女子美術専門学校師範科卒。女流画家協会創立会員。文展に入選。1994年没、74歳。洋画家

堀之内一誠 (ほりのうち・いっせい/1908～1980年)

鹿児島県生れ。川辺中学校卒業後、「金羊会」で洋画を学ぶ。1931年高島達四郎に師事。36年独立展入選。43年独立賞。48年独立美術協会会員。60年中里介山の「大菩薩峠」の挿絵。シュルレアリスム、キュビズムに挑戦、晩年はデュフィ風の明るい画風。東京で没、72歳。洋画家

堀 文子 (ほりふみこ/1918～2019年)

東京生れ。東京府立第五高等女学校、女子美術専門学校師範科日本画部卒。1940年同校卒。新美術人協会会員。挿画、装幀。61～63世界放浪の旅。74～99年創画会の結成に参画。74年多摩美術大学日本画科教授。～99年多摩美術大学客員教授。87年イタリアアレツォにアトリエ。95年アマゾン川、マヤ遺跡・インカ遺跡へスケッチ旅行。2000年ヒマラヤ山脈の高地を踏破(NHK収録/放送)。2019年没、100歳。日本画家、美教

堀本恵美子 (ほりもと・えりこ/生誕年不詳～)

東京都生れ。東京女子大学卒。武蔵野美術学園修了。1982年日仏現代美術展(パリ)。91年サージマルジス賞受賞展(NY)。2002～05年ナント・パリ・コソボで個展。12年環太平洋アート・フェスティバルで最優秀賞(露、ハバロフスク)。美術家

堀 櫛山 (ほりれきざん/1856～1909年)

松江市長生れ。幼いころから狩野派を学んだ。1882年頃小豆澤碧湖が油絵の技法を習得して帰郷した際、碧湖について油絵を学んだ。84年内国絵画共進会に出品。84年方円学舎と称する私立画学校を松江に開設し、絵を教え、島根に洋画を広めた。1909年没、54歳。洋画家

本郷 惇 (ほんごう・じゅん/1904～1984年)

茨城県生れ。川端画学校に学ぶ、中村彝、安井曾

太郎に師事。1948年一水会会員、77年同会委員。48年日展入選、以降出品を続け、76年同会会友。1984年没、80歳。洋画家

本郷 新 (ほんごう・しん/1905～1980年)

札幌市生れ。1928年東京高等工芸学校卒業。高村光太郎に師事し、以後国展に出品。29年頃から仏像研究を始め、一方、ロダン、ブールデル、マイヨールらの西欧の巨匠の作品に強く刺激される。34～39年国画会会員、39年舟越保武らと新制作協会彫刻部を設立。この頃から記念碑的な彫刻理念に基づく現代彫刻を志向し、また平和運動に積極的に参加して52年『わだつみのこえ』(立命館大学)を完成、日本平和文化賞を受賞。数々の美術賞の選考委員をつとめた。主要作品『嵐の中の母子像』(広島)、『風雪の群像』(旭川)、『石川啄木』(函館)。東京で没、74歳。彫刻家

本荘 起 (ほんじょう・たけし/1906～1993年)

平塚市生れの洋画家。井上三綱、安田靫彦に師事。1935年春陽会初入選。40年春陽会賞、53年会員。西湘平塚地域の美術運動の中心者として活躍。古武士のような高邁な人格と静穏なる画風で知られる。93年没、87歳。(出典 わ眼)洋画家

本田克己 (ほんだ・かつみ/1924年～)

広島生れ。1952年国展に出品。54年国画会会友、国画奨学賞。55年武蔵野美術大学卒。55～82年、フォルム画廊にて個展。57年朝日新人選抜展(朝日新聞社)出品。58年国画会会員。61年松田正平と二人展開催。国際美術展(毎日新聞社)出品。58～61年「明日の画家達」フォルム画廊出品。洋画家

本田希枝 (ほんだ・きえ/1945年～)

神奈川県生れ。1969年東京芸術大学油画科卒(大橋賞)、71年同大学院修了。84、86年独立展で独立賞、のち会員。86年東京セントラル美術館油絵大賞展佳作賞。個展(東京・紀伊国屋画廊)。92、2001、04年個展(日本橋・三越)。94年安井賞展 安井賞、個展(銀座・みゆき画廊)。洋画家

本多錦吉郎 (ほんだ・きんきちろう/1851～1921年)

江戸生れ。1871年慶応義塾で一年英学を修め、工部省測量見習い。74年川端玉章に日本画を学び、のち国沢新九郎の「彰技堂」塾に転じ後進を育てた。77～95年彰技堂を継ぐ。77、90年内国勸業博覧会で褒状。83年陸軍士官学校で図画の教官。89年明治美術会創立に参加。写真、彫刻、石版、造園にも独自の才。多くの著書を書いた。東京で没、70歳。洋画家、美教

本間国雄・国生 (ほんま・くにお/1891～1973年)

米沢市生れ。1910年白馬会に出品、注目を集める。雑誌の口絵、挿絵、東京日日新聞社記者、漫画を描く。12年ヒュウザン会展に出品。12年岡本一平、北澤楽天等と共に東京漫画社をおこし雑誌「漫画」を主

宰。41年朝鮮半島の風景画の個展を開催、作品集「朝鮮画観」を出版。43年満州の風景画の個展開催、翌年「満州画観」を出版。73年「水墨日本風物抄」の原画を米沢市上杉博物館に寄贈。東京で没、82歳。74年紺綬褒章、上杉博物館で「本間国生遺作展」開催。(田村)日本画家、水墨、漫画

本間正義 (ほんま・まさよし/1916～2001年)

新潟県生れ。1940年東京帝国大学文学部美学美術史学科卒。49～53年埼玉大学文理学部助手。53年国立近代美術館調査員、57年同美術館事業課研究員、63年同美術館事業課長、69年美術館次長、77～81年国立国際美術館初代館長。82年～91年埼玉県立近代美術館長。文化庁保護審議会臨時委員、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館の評議員会評議員、公私立美術館の各種委員。68年インド・トリエンナーレ展、71年リュブリアナ国際版画ビエンナーレ展、71年サンパウロ・ビエンナーレ展の審査員。85～90年全国美術館会議副会長。旺盛な美術評論活動、美術史研究の面では、「天平時代絵師考」(『国華』732号から735号、1953年)など仏教美術研究から発して、近代日本の彫刻にも視野をひろげ、「平櫛田中の芸術」(『平櫛田中彫琢大成』講談社1971年)、『近代の美術 16 円空と橋本平八』(至文堂1973年)。橋本平八研究では、造形主義的な近代美術研究に対して、円空から影響を受けた、アニミズムの視点がユニークで、近代美術にながれる水脈に焦点をあてたことが評価。、『近代の美術 3 日本の前衛美術』(至文堂、1971年)など、大正期の前衛美術研究についても先駆的な業績を残した。88年『私の近代美術論集』(全2巻 美術出版社)を刊行。2001年没、84歳。(引用 東文研)美術評論家、美術館

本間祐介 (ほんま・ゆうすけ/1907～1983年)

酒田市生れ。酒田中学校から二松学舎専門学校へ進学、中退し帰郷。庄内竿の製作技法を修得して釣り具店を経営。本間家の後見人となり、戦後の農地解放、本間家再興に尽力。1947年本間美術館設立とともに館長。日本博物館協会理事、日本美術刀剣保存協会評議員を務め、全国的文化活動に貢献。庄内育英会長、本間物産社長など歴任、学術、経済などに活躍。県文化財専門委員などとして地方文化の発展にも貢献した。55年斎藤茂吉文化賞。1983年没、76歳。美術館長

ま

舞田文雄 (まいた・ふみお/1904-1999年)

岩手県生れ。1920年盛岡市立下ノ橋高等尋常小学校卒、盛岡地方裁判所雇員。27年盛岡地方裁判

所書記。美術団体「素顔社」の結成に参加。32年独立美術協会展に出品。36年日本版画協会展に出品。40年大審院書記に補され上京、46年同職を辞して帰郷。64年現代日本美術展に出品。80年日本版画協会会員。1999年没、95歳。洋画家

眞板雅文 (まいた・まさふみ/1944～2009年)

神奈川県生れ。1966年現代日本美術展に出品、66年村松画廊で個展、83年までに5回個展開催。60年代末からは、海面を撮影した写真と鉛の棒、ガラス、電灯などを組み合わせたインスタレーションの作品を展開。71年国際青年美術家展で大賞。シェルター・ロック財団等の奨学金を得て2年間のフランス滞在。パリのギャラリー・ランベールで個展を開催。74年紀伊國屋画廊での第2回次元と状況展に参加、このグループ展に10回展まで出品。76年ヴェネツィア・ビエンナーレに出品。80年代に入ると、ロープや布を用い、それを織り込んだ、網状や円のかたちをとる呪術的な趣を醸し出す作品を展開する。85年、ガストン・バシュラール生誕100年祭企画でのフランス、トロア市での展示、86年ヴェネツィア・ビエンナーレへの出品。作品の巨大化と野外彫刻、公共スペースのモニュメントの仕事が多くなっていく。94年畏友安齋重男との神奈川県立近代美術館での展覧会「写真と彫刻の対話」では、代表作ともいえる29個の水盤状の立体「永遠の一端」を制作した。95年本郷新賞。97年下山芸術の森発電所美術館や2003年大原美術館の個展「音・竹水の閑」にみられた。現代美術の領域において、竹、自然石、布、水といった人々に親しめる素材を用い、ダイナミックに時に繊細に表現した作家といえよう。神奈川県で没、64歳。美術家、造形作家

米原二郎 (まいばら・じろう?/1912～1980年)

大坂生れ。独立美術協会美術研究所創設時に学び、須田国太郎に師事。1938年から独立展に出品。61年中南米を経て欧州遊学。パリのサロン・ドートンヌに出品。63、64年連続独立賞、65年に独立美術協会会員。68、69年中南米、北米に、73年コルシカ島に取材旅行。73年以降毎年個展を開催。東京で没、68歳。洋画家

前川千帆 (まえかわ・せんぱん/1888～1960年)

京都生れ。関西美術院に学ぶ、浅井忠、鹿子木孟郎に師事。1912年上京。17年読売新聞社入社。新聞雑誌挿絵、漫画を描く。36年日本創作版画協会会員。31年日本版画協会創立会員。60年日展会員。60年日版会を創立に加わり相談役。東京で没、72歳。版画家、挿絵

前川 強 (まえかわ・つよし/1936年～)

大阪生れ。1955年大阪市立工芸高等学校図案科卒。59年に吉原治良に出会い、師事。61～68年具

体美術展に出品。62年具体美術協会に加入し、63年グタイピナコテカで個展。66年同じくグタイピナコテカで、松谷武判、向井修二とともに、3人展を開催。「具体」解散後は、ミシンで細かく縫った布による作品などを手掛ける。81年現代日本美術展で東京美術鑑賞。82年現代日本絵画展で大賞。82年ジャパンエンバ賞美術展・国立国際美術館賞、日本国際美術展・京都近代美術館賞。海外個展多数。現代美術家、具体

前川博人 (まえかわ・ひろと/1923～1975年)

広島県生れ。独学で絵を学ぶ。戦後、第6回日展出品、翌年第15回自由美術展出品、自由美術家協会々員。昭和30年代には写真も手がけ、「世界主観主義写真展」(西独)、「抽象の感覚展」(ニューヨーク近代美術館)出品。1961年自由美術展出品、64年自由美術家協会退会し、主体美術協会に参加し、同協会々員。1975年没、52歳。洋画家

前田寛治 (まえだ・かんじ/1896～1930年)

鳥取県生れ。1915年白馬会葵橋洋画研究所に学ぶ。21年東京美術学校西洋画科卒。二科展、帝展に入選。22～25年渡仏。25、27年帝展で特選。26年「一九三〇年協会」を創立。東京で没、33歳。(出典 わ眼)洋画家、美教

前田寛治 II (まえだ・かんじ/1896～1930年)

鳥取県生れ。1915年葵橋洋画研究所に学ぶ。21年東京美術学校西洋画科卒、研究所に進級、研究生。二科展、帝展に入選。22～25年渡仏、アカデミー・ド・ラ・グラン・ショミエールでクールベの写実主義を研究。25、27年帝展で特選。26年「一九三〇年協会」を創立。28年前田写実研究所を開設。29年帝展審査員。29年帝展出品作が帝国美術院賞。東京で没、33歳。(出典 わ眼)洋画家、美教

前田常作 (まえだ・じょうさく/1926～2007年)

富山県生れ。1947年富山師範学校本科卒。53年武蔵野美術学校西洋画科卒。55年自由美術展で会員推挙。57年アジア青年美術展で大賞、国際美術賞。58～63年パリ留学。65年再渡仏。70年以降独自の曼荼羅世界を構築。72年東京造形大学教授。79年日本芸術大賞、京都市立芸術大学教授。93年安田火災東郷青児美術館大賞。83年武蔵野美術大学教授、94年同大学学長。大阪で没、81歳。洋画家、美教

前田真一 (まえだ・しんいち/1901～1954年)

東京生れ。1921年太平洋美術学校に入学、中村不折、満谷国四郎の指導を受ける。25年同学校卒、36～42年同校教授。太平洋洋画会展、帝展、新文展、日展に出品。東京で没、53歳。洋画家、美教

前田青邨 (まえだ・せいそん/1885～1977年)

岐阜県生れ。1901年上京、梶田半古の門に入り、塾頭の小林古径からも指導を受けた。07年安田靱彦、

今村紫紅ら気鋭の画家たちと交流。紅児会に加わる。12年文展で三等賞。14年日本美術院の再興に参加。22年日本美術院留学生、古径とともに約1年間渡欧。大英博物館で顧鑑之筆《女史箴図巻》を模写。琳派から得た「たらしこみ」の技法を多用して、ロマンティックな歴史画や人物像を院展に発表し続け、37年帝国芸術院会員、44年帝室技芸員、55年文化勲章。戦後の法隆寺壁画再現模写、高松塚壁画模写に従事。1977年没、92歳。 **日本画家**

前田藤四郎（まえだ・とうしろう/1904～1990年）

兵庫県生れ。1927神戸高等商業学校卒。28年平塚運一著「版画の技法」で版画制作。9年春陽展に版画が入選、39年春陽会賞、40年春陽会員。31年日本版画協会展に出品。31年大阪に「羊土社」を結成指導。32年「黄楊」結成。32年日本版画協会会員。47年兵庫県観光美術展で知事賞。57年大阪府芸術賞。70年大阪万国博覧会の万博美術館を大阪府立美術館として再開するための推進協議会委員となり、77年国際美術館として開館する間、運動の中心となった。関西に於ける創作版画の草分け。堺市で没、85歳。 **版画家**

前田利三（まえだ・としぞう/1902～1979年）

島根県生れ。倉吉中学校卒。1920年「砂丘社」結成参加。21年東京美術学校に入学した。在学中に中央美術社展、光風会展入選。横山潤之助、佐藤敬、永田一脩、浅野孟府らと同人展を開催した。27年帝展入選。30～39年神戸市立諏訪山尋常小学校図画専科教員。30年に中国に渡り、北京、天津で制作、翌年帰国し神戸市の小学校につとめたが、49年帰郷。以後、鳥取西高、倉吉東高などの美術講師。倉吉美術協会創立に参加するなど、地元文化の向上に貢献した。1979年没、77歳。 **洋画家、美教**

前田政雄（まえだ・まさお/1904～1974年）

函館市生れ。1924年川端画学校洋画科。梅原龍三郎に油絵を、平塚運一に版画を学ぶ。1927年日本創作版画協会展入選。同年、版画同人誌「版」を創刊。31年日本版画協会設立会友出品、翌年同会会員。44年国画会会員。戦前、北海道内版画家代表者、北海道美術協会展に出品、戦後、全道美術協会会員。北海道版画協会の結成に参加。1974年没、70歳。2006年北海道立函館美術館で個展開催。 **版画家**

前田昌彦（まえだ・まさひこ/1953年～）

滋賀県生れ。1978年東京藝術大学大学院 美術研究科油絵技法・材料終了、大橋賞。79年フランス政府給費留学生としてパリ国立高等技術学校絵画家に学ぶ。81～82年国際ロータリー財団奨学生として国立ニース装飾芸術学校に学ぶ。国画会会員。2014年金沢美術工芸大学 法人理事長兼学長。 **洋画家、美教**

前田正良（まえだ・まさよし/1956年～）

大阪生れ。81年東京造形大学造形学部絵画科卒。83年同大学院修了。86～93年東京造形大学非

常勤講師。85、86年新制作展 新作家賞。90年 77ギャラリー(個展) 以後 2010年までに13回。09年高島屋美術画廊(個展) 新宿。 **洋画家、美教**

前田守一（まえだ・もりかず/1932年～）

静岡県生れ。1959年日本版画協会賞、モダンアート協会・新人賞。67年シェル美術賞展・佳作賞。82年木版画集発刊。85年文化庁特別派遣在外研修員ミネソタ大学、ワシントン・フレア美術館研修。90年ニューヨーク版画展・準大賞。96年個展(ハギン美術館・アメリカ)。 **版画家**

前田吉彦（まえだ・よしひこ/1849～1904年）

岡山県生れ。備中藩の間野凸溪に就いて日本画を学ぶ。神戸に出て木村静山の洋風画を見て感動。独学で洋画を研究。1878年神戸師範学校で鉛筆画を教える。81年内国勸業博覧会に出品。1900年神港倶楽部で開催の美術展覧会に出品。神戸洋画壇草分。1904年没、55、56歳。 **洋画家、美教**

前田利昌（まえだ・りしょう/1943年～）

宮崎県生れ。1966年東京芸術大学油画科卒、68年同校大学院修了。69～71年滞仏(フランス政府給費留学生)、71年ベルギー・クノック国際ビエンナーレ展特別賞・仏政府給費留学生合同コンクールグランプリ。72年現代日本新人作家展出品。81年具象現代展出品。82年国際形象展出品。88年現代の人物画展出品。89、97年個展(日本橋高島屋)、群馬県立女子大学教授。 **洋画家、美教**

前山 忠（まえやま・ただし/1944年～）

新潟県生れ。1967年新潟大学教育学部芸能科絵画科卒。66、67年ルナミ画廊(銀座)、68、05年シロタ画廊(銀座)、1990～2001 アトリエ我廊(新潟)、92年ヒルサイドギャラリー(渋谷)、03、10年コバヤシ画廊(銀座)、08年今井美術館(見附)等で個展。グループ展 67年新潟現代美術家集団GUN結成展(長岡文化会館、ギャラリー新宿)、68年トリックス&ヴィジョン展(東京画廊、村松画廊)、今日の作家'68展(横浜市民ギャラリー、横浜)、69年ジャパン・アート・フェスティバル(東京・パリー・ロサアンジェルス巡回)、現代日本美術展(東京都美術館)、国際彫刻展(彫刻の森美術館)、78年「自然と人間の復権」第三世界と結ぶ国際展(東京都美術館)、00、03、06、09、12年アジア現代美術展(新潟県民会館、新潟)。01、03、05、07、09、11、13年大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ(十日町)08～14年越後妻有 雪アートプロジェクト(中里、松代)。 **現代美術家**

真垣武勝 (まがき・たけかつ/1902～1983年)

高知市生れ。高知工業学校卒。1924年鳥海青児らと「湘南美術会」を結成。29年国展に入選。梅原龍三郎に師事。武者小路実篤を知り「新しき村運動」を進める。35年国画会賞、37年同会会員。52年武者小路実篤と二人展。55年外遊。67年渡欧。56年大丸で個展。東京で没、81歳。洋画家

牧 進 (まき・すすむ/1936年～)

東京生れ。幼い頃より画を学び、川端龍子の内弟子になる。青龍社展で入選を重ね青龍社社友となるが解散後は無所属として個展を開催するなど制作活動を展開。伝統的な花鳥風月のモチーフを鋭敏な感性とすぐれた構図・色彩で描き出している。山種美術館賞展優秀賞受賞。日本画家

牧 俊高 (まき・としたか/1879～1940年)

東京生れ。能姿の木彫を得意とし、帝展に連年出品、1936年文展の無鑑査。岡倉天心らが創設した日本彫刻会に所属。東邦彫塑院の会員。岡倉天心らが創設した日本彫刻会に所属。文展の無鑑査に推され、又東邦彫塑院の会員であつた。1940年三越で遺作展が開かれた。1940年没、62歳。彫刻家(木彫)

牧田嘉一郎 (まきた・かいちろう/1894～1960年)

松山市生れ。北予中学卒業後、同舟舎で小林万吾の指導を受け、帰郷後松山商業学校図画教師・松山高等学校講師として美術教育に当たる。1925年三好計加、越智恒孝らと「青鳥社」を結成。52年愛媛県美術会創立、名誉会員。60年愛媛県教育文化賞。1960年没、66歳。洋画家、美教

牧野伊三郎 (まきの・いさぶろう/1870～1895年)

岐阜県生れ。洋画を志して1888年上京し、小山正太郎の画塾・不同舎に入った。たちまち頭角をあらわし、明治美術会に出品したりして将来を囑望されたが、病に倒れた。1995年没、24歳。洋画家

牧野克次 (まきの・かつじ/1864～1942年)

大阪生れ。1885年守住貫魚に日本画、守住勇魚に洋画を学ぶ。88年上京、小山正太郎の不同舎に学ぶ。1901年関西美術会の創立に参画。02年京都高等工芸学校助教授。聖護院洋画研究所に牧野の私塾を統合、指導。06年関西美術院の創設に参画。06年渡米、10年再渡米。水彩画を得意とした。42年没、78歳。洋画家、美教、水彩画

牧野邦夫 (まきの・くにお/1925～1986年)

東京生れ。川端画学校に通う。1948年東京美術学校油画科卒。59年いづみ画廊で個展。以後文藝春秋画廊、日本橋画廊で個展、グループ展中心に発表。66年渡欧。東京で没、61歳。洋画家

牧野邦夫 II (まきの・くにお/1925～1986年)

東京生れ。1942年川端画学校に通う。43年安田商業学校卒。48年東京美術学校油画科卒。51年美校同級生6人らで結成した「麓人展」に出品。53年南足柄中学の美術講師となるも翌年退職。59年いづみ画廊で初個展。以後、無所属で文芸春秋画廊、丸善画廊、日本橋画廊などで個展を開催。62年第6回安井賞候補新人展に入選。65年第9回安井賞候補新人展に入選。66年渡欧。71年第14回安井賞展に入選。86年10月1日東京で没、享年61歳。(佐)洋画家

牧野正吉 (まきの・しょうきち/1905～1994年)

栃木県生れ。1925年東京府青山師範学校本科卒、教職に就くかわら、石井柏亭、赤津隆助、加藤静児に師事しながら日本水彩画会展に出品、28年会員。39年石井相亭が主宰する双台社の創立会員。41年個展「大陸風景水彩画展」を開催(上野松坂屋)。54年創元会会員。教職のかたわら創作活動をつづけ、とくに尾瀬沼の自然を題材にした水彩画を発表、73年画集『牧野正吉水彩作品集 尾瀬の四季』を発行。東京で没、88歳。水彩画家、洋画家

牧野司郎 (まきの・しろう/1893～1972年)

千葉県生れ。1906年小林万吾の同舟舎に学ぶ。09年第12回白馬会展に出品、以後13回展にも出品。11年第5回文展に初入選。14年第1回二科展に初入選。17年不動銀行に入る。18年第6回光風会展で今村奨励賞。24年第11回光風会展で会員。27年第8回帝展に出品、以後14回展まで出品。33年顔行会第1回展に出品。36年昭和十一年文展で無鑑査出品。41年不動銀行の副頭取に就任。47年目黒洋画研究所を開設。71年光風会名誉会員。72年7月3日東京で没、享年79歳。(佐)洋画家

牧野虎雄 (まきの・とらお/1890～1946年)

新潟県生れ。1913年東京美術学校西洋画科卒。同校研究科に入った。15年文展で三等、16、17年特選。24年槐樹社を創立。29年帝国美術学校洋画科教授。30年六潮会、31年旺玄社創立。35年多摩帝国美術大学の創立に参加、洋画科主任教授。東京で没、56、57歳。洋画家、美教

牧野正吉 (まきの・まさきち/1905～1994年)

栃木県生まれ。1925年東京府青山師範学校本科卒。教職。石井柏亭、赤津隆助、加藤静児に師事。日本水彩画会展に出品、1928年会員。39年石井相亭が主宰の双台社創立会員。41年「大陸風景水彩画展」個展開催(上野松坂屋)。54年創元会会員。73年画集『牧野正吉水彩作品集 尾瀬の四季』発行。東京で没、88歳。美教、水彩画家

牧野昌広 (まきの・まさひろ/1883～1939年)

埼玉県生まれ。小林清親及び寺崎広業の門人。1883年に本荘市中横町に、お抱え絵師の牧野雪僊の孫として生まれる。本名は昌造。97年18歳の時に上京して清親に入門する。後に郷里の先輩であった寺崎広業に師事した。昌広は身体が病弱であったため、実力を発揮することができなかった。東京で没、56歳。日本画家

牧野宗則 (まきの・むねのり/1940年～)

静岡市生まれ。1955年伝統浮世絵版画に関心。木版画摺師から技術を学ぶ。68～86年静岡県版画協会会員。89年牧野宗則の世界展・川村賞。川村文化振興財団主催。92年浮世絵太田記念美術館で個展(99、09年)。97年「棟方志功・牧野宗則二人展」九州6県巡回。01年静岡市文化功労者。03年文化庁長官表彰受賞。版画家

牧野義雄 (まきの・よしお/1869～1956年)

愛知県生まれ。名古屋英和学校卒。1893年渡米。97年渡英、サウス・ケンジントン芸術学校、ゴールドスミス美術学校で学ぶ。1907～09年「カラー・オブ・ロンドン、パリ、ローマ」を刊行。40年間英国で絵を描く。34年資生堂ギャラリーで個展。36年三越個展。42年帰国。52年東京インターナショナル・クラブで個展。自伝「あさきゆめみし」出版。鎌倉市で没、86歳。(出典 わ眼)洋画家

牧雅雄 (まき・まさお/1888～1935年)

神奈川県生まれ。太平洋画会研究所彫塑部に彫塑を修め、主として藤井浩祐の指導を受けた。昭和2年日本美術院同人に推された。1935年没、48歳。彫刻家

マキヨウイチ (まき・よういち/1951年～)

別府市生まれ。多摩美術大学絵画科油画専攻中退。1999年サロン・ナショナル・デ・ボザール出品(以降毎年)正会員。フランス功労章芸術部門メダユ・ダルジャン授章、同協会正会員。サロン・ナショナル・デ・ボザール2000年展で外国人作家佳作賞、06年サロン・ド・ブランタンに名誉招待作家出品。07年パリ国際アカデミーよりメダユ・ド・ヴェルメーユ授章。08年パリ市よりメダユ・ド・ラ・ヴィル・ド・パリ(パリ市長)受章。08年サロン・ナショナル・デ・ボザールにて絵画部門メダユ・ダルジャン受章、名誉会員。09年同サロンにて特別賞。09年サロン・ナショナル・デ・ボザールにて特別賞。洋画家

曲子光男 (まげし・みつお/1915～2011年)

北海道生まれ。1927年京都市立美術工芸学校入学。京都市立絵画専門学校で西山翠嶂、川村曼舟らの指導を受け、35年より堂本印象に師事、その画塾東丘社に入る。36年京都市立絵画専門学校本科卒。36年文展鑑査展入選、選奨。38年東丘社展東丘賞。51年第日展で特選・朝倉賞。52年無鑑査出品。55年日展審査員、58年会員、70年評議員、95年参与。84年より東丘社幹事長、92年顧問。84年京都府文化賞功労賞。93年石川県立美術館「日本画家 曲子光男の世界」が開催。長男は日本画家で日展会員の曲子明良。2011年没、96歳。日本画家

馬越陽子 (まごし・ようこ/1934年～)

東京生まれ。1964年東京芸術大学油画科卒、66年大学院を修了、66年独立展入選。67年女流画家協会展でH夫人賞。73年文化庁芸術家在外研修員のうち初の女性芸術家として欧米で研修。94年安田火災東郷青児美術館大賞。2007年日中国交正常化35周年記念展個展。08年三越本店本館で帰国展。14年度日本芸術院第一部美術部門の日本芸術院賞。独立美術協会会員、女流画家協会委員、多摩美術大学大学院客員教授、2014年日本美術家連盟洋画部理事。洋画家、美術教育

馬越祐一 (まごし・ゆういち/1902～1968年)

愛媛県生まれ。今治中学校卒。広島高等師範学校に学ぶ。1913年福井県に英語教師として赴任。47年福井市で小野忠弘らと美術グループ“ラ・パクール”を結成。50年“ラ・パクール”の活動に福井県文化協議会より49年度文化奨励賞。普遍のノスタルジーを求めて静物画を描いた。麻生三郎、寺田政明、北川民次、小野忠弘らと交友。大阪で没、66歳。洋画家、美教

馬越陽子 (まごし・ようこ/1934年～)

東京生まれ。1956年東京女子大学文学部英文科卒。64年東京藝術大学油画科卒、66年同大学大学院修了。67、71年女流画家協会協会賞・H夫人賞。68、71年独立賞、72年会員。94年安田火災東郷青児美術館大賞。2015年日本芸術院賞、のち日本芸術院会員。73年文化庁芸術家在外研修制度で渡欧。洋画家

正井和行 (まさい・かずゆき/1910～1999年)

兵庫県生まれ。本名幸蔵。京都市立絵画専門学校に学び、福田平八郎らに師事。同校研究科在学中の1934年帝展入選。37年大分市に転居。大分県立別府第二高校で教鞭、大分県美術協会作品を発表。50年京都に戻り、画壇に復帰。簡潔な表現のなかに深い精神性をたたえた独特の作風を展開し、日展を中

心に日春展、青塔社展などで活躍した。72年改組日展、82年改組日展で特選。89年京都市芸術功労賞、90年京都府文化功労賞。1999年没、89歳。日本画家

正岡子規 (まさおか・しき/1867～1902年)

松山市生れ。少年時代絵画に親しみ、北斎の画道独稽古の写本を作ったり、松山藩士の吉田蔵澤の墨竹画に親しむ。邦画について明確な意見を持ったうえで、中村不折や下村為山ら周囲の画家たちと熱心に美術論を戦わせた。新聞「小日本」では中村不折を挿絵画家に採用、雑誌「ホトギス」では浅井忠、中村不折、下村為山らにより我が国に装飾美術、商業美術を大きく広める契機を作った。子規は日本における絵画の新しい「場」の形成に深くかかわった。1902年没、35歳。俳人、水墨

正木 茂 (まさき・しげる/1910～1980年)

徳島県生れ。1929年大阪市立商業学校卒。47～53年脇町中学校助教諭。徳島新聞の挿絵画家として活躍する。大阪の川上拙以に入門し、日本画を学ぶ。のちに油絵に転向し、東光会入選、東京へ出向し、東向会会員。「阿波の踊り子シリーズ」で第12回日展に入選し、特選候補にもあがる。日展会友。東京で没、70歳。日本画家、洋画、挿絵

正木 隆 (まさき・たかし/1971～2004年)

兵庫県生れ。1998年、武蔵野美術大学大学院修了。愛知県美術館「愉しき家展」、佐倉市立美術館「カオスモス展」に出品。1998年、パブリックコレクション; 国立国際美術館、東京国立近代美術館、東京都現代美術館。2004年自死、33歳。(出典 わ眼) 洋画家

正木直彦 (まさき・なおひこ/1862～1940年)

大阪生れ。1892年東京帝国大学法律科卒。93年奈良県尋常中学校長、又帝国奈良博物館学芸委員、97年文部大臣秘書官、視学官、大臣官房秘書課長、文書課長兼美術課長、1901～32年東京美術学校長。07年文部省美術審査委員会創設に参画、永年同委員会主事、文展に寄与、19年帝国美術院創設、同院幹事、31～35年同院々長。同院廃止後は文部省の美術行政顧問。又同院附属美術研究所主事。内外博覧会審査長或は鑑査官となり、又帝室技芸員詮衡委員、工芸審査員委員。1940年没、77歳。美術行政家、官僚、東京美術学校長

正延正俊 (まさのぶ・まさとし/1911～1995年)

高知県生れ。1933年高知県師範学校専攻科卒。

～68年迄教員。48年神戸で吉原治良に出会い、師事。「油絵の具やエナメル塗料で幾層にも塗り重ねられた地肌」の上に「おびたしい数の微細な筆触」を置く、あるいは「糸くずを丸めたような形態や手書きの線が画面全体を覆う」と表現される、独特の作風。54年具体美術協会の結成メンバー。～72年具体美術協会が解散まで出品。西宮市に自宅とアトリエを構えた。「具体」解散後は阪神間の個展や芦屋市展を発表の場とした。1995年没、84歳。洋画家、美教、具

正延正俊 II (まさのぶ・まさとし/1911～1995年)

高知県生れ。1933年高知県師範学校専攻科卒。48、49年吉原治良に出会い、54年具体美術協会の結成に参加。72年に具体美術協会が解散した後も、一貫して絵画による抽象表現に取り組む。1995年没、84歳。2015年西宮大谷記念美術館で回顧展「没後20年 具体の画家 正延正俊」を開催(高知県立美術館に巡回)。洋画家、具体

正宗得三郎 (まさむね・とくさぶろう/1883～1962年)

岡山県生れ。1907年東京美術学校西洋画科選科卒。09年文展に初入選。14～16年渡欧。14年二科会結成に参加。15年二科会会員。17～21年文化学院で指導。21～24年再渡欧。25～32年成城学園で教鞭。47年二紀会創立会員、委員。53年白木屋で個展。55年中山介石の「大菩薩峠」の挿絵を描く。東京で没、79歳。洋画家、美教

真島直子 (まじま・なおこ/1944年～)

名古屋生れ。東京藝術大学油画科卒業。東京の現代美術を扱う主要な画廊での個展開催、グループ展出品、多数。現代美術の鬼才工藤哲巳の晩年に、数回2人展を開催。2002年のバン格拉ディッシュ・ビエンナーレでは、女性として初めてグランプリを受賞。以降、海外での展覧会も多数行われ、高い評価を受けている。洋画家

間島秀徳 (まじま・ひでのり/1960年～)

茨城県生れ。1984年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒。86年同校大学院美術研究科博士前期課程修了。88、89年ギャラリーなつか(東京)で個展開催。90、91、93～96、98年ギャラリーサージ(東京)で個展。93年東京都美術館での「現代絵画の一断面・日本画を越えて」展に選抜出品。2000～01年文化庁派遣在外研修員米国フィラデルフィアに滞在。日本画家

間島領一 (まじま・りょういち/生誕年不詳～)

1974～76年スペイン、シルクロ美術学校で学び、

81年渡米、ロスのオデイス・パーソンズ美術大学大学院修了。芦屋市立美術博物館(兵庫)、池田 20 世紀美術館(静岡)、ミヅマアートギャラリー(東京)などで個展。ワークショップも数多く行なっている。2000年個展「マジマート in 渋川」(ハラミュージアムアーク群馬)。**立体、造形**

真下慶治 (ましも・けいじ/1914～1993年)

1934年文化学院卒。42年一水会賞。46年一水会会員。77年一水会常任委員。45, 46年日展特選。67年日展菊華賞。72年日展会員。86年日展評議員。58年斎藤茂吉文化賞。68年山形大学教授。76年資生堂ギャラリーで個展。92年小山敬三賞。93年没、79歳。2000年真下慶治美術館開館。**洋画家、美教**

増井 英 (ますい・えい/1929年～)

大阪生れ。1948年国立大阪外事専門学校フランス語科卒。70年春陽会賞、76年春陽会会員、85年春陽会/社団法人春陽会理事。72～2001年渡政旅行9回74～76年滞仏。81年ジャパンエンバ美術コンクール大賞。85年和歌山版画ビエンナーレ展佳作賞。91年関西女子美術短期大学教授。99年編集工房ノアより「人はなぜ絵をかくのか」出版。2002年「通天閣の下の赤ちゃん」で織田作之助賞佳作賞。**洋画家、版画、美教、著**

樹井一夫 (ますい・かずお/1908～1991年)

神戸市生れ。1925年地上社洋画研究所に学ぶ。31年小磯良平に師事。33年光風会展入選。36年新制作展に入選。47年一水会展に出品。50年大潮会展覧会で特選、53年同会展で文部大臣奨励賞。63年一水会会員。90年神戸市民ギャラリーで個展開催。1991年没、83歳。**洋画家**

増田英一 (ますだ・えいいち/1901～1993年)

鳥取県生れ。倉吉中学校卒。1920年名古屋高等工業学校建築科入学、在学中「砂丘社」結成に参加。22年同校を中退、上京、川端画学校で藤島武二に師事した。31年二科展入選。その後、帰郷。50年倉吉美術展創設に参加、倉吉市展、鳥取県展など審査員。58年日本水彩画会山陰支部結成に参加、69年支部長、水彩画の普及に尽力した。1993年没、92歳。**洋画家、美教、水彩**

益田玉城 (ますだ・ぎよくじょう/1881～1955年)

宮城県生れ。川端玉章(川端画学校)に入門の後、東京美術学校日本画科選科卒。川端画学校・女子美術学校(現・女子美術大学)で後進を育成し、銀座3丁目にあった美術工芸品店(株)生秀館の図案部長も

務める。1915年文展に入選、20、21、28、29年の帝展入選。31年無鑑査推薦。浮世絵・大和絵を研究。35年新帝展の再改組運動にも関わった。1955年没、74歳。**日本画家**

増田常德 (ますだ・じょうとく/1948年～)

長崎県生れ。1970年上京、独学で絵を学ぶ。1973年現代美術展新人賞。73年日仏現代美術展コンパレゾン賞。80年現代の裸婦展奨励賞。82年現代の裸婦展準大賞。83年昭和会展林武賞。上野の森美術館絵画大賞展佳作賞。85年新世紀展30周年記念賞。89年安田火災美術財団奨励賞展新作優秀賞。無所属。2005年文化庁在外研修員としてドイツミュンスター芸術大学に在籍。**洋画家**

増田 誠 (ますだ・まこと/1920～1989年)

山梨県生れ。1921年一線美術会展に出品。1957年渡仏、パリに定住。60年シュルブル国際展でグランプリ受賞。63年サロン・ドートンヌ会員。65年サロン・ナショナル・デ・ボザール会員。ル・サロンで金賞、無鑑査。一線美術会委員。70年小田急百貨店で個展。横浜市で没、68歳。(出典わ眼)**洋画家**

増田 実 (ますだ・みのる/1948年～)

東京生れ。1966年渡仏、パリのグラン・ショミエール、アカデミー・ジュリアンに学ぶ。67年パリ国立美術学校入学、76年修了。その間、サロン、コンクールなどに出品した。24年間の在仏の後に帰国。「樹木」を自らのテーマとし、以来ひたすら四季折々の木々を描き、個展活動のみで地道に独自の世界を創り続けている。**洋画家、パステル**

増田正三郎 (ますだ・しょうざぶろう/1938～1992年)

西宮市生れ。河野通紀に師事。1956年に西宮市展で教育委員会賞1席。56年行動美術展入選。66年奨励賞、78年会友賞、80年F記念賞、会員。西宮美術協会副代表。一貫して、立方体とロープにより構成される錯視的な「青の世界」を描いた。1992年没、54歳。**洋画家**

増田正和 (ますだ・まさかず/1931～1992年)

兵庫県生れ。京都市立美術大学西洋画科卒。はやくから石彫に進み、1960年に朝日新人展(大阪)に出品、61、62年集団現代彫刻展に出品、行動美術協会に所属し66年彫刻部会員。68年小豆島石彫シンポジウムに企画参加し、制作グループ「環境造形Q」を結成(同88年解散)した。74年神戸須磨離宮公園現代彫刻展に出品、75年現代日本彫刻展(宇部)で京都国立近代美術館賞、76年神戸須磨離宮公園現

代彫刻展で宇部市野外彫刻美術館賞。石彫作家として活躍。81年現代日本彫刻展で大賞。82年神戸須磨離宮公園現代彫刻展で神戸市公園緑地協会賞。88年大阪中之島緑道彫刻コンペで優秀賞。こ86年塚本英世記念国際海外研修員としてイタリアへ赴いた。八王子市彫刻シンポジウム(84年)、関ヶ原石彫シンポジウム(91年)等に参加。作品は他に、「箱の中」「関ヶ原」などをはじめ、環境造形 Q としての作品 20 店がある。神戸市で没、61歳。彫刻家

益田義信 (ますだ・よしのぶ/1905～1990 年)

東京生れ。三井物産創業者益田孝を祖父に、劇作家益田太郎冠者が父。1928年慶応義塾大学経済学部卒。28～31年渡仏、32年国画会展友、33年会員。49年日本美術家連盟を組織、委員。52年ヴェネツィア・ビエンナーレに参加するに際し副委員。同展日本館の設立を企画して56年完成。55年アメリカ国務省の招待を受け3ヶ月間アメリカの美術館、美術学校を視察。ヴェネツィア・ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレ等の国際展委員。66年にはユネスコの国際造型芸術連盟(IAA)会長。49年よりアマチュア画家による『チャーチル会』の指南役。横浜市で没、84歳。洋画家、版画

真隅太庄 (ますみ・たそう/1893～1972 年)

福岡市生れ。東筑中学校卒。1909年太平洋画会研究所に学ぶ。11年福岡市に画家グループ・アカシア会を設立。西日本南方社、改組福岡美術界会、二科西人社の結成に参加。23～43年九州大学農学部 of 描画嘱託、植物を正確に描き、学術資料。九州大学美術部員の指導。40年福岡県美術協会結成に参加。1972年没、79歳。洋画家、美教

益村千鶴 (ますむら・ちづる/1972 年～)

山口県生れ。1993年比治山女子短期大学美術科卒。2009年「選抜奨励展」(損保ジャパン東郷青児美術館)、14、18年「前田寛治大賞展」(日本橋高島屋・倉吉博物館)、19年 個展「アートフェア東京」(Gallery Suchi ブース)、個展やグループ展、国内外のアートフェアに多数参加。細密画を描く。洋画家

栞本吉隆 (ますもと・よしたか/1979 年～)

千葉市にある知的障害者通所授産施設「まあるい広場」で作品制作。2010年 越中島・ギャラリー風で個展(以降11年)。13年、日本橋・ギャラリートモスで個展。吾妻橋・ギャラリーアビアント「パラレルワールド2」に出品。(出典 わ眼)洋画家

増山たづ子 (ますやま・たづこ/1917 年～)

岐阜県生れ。1973年徳山ダムを盛り込んだ木曾川水系水資源開発基本計画決定。この頃村の生活音等の録音を始める。1977年徳山ダム計画が本格化し、ピッカリコニカで写真を撮り始める。83年徳山村を舞台にした映画「ふるさと」(監督:神山征二郎)に出演。最初の写真集『故郷—私の徳山村写真日記』を出版。84年エイボン功績賞。「故郷は心の宝だ」と消えゆくふるさとの姿を記録し続けたアマチュアカメラマン・増山たづ子。撮影した写真は 10 万カット、アルバム数にして 600 冊。2006年没、88歳。写真家

俣野第四郎 (またの・だいしろう/1902～1927 年)

北海道生れ。1920年札幌第一中学校卒。21年三岸好太郎と上京。21年東京美術学校図案科に学ぶ。23年札幌で三岸好太郎、小林喜一郎と三人展開催。24～26年春陽会入選。北海道美術協会特別会員。天才画家と言われていたが27年没、25歳。洋画家

班目秀雄 (まだらめ・ひでお/1911～1986 年)

福島県生れ。太平洋画学校に学ぶ。1943年独立美術協会展で独立賞、48年同会会員。横浜市で没、74歳。洋画家

町田曲江 (まちだ・きょくこう/1879—1967 年)

長野県生れ。京都で文人画家内海吉堂にまなび、のち寺崎広業の門にはいり、白馬会洋画研究所で黒田清輝に油絵をまなぶ。戦後日本画院同人となり、信濃(しの)美術会会長などをつとめた。美術史家町田甲一の父。1967年没、88歳。日本画家

町田久美 (まちだ・くみ/1970 年～)

高崎市生れ。1994年多摩美術大学絵画科日本画専攻卒。2006年アーティスト・インレジデンス・プログラム「ARKO」(大原美術館、岡山)で滞在制作。07年ソヴリン・アジア・アート・プライズ2007受賞、香港。08年文化庁新進芸術家海外留学制度でデンマーク滞在。12年「町田久美画集」刊行。14年タカシマヤ美術賞。日本画家

松井源右衛門 (まつい・げんえもん/1912～1984 年)

福岡県生れ。34～70年小学校で教鞭をとる。48年二紀会入会、57年同人、77年退会。56年福岡県美術協会会員。1984年没、72歳。洋画家、美教

松井叔生 (まつい・しゅくせい/1934～2007 年)

兵庫県生れ。1957年武蔵野美術学校西洋画科卒。56年二紀展入選、以後 努力賞・佳作賞・同人賞 2 回・菊華賞 2 回・文部大臣賞。92年新聞小説挿絵担当・原画展・松井叔生展。93年ヨーロッパ 5 ヶ国 6 千

キロ車の取材旅行・以後追想シリーズ。94～96年渡欧・週間新潮挿絵担当・原画展・素描展(ギャラリー銀座ムサン)。日本美術家連盟委員・二紀会理事。2007年没、73歳。洋画家

松井 正 (まつい・しょう/1906～1993年)

広島市生れ。信濃橋洋画家研究所で小出檜重らに師事。1927年二科展入選。31年頃～中之島洋画研究所、大阪市立美術研究所で講師。33年二科展で特待、38年佐分賞、41年二科会会員、61二科会理事、常務理事。64年大阪芸術大学教授。65年二科展で青児賞。78年二科展内閣総理大臣賞。西宮市で没、86歳。洋画家、美教

松井敏郎 (まつい・としろう/1931～2011年)

愛知県生れ。1954年愛知学芸大学美術科卒業。西村龍介に師事。1963年二科展特選。1973年二科展金賞。現代美術選抜展出品。1974年二科展パリー賞。1975年二科会会員。2002年二科展絵画部会員賞。2011年没、80歳。洋画家

松井 昇 (まつい・のぼる/1854～1933年)

但馬生れ。画塾聴香読画館で川上冬涯に師事。1880年頃「十一会」に加わる。89明治美術会に発起人として参加。94年明治美術学校で指導に当たる。95年内国勸業博覧会に出品。1910年太平洋画会展に出品。静岡市で没、79歳。洋画家

松井 昇 II (まつい・のぼる/1854～1933年)

兵庫県生れ。1869年川上冬崖の画塾聴香読画館に学ぶ。80年この頃、浅井忠らが結成した十一字会に参加。87年東京府工芸品共進会に出品。89年明治美術会創立会員、以後、4、5、7、8、10周年記念展に出品。95年第4回内国勸業博覧会に出品。1901年関西美術会第1回競技会に参考出品。08年太平洋画会会員。10年明治美術学校で教鞭をとる。33年静岡市で没、享年79歳。(佐)洋画家

松井守男 (まつい・もりお/1942年～)

愛知県生れ。1967年武蔵野美術大学造形学部油絵科卒。フランス政府奨学生として渡仏、パリを拠点に制作活動を始めた。同地ではアカデミー・ジュリアンやパリ国立美術学校に学び、パブロ・ピカソと出会う。以後、サロン・ド・メへの招待、印象派発祥の画廊ギャラリー・バルネーム＝ジュンネでの個展、エールフランスの機内デザインを手がける。1985年『遺言』と題する作品で評価。97年フェッシュ美術館(コルシカ・アジャクシオ)で個展開催。2000年フランス政府より芸術文化勲章、03年レジオン・ド・ヌール勲章。0

5年「愛・地球博」のフランス・ドイツ共同パビリオンの貴賓室にて作品が展示。08年シャネル・ネクサス・ホール(東京・銀座)や、長崎の大浦天主堂などの史跡で個展が開催。08年のスペイン・サラゴサ万博にて再度フランス公式画家に選出。洋画家

松浦武四郎 (まつうら・たけしろう/1818～1888年)

松阪市生れ。幕末に蝦夷地(現北海道)を6回にわたって歩き、「蝦夷日誌」と呼ばれる調査記録をまとめた。アイヌ民族とも交流を深め、北海道開拓の基礎を築いた。画家、書道家、歌人、登山家としての顔も持つ。釧路市内には松浦の名が地名や公園、郵便局などに残り、「釧路市中小企業基本条例」の前文でも武四郎の功績を記している。1888年没、70歳。江戸・明治の絵師、日本画家、書道家、歌人、登山家

松浦 良 (まつうら・りょう/1913～1999年)

創型会同人として活躍、創元会理事。木彫。詳細不明。1999年没、86歳。彫刻家

松浦安弘 (まつうら・やすひろ/1937年～)

福岡市生れ。福岡高校卒業後、武蔵野美術大学入学。新制作の内田武夫の薫陶を受け、新制作入選、76、79年で新作家賞、76年会員。73年渡欧し、モランディの影響を受け、イタリアで制作。76、79年新制作で新作家賞、76年、会員。イタリアや地中海沿岸域の石造建築の並ぶ街角を、揺るぎのない構図と乳白色や灰白色の色調により手堅い写実にまとめ上げる作風に定評がある。洋画家

松岡 歩 (まつおか・あゆむ/1978年～)

横浜市生れ。2005年東京藝術大学日本画専攻卒、07年同大学院修士課程日本画修了、博士号取得。サロン・ド・プランタン賞。06年松伯美術館花鳥画展大賞。日本美術院特待。東京藝術大学非常勤講師。日本画家

松岡映丘 (まつおか・えいきゅう/1881～1938年)

兵庫県生れ。生家は代々医家で兄は国文学者井上通泰・民族学者柳田国男・言語学者松岡静男。東美校卒。初め橋本雅邦の門に入り、のち山名貫義に大和絵を学び、ついで川合玉堂の指導を受ける。鍋木清方らと金鈴社を、岩田正巳らと新興大和絵会を起し、また国画院を結成、大和絵の伝統を近代によみがえらせ、多くの名品を残した。帝展審査員。帝国芸術院会員。1938年没、58歳。日本画家、版画

松岡清次郎 (まつおか・せいじろう/1894～1989年)

東京生れ。1910年中央商業学校卒。銀座の貿易

商に勤務し、数年後に独立。雑貨輸出入業に従事し、第一次世界大戦時に不動産業、冷蔵倉庫業、ホテル業など多角的に事業を拡大。32年松岡創業を開設。一方、古美術品蒐集を始め、初期には日本画を、戦後は中国陶磁を中心に蒐集。74年「青花双鳳草虫図八角瓶」を落札。「青花龍唐草文天球瓶」の入手、80年シャガールの「婚約者」、86年「釉裏紅牡丹蓮花文大盤」の落札。75年コレクションの公開のために東京都港区に松岡美術館を設立。中国陶磁、日本画、西欧絵画、インド仏教彫刻など幅広いコレクションが展観されている。東京で没、95歳。**コレクター、松岡美術館長**

松岡 壽 (まつおか・ひさし/1862～1944年)

岡山県生れ。1871年上京。72年画塾聴香読画館に学ぶ。76年工部美術学校に入学。78年同校中退。十一字会を結成。80年～88年渡欧。87年王立ローマ美術学校卒。89年明治美術会結成に参加。以後、同展覧会に出品。95年第4回内国勸業博覧会で妙技二等賞。1900年東京高等師範学校西洋画講師。04年第3回太平洋画会展に出品、以後5回展まで出品。06年東京高等工芸学校教授。13年国民美術協会設立に理事として参加。21年東京高等工芸学校長。34年第15回帝展に出品。36年昭和十一年文展招待展に出品。40年紀元二千六百年奉祝展に出品。44年4月28日没、享年82歳。(佐)**洋画家、美教**

松尾松涛 (まつお・しょうと/1883～1961年)

佐賀県生れ。1918年第12回文展に入選。1961年頃没したと伝えられる。佐賀県立美術館に残されている資料では ソビエト、西欧、南北アメリカを歴遊、作品は戦災で焼失。佐賀県内では初期の泥絵風の作品が散見。没年不詳。(出典 ; 星野画廊画集)**洋画家**

松尾敏男 (まつお・としお/1926年～)

長崎市生れ。1943年堅山南風に入門。49年再興院展に入選、同展で作品発表。70年日本美術院賞・大観賞、75年優秀賞。71年山種美術館賞展で優秀賞。87年多摩美術大学教授。94年日本芸術院会員。2000文化功労者。初期には、死や不安をテーマとした作品を発表、73年頃からは花鳥画の世界を追求。近年はインド、中国、ギリシア、最近ではスペインなどにも取材し、現地の歴史や風土に想を得た作品を発表している。**日本画家、美術教育**

松尾正義 (まつお・まさよし/1904～1982年)

奈良県生れ。日本美術会会員。府美教会会員。1982年没、78歳。**洋画家**

松尾齡右衛門 (まつお・れいえもん?/生誕年不詳～1809年)

〔版元・文錦堂〕文錦堂初代版元。先祖は結城氏で、のちに松尾氏となった。寛政12年頃に文錦堂を創業し、北虎、谷鵬と号して自ら版下絵を描いた。唐蘭露船図や文化元年レザノフ使節渡来の際物絵、珍獣絵、長崎絵地図などユニークな合羽摺約130種を刊行。1809年没、50歳位。**江戸時代の版元、版下絵**

松方幸次郎 (まつかた・こうじろう/1866～1950年)

鹿児島県生れ。公爵松方正義の三男、18歳から6年間米国留学。川崎造船社長、松方日ソ石油社長、衆議院議員として実業界、政界に活躍。第一次世界大戦後ヨーロッパ各国に於て、多くの西洋絵画及び彫刻、工芸品を購入し、松方美術館を計画したが、完成を見ずその蒐集品は四散した。コレクション総数1万点。わが近代美術の発達に与えた功績は極めて大きい。又彼の蒐集した浮世絵(8000点)は戦時中帝室へ献上し今日国立博物館に移管されて、その量と質に世界有数のものとして知られている。国立西洋美術館は仏から返却された375点の松方コレクションを収蔵、展示する美術館、59年開館。鎌倉市で没、84歳。**実業家(川崎汽船)、コレ**

松木重雄 (まつき・しげお/1917～2010年)

長野県生れ。東京文理大学卒。東京高等師範学校助教授、東京教育大学教授。74年筑波大学教授等を歴任。1949年示現会展に入選。1950年日展に入選、57年日展特選、68年日展菊華賞、76年日展会員、96年日展評議員。2004年示現会会長。10年没、92歳。**洋画家、美教**

松木満史 (まつき・まんじ/1906～1971年)

青森県生れ。1918年小学校卒業後、仏師・本間正明に師事し仏像彫刻を学ぶ。棟方志功、鷹山宇一、古藤正雄と洋画グループ「青光画社」を結成。23年武者小路実篤の「新しき村」運動に共鳴して会員。26年上京、木彫が太平洋画展入選。同年国展入選、以後国画会を中心に活動した38年渡仏し、翌年帰国。47年国画会会員。帰郷アトリエを設ける。55年三国慶一、中野桂樹、鷹山宇一らと「青生会」を創立。東奥美術展で審査員。59青森県文化賞。62年青森県褒章。1971年65歳。**彫刻家、版画家、洋画家**

松樹路人 (まつき・ろじん/1927年～)

北海道生れ。1949年東京美術学校油絵科卒。50年独立展に入選。60年独立美術協会会員。77年武蔵野大学教授。79年十果会結成。70年昭和会展昭和会賞。73年安井賞展で佳作賞。80年安田火災東

郷青児美術大賞。87年宮本三郎記念賞。91年芸術選奨文部大臣賞。札幌武蔵野美術学校名誉学院長。
洋画家、美教

松坂 康 (まつざか・こう・やすし/1905～1977年)

神奈川県生れ。青山熊治に師事。従軍画家。戦争美術関係の展覧会では、1942年の第1回大東亜戦争美術展、43年の第2回大東亜戦争美術展に出品。43年の第7回海洋美術展、44年の第8回海洋美術展に出品。第一美術協会会員。鶴鳴館(松坂屋本店若旦那の庵 芦之湯)13代目当主である康は43年ドイツ海軍の兵士100名が事故のため、4年間滞在させた。1977年没、72歳。**画家、戦争記録画家**

松崎和美 (まつざき・いずみ/1969年～)

宮崎県生れ。1996年上京、墨を使った画家集団ISAM(International Sumi Art Movement)に参加。97～03年「ISAM展」に出品。2001年タイロイヤルスクール屏風絵寄贈(タイ政府観光庁依頼)。03年「エスキース展」六本木金鳳堂ギャラリーに出品。07、09、10年銀座柴田悦子画廊で個展。09年宮崎県都城市立美術館で個展。**水墨画家、箔**

松崎卯一 (まつざき・ういち/生年不詳～1972年)

福岡県生れ。1921年東京美術学校区画師範卒。30年頃は長崎市立高等女学校に勤務。33年田川憲一らと「詩と版画の会」を結成し、版画誌『詩と版画』を創刊。その後も『版画長崎』第2輯(『詩と版画』改題1934.4)に《アロキ[エ]》、第3輯(1934.5)に《風景》《海女館》、第4輯(1934.11)に《水車のある風景》《椽[縁]先き》、第5輯(1935.8)に《風景A》《風景B》《枇杷》を発表した。35、36、37年国画会展に木版画を出品。36年日本版画協会展に出品。43年日本版画奉公会会員。長崎市で没。**版画家**

松崎啓三郎 (まつざき・けいざぶろう/1937年～)

千葉県生れ。1952年木版摺りを高木省治に師事。57年独立。88年荒川区登録無形文化財。2011年同区指定無形文化財。14年瑞宝単光章。**江戸木版画摺師**

松崎真一 (まつざき・しんいち/1910～1979年)

福井市生れ。1929年早稲田実業卒。福井県織物同業組合に勤める。同僚に横山千勝がおり、土岡秀太郎の知遇を受け、油絵を描きはじめる。32年独立展入選、田中佐一郎、須田国太郎に師事、独立展に出品、43年独立賞、47年会友、52年会員。戦前戦後を通じて、福井の美術界の中心的役割を果たし、戦後

は小野忠弘とともに福井の美術界を代表する画壇の双璧として活躍。1979年没、69歳。**洋画家**

松澤 宥 (まつざわ・ゆたか/1922～2006年)

長野県生れ。旧制諏訪中学卒。1946年早稲田大学理工学部建築学科卒。52年美術文化協会会員。55年ウィスコンシン州立大学よりフルブライト交換教授として招聘、56年コロンビア大学大学院に移り、現代美術・宗教哲学を研究。読売アンデパンダン展に出品。64年美術を言葉で表現する概念芸術家としての活動を始める。コンセプチュアル・アートの先駆者の一人として、欧米にもその名を知られる。長野県で没、84歳。草間彌生が師と仰いでいる。**現代美術家、コンセプチュアル・アーティスト(概念芸術家)**

松下一身 (まつした・いっしん/1937～2007年)

三重県生れ。家業である伊勢型紙彫刻技法を父國吉より学ぶ。伊勢型紙伝承者養成事業が始められたおり、父の勧めで彫彫の第一人者である児玉博に師事し、1978年に重要無形文化財伊勢型紙彫刻技術伝承者となる。80年日展入選。以後、日展会友となって数多くの彫彫の作品を発表し活躍した。**伊勢型紙彫刻家**

松下紀久雄 (まつした・きくお/1918～2018年)

東京生れ。画家、漫画家、作家。太平洋画塾卒。1952年『朝日新聞』に「東京むかしむかし」(イラスト)を連載。63年『朝日新聞多摩版』に「武蔵野むかしむかし」を連載。イラスト・挿絵。展覧会60回。作家の佐賀潜は実兄。87年奥多摩に「松下紀久雄むかし絵」美術館開館。2018年没、101歳。**漫画、イラスト、挿絵、水墨**

松下春雄 (まつした・はるお/1903～1933年)

名古屋市生れ。1918年人見洋画塾で学ぶ。21年上京、本郷洋画研究所に学ぶ。岡田三郎助に師事。23年鬼頭鍋三郎らと美術グループ「サンサシオン」を結成。24年帝展入選。25年日本水彩画会会員。31年光風会会員。31、34年帝展で特選。33年没、30歳。**洋画家、水彩**

松下芳太郎 (まつした・よしとろう/1908～1993年)

大阪生れ。茶の湯釜師、角谷巳之助の五男。1929年上京、木版画を手がけ32年に新版画集団に加わる。34年頃より、西田武雄の研究所でエッチングを学び、新版画集団、造形版画協会で発表。戦後は埼玉県に移り、旺玄会に出品。錫金工家としても知られ、喜山の号を持つ。1993年没、85歳。**版画家**

松島一郎 (まつしま・いちろう/1902~1965年)

横浜市生れ。1920年慶応義塾商工学校中退、里見勝蔵に師事。27年「一九三〇年協会」展入選、32年独立展でO氏奨励賞、33年独立賞、36年独立美術協会会員。45年横浜美術協会設立、横浜独立美術協会を設立。54年横浜国立大学建築科講師。65年没、62歳。洋画家、美教

松島蘇唄泉 (まつしま・そじゅんせん/1899~1973年)

埼玉県生れ。1919年葵橋洋画研究所に通う。23年東京慈恵会医学専門学校卒。上十条に医院開業。光風会展、槐樹社展に出品、牧野虎雄に師事。29~30年帝展に入選。33年より二科展に出品、戦後も二科展に出品、66年、二科会会友、70年二科会会員。埼玉県で没、73歳。洋画家

松島白虹 (まつしま・はっこう/1895~1937年)

岡山市生れ。1916年県立岡山中学校卒業、東京美術学校日本画科へ入学。結城素明に師事。18年文展入選。21年東京美術学校卒業後、女子美術専門学校教授。平和記念東京博覧会で褒賞。帝展9回入選。36年年東京都養成館の壁画「大政奉還」を描く。東京で没、42歳。日本画家、美教

松島正幸 (まつしま・まさゆき/1910~1999年)

札幌市生れ。太平洋美術学校本科卒。1931年二科展入選。41年独立賞。46~50年毎日連合展。53~61年毎日日本国際展出品。54~60年日本現代展。67年独立展G賞。68~70年北海道美術館秀作展推薦出品。80年紺綬褒章・日動画廊、三越本店、大丸、資生堂個展。90年岩見沢市に松島正幸記念館オープン。1999年没、89歳。洋画家

松田憲一 (まつだ・けんいち/1948年~)

岩手県生れ。1978~81年 二科展出品。81~97年 日洋展出品。82、94、97年 日展出品。現代の裸婦展出品・84~86年上野の森美術館絵画大賞展出品。91年昭和会展(日動画廊)招待出品。92年日伯現代美術展出品。93年昭和会展(日動画廊)招待出品 優秀賞。94年安田火災美術財団奨励賞。2005年~水彩人出品。個展・グループ展多数。日本美術家連盟会員。アンチーム展同人。相模原芸術家協会会員。洋画家、水彩

松田権六 (まつだ・ごんろく/1896~1986年)

金沢市生れ。1914年石川県立工業学校(漆工科描金部)を卒業し上京、同校教師藤岡金吾の紹介で六角紫水を訪ね、14年東京美術学校漆工科に入学、秋から紫水宅に美校卒業の年まで寄宿した。19年美校卒。東洋文庫で朝鮮楽浪出土の漆芸品の修理に携わった。25年並木製作所(パイロット万年筆の前身)

に入社し、万年筆やパイプなどに蒔絵を施し世界に広めた。26年高村豊周、山崎覚太郎らと工芸グループ無型を結成。日本工芸美術会結成に参加。27年東京美術学校助教授に就任、36年日本漆芸院を結成、板谷波山、六角紫水らと皐月会を結成。31年帝国議会議事堂御便殿漆工事に携った。39年法隆寺夢殿内に新調された救世観音の厨子の漆塗装監督。43年東京美術学校教授。47年日本芸術院会員。55年重要無形文化財(蒔絵)保持者。62年日本工芸会理事長。76年文化勲章。東京で没、90歳。漆芸家

松田秀石 (まつだ・しゅうせき/1879~1922年)

長野県生れ。池上秀敏に日本画を学んだ。「深山秋景図」は、画面全体に秋気あふれる山中が描かれ、師秀敏譲りの華麗な色彩と冴えた技術がみなぎる作品。日本画家

松田 俊 (まつだ・しゅん/1881~1954年)

茨城県生れ。1915、16年文展入選。20年ころ滞仏、シャルル・ゲランのアトリエに学ぶ、24年ころ帰国。25年帝展に入選。29年大阪美術研究会が結成、出品する。30年「嫩草会」展を大阪で開催。(新井完、浜田葆光 松田俊、若山為三らが参加)。54年没、73歳。洋画家

松田正平 (まつだ・しょうへい/1913~2004年)

島根県生れ。1937年東京美術学校西洋画科卒。37~39年渡欧。42年国画奨学賞を受賞。51年国画会会員。フォルム画廊、現代画廊、菊川画廊等で個展を開催。87年山口県立美術館で回顧展。宇部市で没、91歳。(出典 わ眼)洋画家

松田青風 (まつだ・せいふう/1892~1941年)

東京生れ。川端画学校に学ぶ。1912年頃、鏑木清方に入門。歌舞伎役者の似顔絵を描く。15、16年郷土会展覧会に作品を出品。『演劇画報』や『都新聞』に描いた大首の役者絵は役者の個性を巧みに表現した。歌舞伎舞踊の舞台装置も手がけており、著書に昭和初期の名優の容貌を精細に伝えた資料として評価が高い『歌舞伎俳草』。写生をもとにした『歌舞伎のかつら』。清方は役者絵を青風に託した。1941年没、49歳。41年銀座資生堂において清方門下による「松田青風追悼 郷土会作品展」が開催。日本画家

松田諦晶 (まつだ・ていしょう/1886~1961年)

福岡県生れ。1900年久留米商業学校入学、学業の傍ら盛んに絵を描く。11年太平洋画会展入選。14年二科展連続入選。中央画壇から遠のく。13年に郷里で結成した来日洋画会の中心メンバーとして後進

の育成に努め、31年久留米洋画研究所を開設。48年久留米商業高校美術教師。61年久留米市文化功労賞。1961年没、75歳。洋画家、美教

松田忠一 (まつだ・ちゅういち/1894～1983年)

島根県生れ。1918年東京美術学校図画師範科卒。25～26、31～32年渡仏。二科展に出品、入選。47年一水会会員。54年一水会で会員優賞、70年一水会委員。54年日展で特選、56年日展で岡田賞、57年日展無鑑査。66年日展審査員。水墨画も描いた。大阪で没、89歳。洋画家、水墨

松田尚之 (まつだ・なおゆき/1898～1995年)

金沢市生れ。1922年、朝倉文夫に師事して東京美術判交彫刻科卒。21年帝展入選。26年帝展で特選、27年無鑑査、特選。帝展、新文展、戦後の日展で審査委員、日展では、審査員と同時に運営会参事。30年京都大学建築科講師、金沢美術工芸大学、京都学芸大学教授。57年日展出品作で日本芸術院賞、68年日本芸術院会員。ディテールの再現にこだわらない、おおらかな表現による量感のある裸婦像を得意とした。京都で没、96歳。彫刻家、美教

松谷武判 (まつたに・たけさだ/1937年～)

大阪生れ。1954年大阪市立工芸高校で日本画を学ぶ。60年具体美術展に出品、63年会員。～72年の解散まで参加。66年フランス政府留学生選抜毎日美術コンクール最優秀賞、渡仏、S.W.ヘイターの版画工房アトリエ 17 で銅版画を学び、助手。モンパルナスにシルクスクリーン版画工房、パリと西宮で創作活動に励む。2000年西宮市大谷記念美術館で個展。10年神奈川県立美術館で個展。洋画家、版画、鉛筆、具体、日本画

松田文雄 (まつだ・ふみお/1908～1971年)

京都生れ。1925年東京府立第一中学校卒。28年第9回帝展に初入選。30年第11回帝展に出品。第7回白日会展に出品。31年東京美術学校卒。32年従軍画家として上海赴任し同年帰国。40年紀元二千六百年奉祝展に出品。一水会展に出品。46年一水会会員。日展に出品、以後、出品を続ける。61年第23回一水会展で会員優賞。70年日本自然派美術会結成。渡伊。71年7月9日東京で没、享年63歳。(佐)洋画家

松田 豊 (まつだ・ゆたか/1942～1998年)

大阪生れ。浪速短期大学美術科卒。1966年具体美術展に出品。67年具体美術協会会員となり、最後の第21回展まで連続出品。70年日本万国博覧会みどり館でグタイグループ展示や屋外展示にも出品。6

6、67年シェル美術賞展で佳作賞。68年現代日本美術展長岡現代美術館賞。78年ジャパンエンバ美術コンクール入選、90年(平成2)優秀賞。86年堺美術協会彫刻部会員。1998年没、56歳。洋画家、具体

松田義之 (まつだ・よしゆき/1891～1981年)

愛知県生れ。愛知師範学校卒。1917年東京美術学校師範科卒。31年帝展で銅版画が入選。32年日本版画協会会員。21年東京美術学校助教授、40年東京美術学校教授。40年日本エッチング作家協会会員。51～59年新制大学設置、東京芸術大学教授。65年以後文部省教科書編集委員。図画教育家。市川市で没、90歳。版画家、美教

松田緑山 (まつだ・ろくざん/1837～1903年)

京都生れ。初代「玄々堂」松本保居の長男。家業を継いで銅版画制作。二代目「玄々堂」。京都を中心とした名所図を多く制作。1858年銀札、68年太政官札を製造。69年上京。切手、証券印紙、証書を製造。74年東京で銅石版印刷所「玄々堂」を開業。緑山は洋画家を支援する展覧会を開き、洋画塾も設け、山本芳翠らが教えた。明治初期の石版印刷、印刷業界・美術界に貢献。多くの人材輩出育成。1903年没、66歳。版画家、明治初期の石版印刷、印刷業界・美術界に貢献

松永 真 (まつなが・しん/1940年～)

東京生れ。1964年東京藝術大学美術学部デザイン科卒。資生堂宣伝部を経て、71年松永真デザイン事務所設立。平和ポスター、スコッティヤカンチューハイなどのパッケージデザイン、企業のCI計画にISSEY MIYAKE やベネッセ、国立西洋美術館。世界各国78カ所美術館に永久保存。ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ金賞・名誉賞、毎日デザイン賞、芸術選奨文部大臣新人賞、日本宣伝賞・山名賞、紫綬褒章、亀倉雄策賞。日本グラフィック・デザイナー協会理事。シンプルかつ奔放なデザインが特徴。デザイン

松永敏太郎 (まつなが・としたろう/1918～1986年)

埼玉県生れ。1936年東京美術学校本科油画科入学。藤島武二教室に入る。41年に斉藤与里に師事。47年東光会展で東光賞。48年東光会会員。68年日展で「晩秋の庭」が特選を受賞。86年没、68歳。(出典 わ眼)洋画家

松野一夫 (まつの・かずお/1895～1973年)

福岡県生れ。小倉中学校中退、上京、東京の中学校卒。1921年帝展に油彩画入選。そのころから雑誌

『新青年』(大正9年1月創刊)の表紙を描きはじめ、戦後廃刊になるまで同誌の表紙絵を全部描いている。31～32年渡仏、グラン・ショミエールに通い絵画を勉強、帰国後は雑誌『少年倶楽部』の表紙絵、また37～40年『新女苑』の名作絵物語の挿絵などを描いている。そのほか、朝日、読売、東京、日経などの各新聞の挿絵でも活躍した。東京で没、77歳。洋画家、挿絵、表紙

松野治敏 (まつのお・はるとし/1851～1908年)

弘前市生れ。藩学稽古館で皇漢学を学び、1872年松野の所属する部隊が近衛師団編入、芳野と再会し、芳野の紹介でチャールズ・ワグマンに洋画を習う。東京在勤3年、名古屋、熊本、金沢。81年弘前帰郷、89年町村制施行に伴い初代村長。初代の西目屋郵便局長。私塾を開設。1908年没、57歳。洋画家、美教

松葉清吾 (まつば・せいご?/1900～1980年)

大阪生れ。1920年本郷絵画研究所に入り岡田三郎助に師事。26～32年渡仏し、パリに滞在、アカデミー・ランソンでジョルジュ・ビシュール、アンドレ・ロートに師事。50年二科会会友、51年会員、九室会にも属し、64年二科展会員努力賞。関西女子美術短大で教えた。抽象作品を専ら描いた。兵庫県で没、80歳。洋画家

松林桂月 (まつばやし・けいげつ/1876～1963年)

山口県生れ。18才で上京して野口幽谷に師事し、松林孝子と結婚して松林姓を継ぐ。日本美術協会展を主な発表の場とし、文展開設後は同展においても受賞を重ねる。1915年審査に対する不満から不出品を宣言して文展廃止論を唱えた。改革要求に対して帝展が開設されると、審査員。帝国日本美術院会員、帝国芸術院会員、帝室技芸員と歴任し、48年日本美術協会理事長に就任。日本南画院をはじめ白寿会、無名会、後素会などの美術団体の結成にも尽力。39年、ニューヨーク万博に出品し好評を博した「春宵花影図」は代表作。53年文化勲章。1963年没、87歳。近代日本南画壇の重鎮。日本画家、南画家、版画

松林千里 (まつばやし・ちさと/1883～1966年)

久留米市生れ。中学修猷館を経て、1903年東京美術学校西洋画科本科入学、黒田清輝に学び、在学中白馬会展第9回展から第11回展連続入選。卒業後は横浜関東学院に美術教師、46年丹青会を設立、54年三崎文化連盟を設立し、地元的美術家たちの指導。1966年没、83歳。洋画家、美教

松原兆雄 (まつばら・かずお/1895～1932年)

ホノルル生れ。1913～16年サンフランシスコ美術学校に学ぶ。卒業後、パリに行き、アカデミー・ジュリアンに入る。19年頃アメリカに戻り、サンフランシスコやロサンゼルスに住み、油彩画・銅版画を制作。カリフォルニア銅版画家協会展、サンフランシスコ美術協会展、国際版画家展(ロサンゼルス美術館)、22年の「East West Art Society 東西美術協会」展(サンフランシスコ美術館)、25年シカゴ銅版画家協会展。29年のロサンゼルス日本人画家展に出品。29年には個展(ロサンゼルス)を開催した。31年個展(日本橋・三越)を開催し、エッチング90点を出品。日本版画協会会員。東京で没、37歳。版画家、油彩

松原三五郎 (まつばら・さんごろう/1864～1946年)

岡山市生れ。初代五姓田芳柳に師事。1885年岡山大阪師範学校に転任。94、96年関西美術会を結成。1901年同会を京都に移す。04年天彩学舎を天彩画塾と改称。大阪で没、82歳。(出典 わ眼)洋画家、美術教育

松原三五郎 II (1864～1946年)

岡山県生れ。岡山中学で佐久間瞬一郎に師事。1880年上京し、五姓田塾に入門、初代芳柳、渡辺文三郎らに学ぶ。ワグマンの講義を聴講。84年帰郷し、岡山師範学校と岡山中学の図画教師を務める傍ら、画塾天彩画舎を開き指導に当たる。85年岡山中で初の洋画展を開催し評判を呼ぶ。「新選普通画学本」佐久間瞬一郎と発行。86年「小学校練画帳」を発行。90年大阪府の要請で大阪師範学校に転任。94年関西美術会(第1次)を結成。96年関西美術会(第二次)を結成。97年日本美術協会大阪支会技芸員。1902年第8回新古美術品展で三等賞。関西美術会第2回批評会で二等賞。04年塾を天彩画塾と改称。08年大阪真美会を創立。23年大阪市美術協会特別会員。25年天彩画塾を解散。46年10月30日大阪で没、享年82歳。(佐)洋画家、美教

松原松造 (まつばら・しょうぞう/1903～2001年)

東京生れ。1922年藤井浩佑に師事。23年太平洋画会研究所彫塑部に入り、院展に参加。36年院展同人。59年燦々会を結成、その後脱会し、太平洋研究所に参加。2001年没、98歳。彫刻家

松原忠四郎 (まつばら・ちゅうしろう/1893～1974年)

長野県生れ。図画専門教師。平塚運一、田辺至に版画の手ほどきを受ける。西田武雄と交友。1934年小林朝治らと信濃創作版画協会設立。版画普及運動

に尽力。61年日本版画協会会員。1974年没、80歳。
版画家

松原直子（まつばら・なおこ/1937年～）

徳島県生まれ。1960年京都市立芸術大学図案科卒。フルブライト奨学生、渡米し、カーネギーメロン大学大学院芸術学科修士課程修了。62年特待生イギリスのロイヤル・カレッジ・オブ・アートに留学。65～68年にはアメリカのプラット大学、ロードアイランド大学で版画を教える。67年ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアの絵本原画展示に推薦出品。木版による明快で力強い作風が特徴で、物語絵から抽象まで幅広い表現を手がける。2009年アメリカのチャタム大学で芸術名誉博士号、15年外務大臣表彰。**版画、絵本、美教**

松原 一（まつばら・はじめ/1896～1965年）

松山市生まれ。愛媛師範学校卒、塩月桃甫の薫陶を受け、東京美術学校に学び、卒業後、鹿児島第二師範学校教諭、1927年郷里松山中学校図画教師として帰任。愛媛美術工芸展審査運営委員、二虹会主宰、松原洋画研究所主宰、愛媛県美術会創立とともに名誉会員。1965年没、70歳。**洋画家、美教、松原洋画研究所主宰**

松久宗琳（まつひさ・そうりん/1926～1992年）

京都生まれ。仏師松久朋琳の長男として生まれる。1938年朱雀第三尋常小学校卒。仏像彩色師八木秀蔵の内弟子。日本画も学ぶ。41年仏師を志し、奈良、京都を巡って飛鳥、白鳳、天平時代の仏像を研究。44年陸軍の要請により成吉思汗像に金箔を施すため渡満、翌月帰国。44年月京都高島屋の家具製造部員として再び渡満、45年帰国。48年木彫家佐藤玄々に入門。50年陶芸家河井寛次郎のもとに通い、以後も交遊を続け、「用の美」等、芸術概念に影響を受けた。50年父朋琳と共に愛媛県出石寺の「仁王像」を制作し、「賽割法」を復活させた。62年京都市山科区九条山に「京都仏像彫刻研究所」を設立し、工房による仏像彫刻の制作を目指す。63年、戦災で失われた大阪四天王寺の「仁王像」を制作。63年滋賀県延暦寺の「智証大師像」「聖徳太子像」(父と共作)を制作。73年京都山科区大宅に工房を設立。75年京都大覚寺「五大明王像」を父と共に制作し、76年京都金閣寺の「岩屋観音像」「四天王像」を制作。78年大阪四天王寺大講堂の「阿弥陀如来像」、79年同寺太子奥殿の「聖徳太子像」「四天王像」を父朋琳と共に制作し、同寺より「大仏師」の称号を受けた。80年延暦寺総持院の「五智如来像」を父と共に制作。83年千葉成田山新勝寺の「五大明王像」「五智如来像」の制作にかか

り、4年を費して完成。同寺より「大仏師」号を受けた。同寺には、91年にも「千手観音像」「弥勒菩薩像」「普賢・文殊菩薩像」を制作。65年代前半には彫刻刀の電動研磨機を開発。73「宗教芸術院」を創設して講習会を開く。著書も多く、『仏像彫刻のすすめ』(昭和48年 日貿出版社)、『仏像彫刻の技法』(同51年 同社)、『仏画と截金』(同52年 中川湧美堂)、『新しい仏像彫刻』(同59年 日貿出版社)などがあり、作品集に『松久宗琳の仏像彫刻』(同63年 秀作社)、『大仏師 松久宗琳』(平成4年 光村推古書院)、伝記に『日本人の魂を彫る』(長尾三郎著 平成2年 講談社)がある。作品の多くは、85年に設立された松久仏像彫刻会館に安置。京都で没、66歳。**仏像彫刻家**

松久朋琳（まつひさ・ほうりん/1901～1987年）

京都生まれ。4歳で京仏師松久家の養子となり10歳の頃から仏像制作。1944年京都市佐京区の大悲山峰定寺三滝上人像を制作。昭和30年代には大阪四天王寺仁王像、比叡山延暦寺大日如来像、弥勒菩薩像、十一面観音像などの代表作を次々と制作。52年京都仏像彫刻研究所を設立指導に当たる。63年大阪四天王寺より「大仏師」の称号を受け、79年には延暦寺より「法橋大仏師」の称号を受ける。動感のある仏像を得意とし、76年のアメリカ建国記念に際しニューヨークに建立された大菩薩禅堂金剛寺の本尊菩薩像をも手がけている。自ら主宰する研究所のほか竜谷大学名誉教授として仏教美術を講ずるなど教育面にも尽くし、『仏教彫刻のすすめ』『京仏師六十年』などを著した。京都で没、86歳。**京仏師、彫刻家、美教**

松宮喜代勝（まつみや・きよかつ/1951年～）

福井県生まれ。1975年大阪芸術大学卒。津高和一ゼミに学ぶ。同年、若狭現代美術研究所を開設。76年北美展で知事賞、85年吉原治良賞美術コンクールで優秀賞。98年にはポーランドのクラクフで個展を開催。2000年西宮大谷美術館で「松宮喜代勝展 彩相(呼吸)」を開催。**洋画家、版画**

松宮芳年(左京)（まつみや・ほうねん・さきょう/1886～1971年）

京都生まれ。1906年京都市立美術工芸学校絵画科卒。07年文展に入選。09年新設された京都市立絵画専門学校本科二学年に編入学し、11年同校本科第一期生として卒。同期に入江波光・榊原紫峰・村上華岳、別科に土田麦僊・小野竹喬・野長瀬晩花らがいる。10年花井抱甕・平井樫仙らと絵画研究団体「桃花会」を結成。17年東京に転居、「左京」名で青龍社展(1934～1943)に出品。42年に社友、50年社人。1971年没、85歳。**日本画家、版画**

松村綾子 (まつむら・あやこ/1906～1983年)

仙台市生れ。1923年頃関西美術院で都鳥英喜、黒田重太郎に師事。27年白聖会結成に参加。34年二科展に入選。37年二科展で特待。37年京展で受賞。40年二科会会友。紀元2600年奉祝美術展に出品。京都市展委員を務める。京都で没、77歳。85年星野画廊で遺作展。(出典 わ眼) **洋画家**

松村菊磨 (まつむら・きくまろ/1904～没年不詳)

兵庫県生れ。金山平三、藤島武二に師事。1928年帝展入選、以降61年まで出品。29年東京美術学校西洋画科卒。72年創元会会員のち常任委員。 **洋画家**

松村景文 (まつむら・けいぶん/1779～1843年)

四条派の始祖・呉春(1752-1811)の異母弟で、幼少より画法を呉春に学ぶ。師の呉春は山水を得意としたが、景文は軽妙な筆致による花鳥画に優れており、同門の岡本豊彦と比較され「花鳥は景文、山水は豊彦」と評された。四条派が画壇の中で高い地位を占めるようになったのは、景文と豊彦の力が大きかったからとされている。妙法院の近侍となった関係で、同院に多くの襖絵が遺されている。 **江戸時代後期の四条派の絵師**

松村健三郎 (まつむら・けんざぶろう/1901～1992年)

福島市生れ。土浦中学校卒。1923年東京美術学校図案科中退。22年新光洋画会展出品。23年光風会展で奨励賞第一席。29年日動画廊創設者長谷川仁は松村の作品も持って行商、日動画廊の元。31年春陽会展に出品。58年新塊樹社創立会員、68年文部大臣賞、85年内閣総理大臣賞。87新塊樹社代表。年91年府中グリーンプラザで個展。1992年没、91歳。 **洋画家**

松村公嗣 (まつむら・こうじ/1948年～)

奈良県生れ。1973年愛知県立芸術大学日本画科卒。片岡球子に師事。日本美術院展入選。95年日本美術院奨学金(前田青邨賞)。2004年 日本美術院展文部科学大臣賞。07年日本美術院展内閣総理大臣賞。日本美術院同人、理事。愛知県立芸術大学学長。 **日本画家、美教**

松村光秀 (まつむら・こうしゅう/1937～2012年)

京都市生れ。1952年京都の看板屋「竹松画房」で働く。絵は独学。京展、二科展に入選。京都祇園の都雅画廊で個展を開催。木彫も創る。2012年没、74歳。(出典 わ眼) **日本画家**

松村光秀 II (まつむら・こうしゅう/1937～2012年)

京都市生れ。絵は独学。京展で紫賞、二科展に入選、二科展で金賞、会員努力賞。関西二科展で10周年記念大賞展。76年シュル美術展三等賞。2008年ギャラリー島田で個展。2010年神戸わたくし美術館、沖縄佐喜間美術館で個展。2012年没、74歳。(出典 わ眼) **日本画家**

松室重剛 (まつむろ・しげただ/1851～1929年)

京都生れ。工部美術学校卒。学習院中等科で西洋画の指導、石膏像を用いた図画教育を行った。1929年没、79歳。 **洋画家、美教**

松村外次郎 (まつむら・そとじろう/1901～1990年)

富山県生れ。1920年吉田白嶺に師事。29年 東京美術学校彫刻科卒業。31～33年パリ留学。30年二科展に出品、会友、36年会員、44年退会。51年二紀会に彫刻部を設立、二紀会委員、67年二紀会副理事長。54年第1回現代日本美術展に招待出品。55年第3回日本国際美術展に招待出品。65年 富山県民会館前庭に「こだま」設置。76年箱根彫刻の森美術館に「西行」設置。89年「蓮如」制作(1996 庄川町に寄贈)庄川町立松村外次郎記念美術館竣工オープン。東京で没、88歳。 **彫刻家**

松村 巽 (まつむら・たつみ/1893～没年不詳)

東京生れ。太平洋画会研究所に学ぶ。1911年文展で褒状。12、13年ヒュウザン会(後のフェウザン会)に出品。17、18年文展入選。19年太平洋画会賞。24年帝展に入選、25、28年帝展で特選。26年帝展無鑑査。 **洋画家**

松村莫章 (まつむら・ばくしょう/1910～1998年)

三重県生れ。1928年帝展入選。29年辻久に師事、本郷絵画研究所に学ぶ。48年光風会会員。58年日展で特選。61年渡欧アカデミー・グラン・ショミエールで学ぶ。68年から無所属、個展中心に発表。98年没、88歳。 **洋画家**

松本 旻 (まつもと・あきら/1936年～)

大阪生れ。1954年より浮世絵摺り師、光本嘉一に師事。63～71年日本版画協会展出品。64年日本版画協会展・山本鼎賞。69年ノースウエスト国際版画展記念賞。70年クラコウ国際版画ビエンナーレ・4 席賞。75年リュブリアナ国際版画ビエンナーレ・グランプリ。79年ジャパン・アート・フェスティバル・大賞(ウツチ美術館他)。80年クラコウ国際版画ビエンナーレ・4 席賞。91年大阪版画トリエンナーレ・特別賞(マイドームおおさか)。 **版画家**

案本一洋 (まつもと・いちよう/1893～1952年)

京都生れ。日本画家案本武雄は弟。京都市立美術工芸学校から京都市立絵画専門学校に進み、1915年同校を卒業。山元春拳の画塾「早苗会」に入門。15、16年文展に入選。27、28年帝展特選を受賞し、帝展・新文展で無鑑査、審査員。24年京都府立美術工芸学校教授、36年京都市立絵画専門学校助教授。42年川村曼舟逝去、「早苗会」解散後、43年画塾「耕人社」を結成し後進の指導。日展依嘱、審査員、参事を務めた。京都市で没、59歳。日本画家、版画、美教

松本英一郎 (まつもと・えいいちろう/1932～2001年)

福岡県生れ。1957年東京芸術美術学部油画科卒、59年専攻科卒。60年独立賞、60年独立美術協会会員。69年多摩美術大学講師、83年多摩美大教授。90年青梅市立美術館で「松本英一郎展」開催。93年池田20世紀美術館で「松本英一郎の世界展」。山梨県で没、68歳。洋画家、美教

松本弘二 (まつもと・こうじ/1895～1973年)

佐賀市生れ。葵橋洋画研究所に学ぶ。広津和郎との交友からアルス社入社、28年企画部長。1921年二科展に入選。29～31年渡仏、グラン・ショミエールに学ぶ、30、31年サロン・ドートンヌに入選。後、絵画制作。41年二科会会員、61年二科会理事、70年二科展で総理大臣賞。個展も多く開催。東京で没、77歳。74年佐賀県立博物館で遺作展。洋画家

松本竣介 (まつもと・しゅんすけ/1912～1948年)

東京生れ。昭和期の洋画家。太平洋画会研究所で学ぶ。麻生三郎、寺田政明と交友。1935年二科展入選、40年に特待となる。九室会会員。43年鬚光、麻生三郎らと新人画会を結成。47年自由美術家協会に出品。48年没、36歳。(出典 わ眼) 洋画家

松本哲男 (まつもと・てつお/1943～2012年)

栃木県生れ。宇都宮大卒、那須高の美術教師を勤めるかわら制作活動を行い、1969年再興日本美術院展(院展入選。79年那須高を退職。84年芸術選奨文部大臣新人賞。93年東北芸術工科大助教授。93年で院展内閣総理大臣賞。96年東北芸術工科大教授、2006年同大学長。日本美術院同人、理事、2012年没、69歳。日本画家、美教、東北芸術工科大学長

松本輝重 (まつもと・てるしげ/1961年～)

大阪生れ。1980年京都大学工学部建築科入学。転部の後85年同大学経済学部卒。87年千葉大学工

学部工業意匠科編入学。89年同大学中退。89～90年アート・ステューデントズ・リーグ(ニューヨーク)留学。02～03年グラン・ショミエール(パリ)留学。洋画家

松本豊太 (まつもと・とよた/1874～1924年)

久留米市生れ。1892年県立中学明善校中退。同校在学中に森三美に洋画を学ぶ。上京し松岡寿に師事。後に帰郷し、福岡県立三潴中学校や私立南筑中学校の美術教員。1906年久留米の洋画研究団体「審美会」名誉会員。13年「来目洋画会」に参加。青木繁や坂本繁二郎に先立つ時代に、筑後洋画壇の基礎を担った一人。1924年没、50歳。洋画家、美教

松本富太郎 (まつもと・とみたろう/1905～1995年)

大阪生れ。大阪市立堂島商業高等学校卒。青木大乗に師事。1928年上京して田辺至に師事。53年日展で岡田賞。56年日展で特選。55年新世紀美術協会創立に参加、56年同展で黒田清輝賞。65年近代美術協会を創立、代表。72～77年渡欧、73年フランス国際展金賞。フランス共和党展金賞。76年フランス・オーヴェルニュー国際展グランプリ。東京、大阪、京都の高島屋で個展。東京で没、89歳。洋画家

松本昇 (まつもと・のぼる/1894～1965年)

福岡県生れ。17歳で上京。太平洋画会研究所に学ぶ。中川一政と交友。春陽会展に出品。岐阜、長野、松本で図画教師。1941年教職を辞し、制作に専念。中信美術会委員長。長野県展副委員長。著書「画の見方」。1965年没、71歳。洋画家、美教

松本昇 (まつもと・のぼる/1931～2009年)

小松市生れ。1952年金沢美術工芸短期大学卒、35年間教職。退職後画業一筋。画業を4期に展開し、昭和20年代後半の色彩を抑え荒いタッチで描いた裸婦作品、昭和40年代から50年代初めの今江潟干拓地や草原、ゴビやアラブなどの砂漠を描いた風景画、昭和50年代・60年代の小刻みなタッチで埋め尽くされる人物画と、虚実を交えて追い求めた自画像、そして晩年の、逞しい造形に華やいた色彩を加味する円熟の裸婦と人物画など、実に豊かな歩みを見せています。洋画家、美教

松本宏 (まつもと・ひろし/1934～2013年)

兵庫県生れ。1957年東京芸術大学絵画科卒。58年行動美術展、60年新人賞。シエル美術賞展、安井賞候補新人展に出品。73年兵庫県美術祭で金山平三賞。油彩画のほか銅版画も制作。62～92年神戸大学教育学部教鞭。2000年加古川総合文化センターで「松本宏展 心象風景」開催。2013年没、79歳。洋画家、美教、版画

松本楓湖 (まつもと・ふうこ/1840～1923年)

茨城県生れ。沖一岷(いちが)、佐竹永海、菊池容齋にまなび、歴史画や挿絵をかいた。日本美術院創設にくわり、展審査員、帝国美術院会員。安雅堂画塾をひらき、今村紫紅、速水御舟らをそだてた。1923

年没、84歳。代表作に「蒙古(もうこ)襲来・碧蹄(へきてい)館」「静女舞」。日本画家

松本芳年 (まつもと・ほうねん/1931年～)

福岡県生れ。1951年福岡学芸大学小倉分校入学、53年本校に編入。1963、64年「朝日賞全九州・山口絵画コンクール」出品、朝日準賞、八幡美術館賞。67年「GROUP制作会議」「SEVEN展」(北九州市立八幡美術館)を組織。70年「九州制作会議」と改称、77年一旦解散)。84年「九州制作会議」を再結成し、小松豊、松川英俊、土田恵子らと毎年展覧会を開催(現在に至る)。68、69年「九州・現代美術の動向展」(福岡県文化会館)に出品、桜井孝身、菊畑茂久馬と出会う。洋画家

松本保居 (まつもと・やすおき/1786～1867年)

京都府生れ。5代目儀平源清信の嫡子。家は代々、儀平を称し、元々は堺で宮家御用の数珠を作っていたが、5代目から京都に移住。保居は6代目、数珠屋を廃業し、鴨川儀平とも称し、玄々堂(初代)と号を改めて銅版画師に転向。長崎においてオランダ人に絵画を学んだ、1836年頃から地図や西洋王侯の肖像、外国の風景、京阪名所絵などといった銅版画を制作刊行。蘭画も描いており、油絵をいう名称を初めてつける。高野長英とも親交。1867年没、82歳。江戸時代の版画家、初代玄々堂

松山省三 (まつやま・しょうぞう/1884～1970年)

広島市生れ。1907年東京美術学校西洋画科選科卒。その後、黒田清輝、岡田三郎助、和田英作、藤島武二らに師事、白馬会展、官展に出品。15年院展洋画部に出品。1970年没、86歳。洋画家

松山忠三 (まつやま・ちゅうぞう/1880～1954年)

青森県生れ。水彩画講習所に学ぶ。太平洋展に4回出品。「みづゑ」に作品掲載。1911年渡英。ロイヤル・アカデミーを中心に出品を続け、英国で活躍。英国の美術雑誌に作品掲載。英国籍取得。英国で没、73歳。(出典 わ眼)水彩画家

松山文雄 (まつやま・ふみお/1902～1982年)

長野県生れ。農業の傍ら通信講義録で絵画を独習。1924年上京、25年東京・本郷絵画研究所に入り絵を学ぶ。「コドモノクニ」に童画を発表。26年日本漫画連盟に参加。挿絵を描く。27年プロレタリア芸術連盟美術部員。45年赤旗に政治漫画。46年日本美術会、日本童画会の創立に参加。著書「柳瀬正」、「日本プロレタリア美術史」を残す。東京で没、79歳。漫画家

間所紗織 (芥川沙織)(まどころ・さおり/1924～1966年)

豊橋市生れ。東京音楽学校声楽科卒。1948年同級生芥川也寸志と結婚。54年モダンアート協会展新人賞。55年二科展で特待。58年離婚。58～62年渡米、ロスを経て、NYで油彩を学ぶ。建築家間所幸雄と再婚。62年滞米作で個展。66年没、42歳。洋画家

真鍋秀雄 (まなべ・ひでお/1914～1988年)

1914年生れ。36年日本美術学校卒。38年福沢一郎絵画研究所に学ぶ。独立展に出品。40年美術文化協会展で協会賞、42年同会会員。58年同会退会。個展を中心に発表。1988年没、74歳。洋画家

真野紀太郎 (まの・きたろう/1871～1958年)

名古屋市生れ。1879年上京東京英語学校に入学。洋画を中丸精十郎、原田直次郎に師事。07年大下藤次郎、丸山晩霞らと水彩画講習所(日本水彩画研究所)を開設。13年日本水彩画会を創立。21～22年渡欧。海外取材多い。94年以降図画教師(私立日本中、後理事)風景、バラを描いた。東京で没、86歳。水彩画家

真野暁亭 (まの・ぎょうてい/1874～1934年)

江戸生れ。河鍋暁斎及び久保田米僊の門人。父の真野暁柳も暁斎の弟子。日本画家の真野松司は長男、日本画家の真野満は次男。暁斎画塾での1884年暁斎に入門、内弟子。狩野派の技法を修め、山水画、人物画を能くした。師暁斎が亡くなった後も、河鍋暁雲・暁翠・土屋暁春ら先輩が内国勸業博覧会や日本美術展覧会で活躍するのは対照的に、絵画修業に励む。1893年京阪方面へ旅行し、西方寺(茨木市)や九品寺、月照寺などに参拝、スケッチを残している。1894年日本青年絵画協会絵画共進会で三等褒状。1901年絵画研究会三等賞銅印。09年褒状一等を受賞。また、01年美術展覧会で二等銀賞。日月会、大東絵画協会、巽画会会員。07年東京勸業博覧会三等賞牌。文展開設では正派同志会(旧派)結成に評議員として参加。29年美術展覧会三等賞銅牌を、31年美術展覧会三等賞。31年日本美術協会の会員。東京で没、61歳。門人に山本暁邦がいる。明治時代の浮世絵師、日本画家

真野 満 (まの・みつる/1901～2001年)

東京生れ。尾竹竹坡に絵の手ほどきを受ける。1927年京都市立絵画専門学校卒。37年安田靱彦に師事、38年院展に入選。41年院展「で日本美術院賞第三賞。40年より法隆寺金堂壁画の模写に文部省囑託として従事し、中村岳陵の班で五号壁を担当した。52、54、55年院展で奨励賞、57年院展で日本美術院

賞、57年日本美術院同人、71年院展で文部大臣賞、80年院展で内閣総理大臣賞。78年日本美術院評議員。91年「大和絵六十年の歩み 真野満展」が日本橋三越で開催。2001年没、99歳。 **日本画家**

馬淵 聖 (まぶち・とおる/1920～1994年)

東京生れ。第二東京市立中学校を経て、1941年東京美術学校工芸科図案部卒。40年光風会展、造型版画協会展に入選。42年造型版画協会会員、50年退会。51年日展入選し、以後日展に出品。52年日本版画協会会員。56年光風会会員、67年評議員。60年日版会創立に参画、81年日版会会長。神奈川県で没、74歳。 **版画家**

馬淵録太郎 (まぶち・ろくたろう/1890～1992年)

横浜市生れ。1903年赤坂溜池の生巧館に入門、9年間木口木版の彫りを修める。写真製版の修整を手がけ、また独自にエアブラシを研究し、17年写真製版と商業デザインの会社「太郎吉図案所」を創立。エアブラシによる写真版修整の先駆け。32、33年日本版画協会展に入選。47年の刊本作品『お猫様』の活版・木版の摺り、61年の同『宇宙裁縫師』の木口木版の彫りも手がけた。日本版画会に67年の第8回展から21回展まで出品。85年の私家版『木口木版 伝来と余談』発刊。神奈川県で没、102歳。 **版画家**

間部時雄 (まべ・ときお/1885～1968年)

熊本県生れ。1898年熊本県工業学校染織工科入学、翌年京都市染織学校機織科に転入。1902年京都市染色学校卒。05年京都高等工芸学校図案科卒、06年同校助教授。浅井が主宰の聖護院洋画研究所で学ぶ。関西美術院に移籍、10年関西美術院教授。07年関西美術会競技会で一等賞。20～25年文部省海外研究員、留学。サロン・ドートンヌ入選。銅版画の技法を取得。27年白日会会員。25年日本創作版画協会会員。30年洋風版画会創立会員。31年日本版画協会会員。1968年没、83歳。(コレクター高野光正氏の献身的ともいえる努力で500点を収集) **洋画家、版画、水彩、美教**

間部 学 (まべ・まなぶ/1924～1997年)

熊本県生れ。1934年ブラジルに渡る。20歳頃から絵を描きはじめ、日系人画家グループ聖美会に所属。59年サンパウロ・ビエンナーレ国内大賞、60年ヴェネチア・ビエンナーレ、フィアット賞。54年サンパウロ近代美術展小銀賞、55年大銀賞、56年小銀賞、57年大銀賞。57年国立美術展無鑑査。58年サンパウロ近代美術展で州知事賞。59年ブラジル年間総合最優秀賞、レイネル賞。59年サンパウロ・ビエンナーレ国内大賞、第1回パリ青年ビエンナーレ展のブラジル代表出品し、最高賞(ブラウン賞)。75年サンパウロ美術館回顧展、78年熊本県立美術館、神奈川県立近代美術館、国立国際美術館を巡回個展。96年熊本で回顧展を開催。サンパウロで没、73歳。 **洋画家**

眞山孝治 (まやま・こうじ/1882～1981年)

岩手県生れ。東北学園中学卒。日本画を学ぶ。1897年上京し、白馬会研究所に学ぶ。1907年第11回白馬会展に出品、12回展にも出品。08年第2回文展に初入選。09年第3回文展で褒状。10年第4回文展で三等賞。以後、7回展まで出品。12年第1回光風会展に出品。満鉄の招きで満州へ。31年～35年渡仏。37年第1回新文展に出品、38年2～3回展まで無鑑査出品。その後、中央への出品を止め、宮城県多賀城市に移住。81年没、享年99歳。(佐) **洋画家**

丸木位里 (まるき・いり/1901～1995年)

広島県生れ。母はスマ、妻は俊。1936年青龍写展入選。39～46年美術文化協会創立に参加。47年前衛美術会を結成。50年日本アンデパンダン展に妻と共作の「原爆の図」を出品。53年国際平和文化賞。61年日本国際美術展で「臥龍梅」が優秀賞。67年原爆の図丸木美術館開館。埼玉県で没、94歳。 **日本画家**

丸木スマ (まるき・すま/1875～1956年)

広島県生れ。70歳を過ぎてから絵を描きはじめる。1950年女流画家協会展入選。51～53年院展入選、同会会友。56年没、81歳。丸木位里の母。1917年一宮市三岸節子記念美術館、原爆の図丸木美術館で個展。 **洋画家**

丸木 俊 (赤松俊子) (まるき・とし/1912～2000年)

北海道生れ。1933年女子美術専門学校卒。41～46年美術文化協会展に出品、44年美術文化協会会員。原爆救援活動後、夫丸木位里と「原爆の図」を描く。女流美術家協会、十一会に所属。50年アンデパンダン展に「原爆の図」出品。日本全国巡回。53年国際平和文化賞。世界巡回展開始。絵本の挿絵制作。67年原爆の図丸木美術館開館。2000年東松山市で没、88歳。 **洋画家**

丸投三代吉 (まるなげ・みよきち/1911～1991年)

姫路市生れ。日本画家、独学。1955年姫路市美術展で市長賞。58年再興日本美術院展に入選。79年日本美術院展で特待。80年姫路市文化賞。91年没、79歳。郷土の自然や風物を色彩豊かに描いた。童心に満ち溢れた楽しい絵。91年没、79歳。 **日本画家**

円山応挙 (まるやま・おうきよ/1733～1795年)

京都府生れ。圓山應擧、15歳頃、京都に出て鶴沢派の石田幽汀に師事。近現代の京都画壇にまでその系統が続く「円山派」の祖であり、写生を重視した親しみやすい画風が特色である。円満院、三井家、宮中などの庇護を受け、多くの門人とともに近代の京都画壇にとどまらず近代「日本画」をつくりだす重要な要素となった。1795年没、62歳。 **江戸時代中期～後期の絵師**

丸山貴美子 (まるやま・きみこ/1947年～)

東京生まれ。1990年から10年間、障害者施設の

絵画指導に携わる。2001～02年、空想ガレリア(東京)個展。04年アートギャラリー環(日本橋)個展とグループ展。06年アートギャラリー環個展。08年 SPIN GALLERY 個展。09年、ぎやらいいぶき個展。**洋画家、版画家**

画家、美教

萬場孝康 (まんば・たかやす/1919～1984年)

長野県生れ。1946年全信州美術会会員。55年光風会展、56年日展に入選。74年光風会会員。76年日展会友。1984年没、65歳。**洋画家**

丸山古香 (まるやま・こう/1873～1928年)

詩人の北村溪谷は実兄。久保田米僊に学ぶ。内国勸業博覧会や絵画共進会に歴史画を発表。流派にとらわれない自由な美術団体を構想し、1901年岡倉秋水らと日月会を設立、自然主義的な風俗画、風景画を手がけた。1928年没、55歳。**日本画家**

み

三井田盛一郎 (みいだ・せいいちろう/1965年～)

東京生れ。1992年東京芸術大学卒、版画「期待の新人作家」大賞展・大賞。93年 TOKYO まちだ国際版画展(町田市立国際版画美術館)。94年現代日本美術展・96年佳作賞、クラコウ国際版画トリエンナーレ。96年絵画の方向'96展(大阪府立現代美術センター)。97年リュブリアナ国際版画ビエンナーレ。98年 VOCA'98(上野の森美術館)。99年オーストラリア文部省におけるアーティスト・インレジデンスに参加。東京藝術大学美術学部准教授。**版画家**

丸山栖鷺 (まるやま・せいおう/1900～1971年)

長野県生れ。丸山晚霞の長男。1922年帝展彫塑作品入選。24年東京美術学校彫刻科選科塑造部卒。26年大倉陶園に入社。27年聖徳太子奉賛展賞。47年長野で陶彫研究所開設。51年より絵画に専念。64～71年太平洋展に出品、同会会員。66年日本水彩画会展に出品。70年同会三宅氏賞、同会会友。日光市で没、71歳。**彫刻家、陶芸、水彩**

三浦明範 (みうら・あきのり/1953年～)

秋田県生れ。1976年東京学芸大学卒。83～84年文化庁派遣芸術家研修員。96年文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルギー滞在。武蔵野美術大学造形学部教授。春陽会会員。**洋画家**

丸山妙子 (まるやま・たえこ/1908～1989年)

福島県生れ。滞欧、アカデミー・ジュリアン修了。ポナール、ルオーに師事。里見勝蔵に師事。女子美術学校洋画科卒。1967年以降ペンシルバニア芸術家協会会員。「70年会」創立会員。元光陽会常任委員。伊豆市で没、82歳。**洋画家**

三浦 泉 (みうら・いずみ/1958年～)

石川県生れ。1983年金沢美術工芸大学大学院修了。85年光風会展奨励賞、90年光風会会員。96年日展特選。昭和会展招待出品。安井賞展に出品。文化庁現代美術選抜展、96年安田火災美術財団奨励賞展(秀作賞)石川県現代美術展(美術文化大賞)等に出品。無所属。(出典 わコレ)**洋画家**

丸山豊一 (まるやま・とよいち/1912～1982年)

1912年生れ。東京高等師範学校卒。57年光風会会員。日展会友。富山大学名教授。1982年没、70歳。**洋画家、美教**

三浦 巖 (みうら・いわお/1917～1982年)

大阪生れ。第三高等学校卒。1941年東京大学文学部東洋史学科卒、同大学院へ進学。42年より本郷洋画研究所に学ぶ。49年日本水彩画会展でみづゑ賞、同会会員、51～54年同会委員。64～65年渡欧。70年ル・サロンで銀賞、71年ル・サロンで金賞、以後ル・サロン無鑑査。日仏両国で活躍。画文集『絵になる時』(63年、七曜社)『大空画室』(68年、美術出版社)『白日夢』(私家版)を著し、77年には『東大石版画集』を刊行、また、技法書として『水彩画法十二ヶ月』(80年、溪水社)を出版している。東京で没、65歳。**洋画家、水彩画、著**

丸山直文 (まるやま・なおふみ/1964年～)

新潟県生れ。1990年Bゼミスクーリングシステム修了。92年「現代美術への視点: 形象～はざまに」東京国立近代美術館、国立国際美術館。96年文化庁芸術家在外研修員。98年ポーラ美術館振興財団奨学生としてベルリンに滞在。99年「ひそやかなラディカリズム」東京都現代美術館。2008年「丸山直文展 - 後ろの正面 - 」目黒区美術館。09年芸術選奨新人賞。00年武蔵野美術大学教授。**洋画家、美教**

三浦小平二 (みうら・こへいじ/1933～2006年)

佐渡市生れ。1951年東京芸術大学美術学部彫刻科入学、平櫛田中に指導を受ける。高田直彦らと陶磁器研究会(陶研)をつくり、加藤土師萌に師事し、芸大最初の窯を築く。京都の製陶会社や岐阜県陶磁器試験場にて陶技を根本から学ぶ。その後、母校に戻り、助手、非常勤講師を務めながら制作の目標を灰釉陶器から鈎窯、青磁へと定めた。76年日本伝統工芸展で文部大臣賞。92年郷里に「三浦小平二小さな美術館」を設立、93年日本陶磁協会賞金賞。94年MOA岡田茂吉賞工芸部門大賞。95年日本伝統工芸

丸山晚霞 (まるやま・ばんか/1867～1942年)

長野県生れ。彰技堂に学ぶ。1890年内国勸業博覧会に出品。96年吉田博を知る。98年明治美術会記念展に出品。99～2001年渡米欧。01年太平洋画会創立会員。07年日本水彩画会研究所を設立。13年日本水彩画会創立評議員。長野県で没、74歳。(出典 わ眼)**水彩画家、版画**

万羽 章 (まんば・あきら/1921～1991年)

長野市生れ。篠原新三、辻村八五郎に師事。中学校などで教員をしながら光風会、日展に出品。1961年光風会会員。長野市で没、70歳。(出典 わ眼)**洋**

展で日本工芸会保持者賞、96年紫綬褒章。97年青磁で重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定。2000年東京芸術大学名誉教授、文星芸術大学陶芸科主任教授。2006年「[作陶 50 年]人間国宝三浦小平二展」を日本橋三越、新潟三越で開催。2006年没、73歳。陶芸家、人間国宝、美教

三浦俊輔 (みうら・しゅんすけ/1911~2010年)

東京生れ。1930年日本美術学校卒。春陽会研究所入所。46年一水会会員、56年優賞、60年委員、73年常任委員、運営委員。37年富士見高等女学校講師。62年大調和再興創立委員。73年慈彩会理事長。75年日本民生文化協会理事、87年理事長。92年厚生大臣賞。2010年没、99歳。洋画家

三浦鮮治 (みうら・せんじ/1895~1976年)

神奈川県生れ。山崎省三とともに上京、日本美術院洋画部絵画自由研究所の研究生となり、のちに本郷洋画研究所でも学んだ。1917年22歳の時に家業を継ぐために小樽に戻り、17年小樽洋画研究所を設立、後進の指導を始めた。研究所には中村善策がいた。24年太地社を設立。25年北海道美術協会の設立に参加、創立会員。36年小樽出身の美術家らと北方美術協会を結成。47年小樽市美術展覧会創立委員。1976年没、81歳。洋画家

三浦直政 (みうら・なおまさ/1897~1988年)

大分県生れ。1921年東京美術学校図画師範科卒。一時熊本県第二師範学校に勤務したが、28~32年母校の美術学校で手工・自在画を教えた。42年新文展入選。創元会展、光風会展に出品。戦後は郷里に帰り、大分県の美術教育に貢献した。1988年没、91歳。洋画家、美教

三浦 徹 (みうら・とおる/1937年~)

神戸市生れ。1963年、神戸医科大学卒。79年陶芸教室入門(松木三男、南汎氏に師事)。91年神戸市市民美術展入選。92年兵庫県展入選。兵庫県工芸美術展入選11回。93年日本伝統工芸展近畿展入選、以降入選3回。94年自宅に青山窯を造る。長三賞現代陶芸展ビエンナーレ入選。陶芸家、神戸わたくし美術館館長

三浦洋一 (みうら・よういち/1916~2012年)

熊本県生れ。九州医学専門学校入学、同校に美術部創設。熊本医科大学に勤務し、作品発表。1950年に坂本善三らと「杏美会」を結成。52年独立展入選、62年独立賞、68年会員。熊本県文化懇話会代表世話人、熊本県文化協会長、文化振興につとめ、93年熊日賞、同年熊本県近代文化功労者。2012年没、95歳。洋画家

三尾公三 (みお・こうぞう/1923~2000年)

名古屋市生れ。1942年京都市立絵画専門学校日

本画本科卒。名古屋市立田光中学校の美術教師。53年光風賞を受賞、59年光風会会員。68年ジャパン・アート・フェスティバルで優秀賞(文部大臣賞)。サンパウロ・ビエンナーレ日本代表出品。75~83年京都市立芸術大学教授。74年東京国際具象絵画ビエンナーレでグランプリ。79安田火災東郷青児美術館大賞。97年芸術選奨文部大臣賞。京都で没、76歳。(出典 わ眼)洋画家

三上晴子 (みかみ・せいこ/1961~2015年)

静岡県生れ。84年から鉄クズ、コンクリート片などの廃棄物を素材にしたオブジェを用いたパフォーマンスを開始。85年サッポロビール恵比寿工場跡で初個展。舞台装置。91年に渡米、95年にニューヨーク工科大学大学院情報科学研究科コンピュータ・サイエンス専攻を修了、2000年までニューヨークを拠点とし、欧米のギャラリーやミロ美術館(スペイン)、ナント美術館(フランス)などの現代美術館、またトランス・メディアール(ベルリン)や DEAF(ロッテルダム)、アルス・エレクトロニカ(リンツ)をはじめとする世界各国のメディアアート・フェスティバルで発表。2010年、第16回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科メディア芸術コース教授。2015年没、53歳。パフォー、造形、インスタ、オブジェ、メディア、美教

三上隆彦 (みかみ・たかひこ/1916~1988年)

東京生れ。明治大学卒。1934年白日会展に入選。独立美術協会展に14年間出品(恩師:中村節也)。ニューヨーク・ナショナル・アカデミー美術学校に学ぶ。日揮会美術協会会長。ニューヨーク・サニー美術院院長。84年2回にわたり、紺綬褒章。84年オランダ共和国ロッテルダム市名誉章。サンフランシスコ市、サクラメント市の名誉市民。1988年没、72歳。洋画家、美教、版画

三上友治 (みかみ・ともじ・ともはる/1886~1974年)

東京生れ。1902年不同舎、太平洋画研究所に学ぶ。08年太平洋画会会員。09、11年文展で褒状。24~25年渡欧。28年帝展で特選、30年帝展無鑑査。47年示現会創立会員、64年示現会代表、67年示現会展で特別陳列。太平洋美術学校で指導。日本水彩画会名誉会員。東京で没、88歳。洋画家、美教、水彩画、版画

三上 浩 (みかみ・ひろし/1931~2006年)

福岡県生れ。1951年福岡学芸大学卒。65年示現会展、石川賞。67年新日展、特選。79年改組日展、特選。91、95、98年日展、審査員、99年日展、文部大臣賞。日展評議員・示現会常務理事・日本美術家連盟会員。2006年没、74歳。洋画家

三上 誠 (みかみ・まこと/1919~1972年)

大阪生れ。京都市立絵画専門学校を卒業。1949年星野眞吾らとパンリアル美術協会を結成。51年パンリアル美術協会会長。日本画、コラージュを制作。

52年結核、手術。福井大学学芸部非常勤講師。福井県文化芸術賞。72年没、52歳。(出典 わ眼) **日本画家、パンリアル主宰**

三木凱歌 (みき・いさむ/1904~1985年)

和歌山市生れ。1926年東京美術学校彫刻科塑造部入学。建島大夢に学ぶ。31年同校彫刻科塑造部本科卒。「カナモジカイ」で視覚障害者対象のカナ文字タイプライターの研究開発に従事。彫刻の制作を続け、32年国画会展、帝展、新文展、戦時展、紀元2600年奉祝展に出品。40年大夢門下の「直土会」会員。戦後は日展に出品。活字設計を手がけ、49年に片仮名書体「アラタ」を発表。片仮名・平仮名の金属活字書体、タイプライター用書体の開発・設計、「財団法人カナモジカイ」の理事。東京で没、81歳。 **彫刻家、版画**

三岸好太郎 (みぎし・こうたろう/1903~1934年)

札幌市生れ。1924年春陽会賞。横堀角次郎らと麗人社を結成。吉田節子と結婚。30年独立美術協会創立会員。名古屋市で没、31歳。77年北海道立三岸好太郎美術館が開館。(出典 わ眼) **洋画家**

三岸黄太郎 (みぎし・こうたろう/1930~2009年)

東京生れ。父は洋画家・三岸好太郎、母は三岸節子。1953~55年渡仏。兜屋画廊、大阪梅田画廊で個展。56年新樹会会員。昭和会展招待出品。東邦画廊、日本橋三越、日動画廊、高島屋等で個展。2009年没、79歳。(出典 わ眼) **洋画家、版画**

三岸節子 (みぎし・せつこ/1905~1999年)

愛知県生れ。吉田節子。1924年女子美術学校を首席で卒業。三岸好太郎と結婚。独立美術協会に出品。34年女紳会創立。39年新制作派協会会員。47年女流画家協会創立に参加。68~89年フランスへ移住。94年文化功労者。大磯市で没、94歳。(出典 わ眼) **洋画家**

三木 淳 (みき・じゅん/1919~1992年)

倉敷市生れ。1941年土門に弟子入り助手。43年慶応大学卒。49年ライフ誌に掲載されたシベリア抑留帰還旧日本兵の写真が世界的に注目、49~57年タイムライフ社に入社。57年タイムライフ社を退社してフリーランスとなり、「インカとブラジル」「メキシコ写真展」「ニューヨーク五番街物語」の展覧会を開催。写真集に『写真メキシコ-遺跡の中の青春』(教養文庫)、『サンバ・サンバ・ブラジル』(研光社)。74年ニコールクラブ会長、同81年日本写真家協会会長となり、89年には日本写真作家協会を設立して同協会会長と

なった。77年日本大学芸術学部教授となり、83年師士門拳の記念館の初代館長となった。日本の報道写真家としては先駆的存在であり、日本写真界の指導者的役割を果たした。東京で没、72歳。 **写真家、日本写真家協会会長、日本写真作家協会会長などをつとめた報道写真家**

三木翠山 (みき・すいざん/1883~1957年)

兵庫県生れ。1900年竹内栖鳳に師事し、竹杖会において日本画の研鑽を積む。13年文展入選。以降、文展や帝展といった官展で活躍。25年京都佐藤章太郎商店、版元から、京都風俗を取り上げた新版画「新選京都名所」シリーズを版行、25年吉川観方と創作版画展を開催。32年帝展無鑑査。42年栖鳳没後は無所属、個展で発表。52年1年余り渡米し、美人画の個展を開催、53年メトロポリタン美術館から終世名誉会員の称号。京都市で没、75歳。 **日本画家、版画**

三木宗策 (みき・そうさく/1891~1945年)

福島県生れ。山本瑞雲に木彫を学ぶ。1925年帝展特選、のち無鑑査、審査員。40年正統木彫家協会を結成。作品に広島県生口島の耕三寺七観音など。福島県で没、53歳。 **彫刻家**

三木辰夫 (みき・たつお/1904~1987年)

東京生れ。1928年東京美術学校西洋画科卒。29年帝展入選。30年渡欧、ロンドン大学付属スレード・アート・スクール、ロンドン市立セントラル・アート・スクールに学ぶ。エッチング専攻。34年帰国。第一美術協会会員。87年没、83歳。 **洋画家、版画**

三木俊治 (みき・としはる/1945年~)

栃木県生れ。1968年東京造形大学造形学部美術学科彫刻専攻入学。彫刻に何ができるかを自問し世界放浪の旅をする。73~2013年教授、退職まで母校で彫刻を教える。85年の筑波EXPOの集英社館のパビリオン原型制作、84年美ヶ原高原美術館賞／高村光太郎大賞展。89年東京野外現代彫刻展優秀賞、市民賞、中原悌二郎優秀賞。96年美ヶ原高原美術館開館15周年記念賞(「TUES—現代彫刻の展望」)。94年倉敷マスカット球場のメインモニュメントを制作。パブリックモニュメントを多く手がけた。 **彫刻家、美教**

三木富雄 (みき・とみお/1938~1978年)

東京生れ。東京公衆衛生技術学校卒、中央美術学園通信教育部入学。1964年荒川修作、中西夏之ら6人と「ヤングセブン」展に出品。64年現代日本美術展

で「耳」がコンクール賞。67年日本国債美術展で日本国際美術振興会賞。パリ青年ビエンナーレ展でアンドレ・シェス賞。69年現代日本美術展でフロンティア賞。多くの国際美術展に出品。1978年没、41歳。81年福岡市美術館で回顧展。妻は合田佐和子。彫刻家

三木 弘 (みき・ひろし/1900～1982年)

和歌山県生れ。和歌山県立農林学校卒。1920年太平洋画研究所に学ぶ。22年本郷洋画研究所に学ぶ。26年渡仏、アカデミー・ランソンでピッサエール・ロッシュの指導を受ける。28年二科展入選。戦後は自由美術家協会会員、61年まで出品。京都で「都新聞」文化部記者。月刊誌「汎美術」を発刊。54年資生堂ギャラリーで個展。京都で没、82歳。洋画家

三国慶一 (みくに・けいいち/1899～1980年)

弘前市生れ。1916年文展入選、22年帝展入選し、26年東京美術学校卒。29、31年帝展で特選。無鑑査となり、31年に審査員。この頃日本木彫会で幹部会務員として活躍。50年日展依嘱出品、58年評議員、76年以降参与。日本表象美術協会にも所属した。東京で没、80歳。彫刻家

三國 久 (みくに・ひさし/1885～1966年)

新潟県生れ。1911年東京美術学校卒。14年大正博覧会美術展に入賞。帝展に3回入選。29年青山熊治・栗原忠二らと共に第一美術を創立、同人。36年海軍従軍画家として上海・南京方面に従軍し、石井柏亭・石川寅治とともに海軍館の壁画を描いた。46年近松行雄・本間勝太郎らと共に狭門会を創立、同人。46～66年相川高校等で美術講師。1966年没、80歳。洋画家、美教

三雲祥之助 (みくも・しょうのすけ/1902～1982年)

京都市生れ。1923年京都帝国大学文学部史学科中退。24年頃～35年渡欧、アカデミー・コロロッシに通いシャルル・ゲランに師事。サロン・ドートンヌ入選。39年小説の挿絵制作。43年春陽会会員、文展無鑑査。51～74年武蔵野美術大学教授。73年武蔵野美術学園長。57年日本国際美術展で佳作賞。東京で没、80歳。洋画家、挿絵、美教

御厨純一 (みくりや・じゅんいち/1887～1948年)

佐賀市生れ。白馬会第二研究所に通う。1912年東京美術学校西洋画科卒。20年帝展に初入選。26～28年渡仏。29年第一美術協会会員。37～43年海洋美術会創立会員。従軍画家。東京で没、60歳。(出典 わ眼) 洋画家

三坂耿一郎 (みさか・こういちろう/1908～1995年)

福島県生れ。1937年東京美術学校彫塑科卒、新文展初入選。39年同校研究科修了。47年日展特選、61年日展審査員、70年日展桂花賞、71年日展評議員、72年日展文部大臣賞。79年日本芸術院賞。83年勲四等旭日小綬章。86年日本芸術院会員。87年郡山市名誉市民。92年勲三等瑞宝章受章。東京で没、87歳。彫刻家

三迫星洲 (みさこ・せいしゅう/生没年不詳)

従軍画家、探検画家と称した外地風景風俗絵葉書で知られる。取材地は1917年朝鮮半島、31年露満国境ゴビ沙漠、32～33年満州事変従軍、34年南洋諸島、35年満州、36～37年北支、39年台湾、40年大東亜共栄圏の東南アジア各地。(出典 わ眼) 洋画家

三澤 忠 (みさわ・ただし/1935年～)

長野県生れ。桜井慶治に師事。1963年光風会展入選。71年白日会展で白日会会員。83、86年日展特選。93年日展会員、文部大臣賞。信州の雪を描く作家として白日会、日展評議員、理事で活躍。洋画家

三塩清己 (みしお・きよみ/1929年～)

佐賀県生れ。森田茂に師事。1974、78年日展特選。74年東光展文部大臣賞受賞、日展審査員3回、個展・グループ展多数開催。日展評議員、東光会副理事長。画壇の重鎮として活躍。確かな画力とセンスで高い支持を得る。洋画家

三島喜美代 (みしま・きみよ/1932年～)

大阪生れ。1951年大阪市立扇町高等学校卒、86～87年ロックフェラー財団(ACC)より米、NYに留学。69年今橋画廊(大阪)、70ギャラリー16(京都)、72年村松画廊、2001年ミキモト本社等で個展。54～69年独立展、63年独立賞、須田賞、64年関西独立賞。65年シェル美術賞展佳作賞。66年毎日美術コンクール賞。ファエンツァ国際陶芸展(伊)で74年ゴールドメダル。92年現代日本陶芸展(エヴァーソン美術館、ニューヨーク、アメリカ) 前衛作家、陶芸、版画、コラ、造形

御正 伸 (みしょう・しん/1914～1981年)

東京生れ。川端画学校、鈴木千久馬絵画研究所に学ぶ。47～70年光風会展に出品。57年光風会会員。50～70年日展に出品。72年三軌会会員、74年同展で文部大臣賞、77年三軌会代表。48年～時代小説の挿絵画家(富田常雄、柴田錬三郎、新田次

郎)、歌舞伎絵も手掛ける。81年没、66歳。**洋画家、挿絵**

水井康雄 (みずい・やすお/1925～2008年)

京都生れ。1944年京都市立第一工業学校機械科卒、49年神戸工業専門学校機械科卒、53年東京芸術大学彫刻科卒。平櫛田中、菊池一雄に師事、仏政府給費生としてパリに留学、パリ国立美術学校に学ぶ(～58年)。54～58年彫刻家 A・フェノザの助手。59年パリ青年ビエンナーレで A・シュス個人賞。64年高村光太郎賞、代々木オリンピック・バスケット競技場に「余韻の化石」設置。68年バーモント州彫刻シンポジウム(米)、ボルドー大学法学部(仏)に「泉の化石」設置。パリ大学理工院(仏)に「ある発生」設置。81年ヘンリー・ムア大賞展で優秀賞。83年個展(カサハラ画廊他)。85年仏政府より文化勲章(コマンドール級)を授与、第13回神戸ユニバーシアード記念の噴水彫刻「六甲」を神戸総合運動公園に設置。**パリを拠点とし国際的に活躍した、日本の石の彫刻家**

水上泰生 (みずかみ・たいせい/1877～1951年)

福岡市生れ。1906年東京美術学校日本画科首席で卒。寺崎広業に師事し、07年東京勸業博覧会褒状。07年福岡県女子師範学校教諭。14年文展で3等賞。15年文展で3等賞。27年帝展委員、28年帝展の無鑑査。35年帝展改組で第一部会の結成に実行委員。37年革新日本画会の結成に創設会員。43年新文展)無鑑査出品。東京で没、73歳。**日本画家、美教**

水上信雄 (みずかみ・のぶお/1904～1994年)

1904年生れ。27年東京美術学校西洋画科卒。東京美術学校西洋画科卒業の東京市内小学校に勤務する教師たちで組織された「光言会」に参加。版画制作。25年帝展に洋画で入選。1936年光風会展に出品、38年同会会員。著作には『画の本』(小峰書店1951)。挿絵を描いた。1994年没、90歳。**洋画家、版画**

水木伸一 (みずき・しんいち/1892～1988年)

松山市生れ。太平洋会研究所に学ぶ。1914、15年第1回、第2回二科展に入選。15～20年院展洋画部に出品。第3回院展で奨励賞。渡欧。21年光風会展で今村奨励賞。日本水彩画会会員。1988年没、96歳。(出典 わ眼)**洋画家、水彩画**

水崎 拓 (みずさき・たく/1932～1976年)

出生地不詳。1956年 日比谷画廊、タケミヤ画廊で個展、61年現代画廊で個展、汎太平洋青年美術

展出品、62年青木画廊で個展、62～63年渡米、N.Y. 65年世界の美術ポスター展出品、現代日本美術展出品。66年夢土画廊で個展、夢土画廊で仲山進作と2人展、現代日本美術展出品。68、70年国際青年美術家展出品。72年ロンドン・ブラッフォード版画ビエンナーレ展出品。1976年没、42歳。78年現代画廊で遺作展開催。岡澤喜美雄、池田満寿夫と画家仲間、池田とは独身時代同居。(田村)**洋画家、版画家**

水島 清 (みずしま・きよし/1907～1991年)

新潟県生れ。1924年東京京華中学校卒、33年東京美術学校西洋画科卒。29年二科展入選、29年林武に師事、30年二科展に出品。30年「一九三〇年協会」展出品、31年独立展に出品を続け、53年独立賞、55年会員、65年G賞。61年渡欧。81年インド、ネパールを旅した。横浜市で没、84歳。**洋画家**

水嶋 健 (みずしま・けん/1936～2008年)

札幌市生れ。1961年東京芸術大学美術学部油画科卒。68年加山四郎に師事。69年春陽展受賞、日本美術家連盟会員、仏、伊、スペインに滞在。71年帰国後比例構図学野の研究に取り組む。82年美学的比例に基づくキャンパスサイズの新しい体系を創案、これを海外に発表。83年 IAA(国際美術連盟)フィンランド総会出席。研究が評価され、国際規格として公認。IAA の感謝決議を受ける 東洋人として最初の栄誉。91年NYで作品展を開催。「水嶋健画集」出版。2003年「群像」がアメリカのカレッジ・テキストの表紙に選ばれる。2008年没、72歳。**洋画家**

水島爾保布 (みずしま・におう/1884～1958年)

東京生れ。東京美術学校卒。1915大阪朝日新聞社入社。長谷川如是閑(にょぜかん)の雑誌「我等」に参加。風刺文、挿絵、世相漫画で活躍。著作に「新東京繁昌(はんじょう)記」1958年没、74歳。**日本画家、随筆家、漫画家**

水清公子 (みずせい・きみこ/1895～1977年)

姫路市生れ。1907年兵庫県立高等女学校卒。14年新井完に師事。27年関西美術院で黒田重太郎に師事。29年白亜会会員。28、30、32、35、443年二科展入選。42年二科会会友。30年全関西美術展で朝日賞。47年二紀会の結成に参加、同人賞。57年京都府ギャラリーで回顧展。京都で没、82歳。**洋画家**

水田慶泉 (みずた・けいせん/1914～1997年)

大阪生れ。父は南画家の水田竹圃。1932年京都

市立美術工芸学校卒。父竹圃の画塾「菁莪会」に入り、水墨画を学ぶ。33年帝展入選。以後、帝展、新文展に出品。47年日展に入選以来、日展に出品を続けた。初期は水墨による写実的な風景表現を模索したが、戦後は色彩による堅固な風景画を展開した。56年堂本印象の画塾「東丘社」に入る。63年新日展で特選・白寿賞。64年新日展で特選・白寿賞。81年仁和寺の高松宮記念書院の襖絵 32 面を揮毫。87年金閣寺天井絵の復元事業に参加。京都で没、83歳。日本画家

水田舜人 (みずた・しゅんじん/1917～1986年)

東京生れ。1940年東京美術学校日本画科卒。郷倉千靱に師事。62年日本美術院の院友。63年再興院展で奨励賞。64年再興院展で日本美術院賞。65年再興院展出品作、66年院展で連続して奨励賞。68、69年再興院展、院展出品作が再び奨励賞を連続受賞。アイヌの伝承などに取材した幻想的なイメージを鋭い線描と厚重な絵肌で表現した。1986年没、69歳。日本画家

水谷愛子 (みずたに・あいこ/1924～2005年)

広島市生れ。1941年安田高等女学校卒、女子美術専門学校入学、44年同校卒業。46年母校安田高等女学校の図画講師。49年日本画家山中雪人と結婚し、横浜市に新居を構える。49年中島清之に、51年前田青邨に師事。55年院展入選。87、89、90年日本美術院賞・大観賞、91年五度目の院展奨励賞を受賞。また春の院展でも春季展賞、奨励賞を受賞。2000年日本美術院同人。05年秋には呉市美術館で「山中雪人・水谷愛子二人展」が開催。横浜市で没、80歳。日本画家

水谷勇夫 (みずたに・いさお/1922～2005年)

名古屋市生れ。独学で絵を学ぶ。1950～51年新制作協会名古屋グループ、52～54年美術文化協会に所属。膠絵と称する和紙と日本画の顔料を使った現代絵画制作。60年「超現実主義の展開」展(東京国立近代美術館)出品。舞台美術も手がけた。またコンセプチュアル・アート(概念芸術)の松澤有とも親交が深く、行動芸術「玄界遍路」などコンセプチュアル(概念的)な仕事も行った。陶器を使ったインスタレーションを手がけた。書ではNHK大河ドラマ「琉球の風」の題字を担当、挿絵を制作。74年『神殺し・縄文』刊行。93年名古屋市芸術賞特賞。94年『水谷勇夫作品集』刊行。98年池田 20 世紀美術館で個展開催。愛知県で没、83歳。現代美術家、陶芸、インスタ、挿絵

水谷 清 (みずたに・きよし/1902～1977年)

岐阜県生れ。1920年早稲田大学入学同年退学し、

小杉放菴に師事、川端画学校に学ぶ。27、29年春陽会賞。29～31年渡仏、グラン・ショミエールに学び、サロン・ドートンヌに出品。33年春陽会会員。57年サンパウロ・ビエンナーレ展委員。56～67年金沢大学教授。59年早稲田大学講師。77年没、75歳。洋画家、美教

水谷 淳 (みずたに・じゅん/1920～1982年)

茨城県生れ。工学院大学卒。1944年里見勝蔵、武者小路実篤に師事。61年大調和会を再興、創立運営委員。62年再興大調和会。66～67年訪欧、取材、自動車旅行。69年富士短期大学美術部顧問。73年渡欧、又75～76年香港。78年和光ギャラリーで個展。79年水上勉、小説『椎の木の暦』の挿絵担当、原画展を81年小田急新宿店で開催。東京で没、61歳。洋画家、挿絵

水谷真一 (みずたに・しんいち/1917～1990年)

和歌山県生れ。1961～67年新宿中村屋、美術サークル設立。54～67年全日本職業美術協会理事。81年から茅野市に移住、絵画に没頭。茅野市美術会員。90年没、72歳。洋画家

ミズテツオ 水島哲雄 (みず・てつお/1944年～)

東京生れ。1967年モディリアーニを師と決める。71年武蔵野美術学園入学。83～86年滞伊。国内、海外で個展多数開催。87年フラッグシリーズ評価。92～96年パリ在住。95年ミズテツオの世界展(日本橋三越)。97年ロッテルダム(オランダ)MARITIUM美術館で個展。2000年イスタンブール(トルコ)滞在国内、海外で個展多数開催。洋画家

水出陽平 (みずで・ようへい/1936年～)

大阪生れ。武蔵野美術学校本科西洋画科で麻生三郎、斎藤長三に師事。1961年自由美術展入選し、72年自由美術協会会員。70「山梨現代美術集団」を発足。71、72年展覧会開催。78年個展開催。1981年安井賞展で佳作賞。市井の人々を対象にして、人間という存在の悲しさやおかしさを表そうとした。洋画家

水庭重之助 (みずになわ・じゅうのすけ/1910～1992年)

日上市生れ。63～78年新世紀美術協会展に出品。同会会員。77年池袋三越で個展。79年白亜美術会創立会員。84年同会川島理一郎賞。88年同会文部大臣賞。91年銀座松坂屋で個展。92年没、82歳。洋画家

水野 朝 (みずの・あさ/1945年～)

名古屋生まれ。1959年中村正義に師事。無所属。68年日本画廊で個展。84年羽黒洞の企画により朝日アートギャラリーで個展。2000年「水野朝画集」刊行。09年画業50年記念の個展を、羽黒洞、日本画廊、梅野記念絵画館等で開催。(出典 わ眼) **日本画家**

水野以文 (みずの・いぶん/1890～1974年)

浜松生まれ。1907年太平洋画会研究所、日本水彩画研究所に学ぶ。13年日本水彩画会創立会員、51年同会名誉会員、運営委員、のち理事長。新文展に出品。日展にも出品入選。日本橋三越で個展。東京で没、83歳。 **水彩画家、版画**

水野欣三郎 (みずの・きんさぶろう/1904～1996年)

浜松生まれ。二紀会同人、75年監事、84年評議員。市展・労働美術展の審査員。60年浜松市文化財審議会委員、71年浜松市美術館協議会委員、74年浜松市伊場遺跡整備委員会委員。79年浜松市市勢功労者。89年勲六等単光旭日章。1996年没、92歳。浜松市内に多くの彫刻作品が設置。 **彫刻家**

水野正一 (みずの・しょういち/1899～1987年)

名古屋生まれ。1920年第2回愛美社展に出品。22年平和記念東京博覧会に出品。27年宮脇晴、山田睦三郎と三路社を結成。その後、染色業の兄を頼り京都に転居。39年第4回京都市美術展に出品。43年第8回京都市美術展に出品。この頃から油絵の制作が少なくなり、戦後は、絵画制作の経験を活かしつつ染色の仕事に専念した。87年12月18日没、享年88歳。(佐) **洋画家、染色家**

水野秀方 (みずの・ひでかた/1875～1944年)

水野年方の門人。作画期は明治後期から昭和にかけてで、主に女性らしい肉筆浮世絵の美人画や挿絵を描いた。1907年博文館から刊行された『幼年画報』第2巻16号の「オ祖父サン」という挿絵などを、市川秀方の名義で描いている。女性でありながら年方門下の塾頭となり、年方の没後も塾を経営し、秀方自身も画名を上げ各種の画会において受賞を果たした。1944年没、70歳。 **日本画家・詩人**

水野年方 (みずの・としかた/1866～1908年)

江戸生れた。本名条次郎。月岡芳年に師事して歌川派の錦絵を学ぶ。柴田芳州に南画を、渡辺省亭に花鳥画を学んだ。1887年頃から『やまと新聞』の挿絵を担当、91年に富山県絵共進会に出品して受賞。日本美術協会、日本美術院、日本画会などの評議員・審査員を歴任。武者絵を得意とした。門下に鏑木

清方ら。 **明治期の絵師、挿絵、版画**

水野富美夫 (みずの・とみお/1917～1994年)

東京生まれ。1931年宮本三郎洋画研究所に学び、46年白日会会友、48年会友奨励賞、48年会員。65年東南アジア、欧州等をめぐった後、エチオピアに滞在し、以後エチオピアの風景、女性を描き続ける。67年一時帰国し野沢デパートで帰朝展を開催。68エチオピアに移住し制作し、白日会展に出品を続けた。70年大阪万国博覧会ではエチオピア館に特別出品。86年ケニアの首都ナイロビに移り住み、1994年ナイロビで没、76歳。 **洋画家**

水野英夫 (みずの・ひでお/1919～1984年)

福岡県生まれ。1937年名古屋高等商業学校卒。彫刻家小倉右一郎の研究所で彫塑を学び、40年二科展彫刻部入選、41年も同部に出品。47～63年小学校教員。50年国画家絵画部に出品、54年新人賞、57年会友、61年会員。神奈川県で没、64歳。 **彫刻家、油、美教**

水野恭子 (みずの・やすこ/1921年～)

福岡県生まれ。1941年東京女子美術専門学校卒。赤堀佐兵に指導を受ける。42年二科展入選。47年日展入選。50年独立展入選、58、63年奨励賞、67年独立賞、68年会員。女流美術家協会にも出品を続け、同協会の委員として運営に携わる。 **洋画家**

水野以文 (みずの・よりふみ/1890～1974年)

静岡県生まれ。1907年太平洋画会研究所に、同年新日本水彩画会研究所に移る。13年日本水彩画会結成にあたり、創立会員。51年同会名誉会員、運営委員長を兼務、日本水彩画会理事長。文展には第3回～5・7回入選、文展2次では招待。日展には16回入選。日本橋三越で個展も開催した。1974年没、83歳。 **水彩画家、版画**

水原房次郎 (みずはら・ふさじろう/1913～1985年)

福岡県生まれ。上京し、1937年田中佐一郎に師事、独立展入選し、以後、～76年まで出品。京都に定住し、ヨーロッパへ取材旅行。78年新芸術協会結成に参加、理事。79年仏ル・サロンへ出品、のち会員。生涯で62回の個展を関東、関西、福岡の各地で開催。1985年没、72歳。 **洋画家**

水平 讓 (みずひら・ゆずる/1892～1982年)

秋田県生まれ。日本水彩画会会員。海軍従軍画家。1982年没、90歳。 **洋画家、水彩**

水船六洲 (みずふね・ろくしゅう/1912～1980年)

広島県生れ。1936年東京美術学校彫刻科卒。東京美術学校在学中より版画の制作を始める。小野忠重の新版画集団、造形版画協会に参加。彫刻家として日展に出品、41年文展で特選。46、47、50年日展で特選。51年日展審査員。61年渡米留学、彫刻、版画の技術を勉強。67年日展内閣総理大臣賞。71年日展で日本芸術院賞、74年日展理事。日本版画協会会員。日本彫塑会会員。造型版画協会会員。1980年没、68歳。彫刻家、版画家、洋画、美教

三栖右嗣 (みす・ゆうじ/1927～2010年)

神奈川県生れ。1952年東京藝術大学卒(安井曾太郎教室)。75年沖縄海洋博「海を描くコンクール展」大賞。76年第19回安井賞展安井賞。79年スペイン・クライスラー画廊で個展。88年現代作家デッサン・シリーズ「三栖友嗣展」。90年NHKサービスセンター主催「花のある名作美術展」に出品。96年リトグラフの二世紀記念展招待出品(フランス)。無所属として三越各店、松坂屋各店、大丸、北辰画廊などで個展開催。2010年4月18日没、享年82歳。(佐)洋画家

三栖右嗣 II (みす・ゆうじ/1927～2010年)

神奈川県生れ。1952年東京芸術大学油絵科卒(安井教室)。54年一水会展出品。75年沖縄国際海洋博覧会「海を描く現代絵画コンクール展」大賞。76年安井賞。東京国立近代美術館所蔵。79年スペインにて個展。宮内庁所蔵。81年石版画集「林檎のある風景」刊行。82年リトグラフ屏風「紅梅図」刊行。2010年没、83歳。洋画家、版画

水村喜一郎 (みずむら・きいちろう/1946年～)

東京生れ。事故で両腕を失う、口に絵筆をとり油絵を習い、現代美術研究所へ通い画才を発揮。日本各地からヨーロッパ、アフリカ、アジア各国を訪ねる。主体美術協会会員・世界身体障害芸術家協会会員。1970独協大学外国語学部卒。74年主体美術展入選。81年会員。82年大野五郎・寺田政明・吉井忠らと現代作家15人展を開催。以降、松平正平とパリの画廊での個展開催、信濃デッサン館分館槐多庵での素描展など全国各地で活躍。平成10年には文化庁現代美術選抜展に出品。洋画家

溝口禎次郎 (みぞぐち・ていじろう/1872～1945年)

京都府生れ。1889年東京美術学校第一期生として日本画科に入学、94年卒業し、大阪府第四尋常中学の教師。東京博物館に入り、96年臨時全国宝物取調局臨時鑑査掛を嘱託。以後最後まで博物館員として国宝保存事業に、鑑識方面に、また蒐集家として活

躍した。1909年日英博覧会のため英国に出張、15年以来東京帝室博物館美術課長、国宝保存会の委員、33年重要美術品等調査委員会の委員。36年にはボストンに於ける日本美術展のため渡米。東京で没、72歳。東京博物館美術課長

御園 繁 (みその・しげる/生没年不詳)

1877年頃、石版画の制作を始める。79年渡辺文三郎らと旅行。明治美術会員。81年第2回内国勸業博覧会で褒章。87年東京府主催工芸品共進会に出品。90年第3回内国勸業博覧会に出品。陸軍助教授。1903年振式学校図画教員。(出典 わ眼)洋画家、版画、美教

三谷青子 (みたに・あおこ/1928年～2011年)

京都市生れ。三谷十糸子の長女。1948年日展入選。49年京都市立美術専門学校日本画科卒。54年日展特選。70年日展菊華賞。79年日展会員賞。87年女子美術大学教授。98年日展内閣総理大臣賞。日展評議員。92年女子美術大学退職記念展。95年東京国際美術館で自選展。日展会員、参与。2011年没、83歳。日本画家、美教

三谷敬三 (みたに・けいぞう/1916～2005年)

1916年生れ。34年東京府立工芸学校卒、自動車製造株式会社入社。戦時中休業していた家業の美術商三溪洞を継ぎ、営業を再開した。47年株式会社三溪洞に組織変更し、代表取締役就任。一方、51年には東京美術商協同組合の専務理事になり、59年には同組合の理事長、75年には顧問。53年株式会社東京美術倶楽部の鑑査役、57年同社常務取締役、69年代表取締役社長、87～95年代表取締役会長。77年から82年まで東京美術倶楽部鑑定委員会委員長。69～87年五都美術商連合会の代表。80年藍綬褒章を受章、87年勲四等旭日小綬章を叙勲。川崎市で没、89歳。元株式会社東京美術倶楽部社長

三谷十糸子 (みたに・といこ/1903～1992年)

兵庫県生れ。1922年兵庫県立第一高等女学校卒、女子美術専門学校入学、25年同校を首席で卒。西山翠嶂の青甲社に入塾。32、33年日展で特選。34年政府買上げ。52年女子美術大学で教授、71～75年同校学長。58年日展会員、64年新日展で文部大臣賞を受賞、69年日本芸術院賞。65年日展評議員、73年理事、77年参事。長女の三谷青子(日展会員)、さらにその長女の曾田朋子も、日本画家として活躍している。東京で没、87歳。日本画家、美教

三田 康 (みた・やすし/1900～1967年)

大津市生れ。1922年東京美術学校西洋画科卒、25年東京美術学校研究科修了。21年帝展入選、30年帝展で特選。35年二部会賞。36年小磯良平らと新制作派協会創立。戦後、新制作派展に出品。60～64年日本国際美術展に出品。フランスで没、67歳。洋画家

三井淳生 (みつい・あつお/1929～2000年)

京都市生れ。三井文二の長男。はじめ篆刻制作、1950年河北倫明の指導を受け、伝統的創作版画の制作と日本版画の研究に励む。61年歌舞伎訪外に際し中村歌右衛門の舞台姿を捉えた木版画「八つ橋」を制作。76年、東京湯島の霊雲寺に日本仏教版画館を設立し、館長。92年池袋西武アートフォーラムで回顧展。著作・画集等の出版物に『中村歌右衛門舞台姿』(京都書院 81年)、『奥村土牛筆<富士>版画』(講談社 80年)、『彫版雑稿』(『文学』49-12号 81年)、『一字一仏般若心経』(講談社 82年)、『三井淳生日本画作品集-佛と花と-』(駸々堂 94年)、栃木県で没、70歳。版画家・日本画家

三井永一 (みつい・えいいち/1920年～)

山形県生れ。鶴岡中学校、川端画学校、春陽会洋画研究所卒。春陽会会員、国際アートクラブ会員、春陽会版画部を設立し、会員として活躍する。72年には講談社出版文化賞(挿絵部門)。洋画家、版画、挿絵

三井文二 (みつい・ぶんじ/1893～1958年)

香川県生れ。1909年関西美術院で鹿子木孟郎に師事。13年川端画学校に学ぶ。14年二科展に入選。15年二科展で二科賞。14年巽画会展で二等賞。17年大正末期から日本画に手を染め、日本画に転じた。31年青木大乗主宰の「新燈社」展に参加同人。50年東京で日本画個展。58年没、64歳。洋画家、日本画家

三井文二 II (みつい・ぶんじ/1893～1958年)

香川県生れ。1908年、京都に出て日本画家三井飯山宅(実兄)に世話になる。09年関西美術院に入り、鹿子木孟郎に師事。13年上京、川端画学校で藤島武二に師事。14年第1回二科展に初入選。第14回巽画会展で二等1席(最高賞)。15年第2回二科展で二科賞。この頃、一時滋賀県に移住、のち京都に戻る。32年青木大乗の主宰する「新燈社」同人となる。50年東京で第1回日本画個展。58年没、享年64歳。(佐)洋画家、日本画家

三井良太郎 (みつい・りょうたろう/1890～1937年)

東京生れ。白馬会溜池入門、黒田清輝に師事。1908年同葵橋洋画研究所幹事。16年渡満、大連洋画研究所を設立。満鉄沿線で巡回指導。22年満鉄事務嘱託。27～36年渡仏。37年再渡満、新京洋画同好会を開設。新京で没、47歳。(出典 わ眼)洋画家、美教

ミッシェル・ロッド (Michel Rodde/ 1913～没年不詳)

仏・グランコンブレ。パリで法律・政治学を修めて管理職。1946年絵を学び、ドートンヌ・コンパレゾンなどのサロンに出品。52年フェリス大賞。53年10年間、パリ美術工芸学校とグラン・ショミエールで教鞭。風景・静物などを独特の筆づかいで、色彩豊かに表現する。1975年銀座ためながで個展。洋画家

満谷国四郎 (みつたに・くにしろ/1874～1936年)

岡山県生れ。1891年上京、五姓田芳柳、小山正太郎の不同舎に入門。98年明治美術会記念展で注目される。1900年フランス大博覧会で銀牌。鹿子木孟郎と渡米。欧州を経て01年帰国。02年太平洋画会結成創立会員。07年文展審査員。11～13年渡欧。19年帝展審査員。25年帝国美術院会員。32年帝展で朝日賞。36年没、61歳。洋画家、版画

満谷国四郎 II (みつたに・くにしろ/1874～1936年)

岡山県生れ。1888年岡山県尋常中学校在学中に松原三五郎に画才を認められる。91年同校3年で中退し上京。初代五姓田芳柳門下となる。92年不同舎に通う。98年明治美術会創立十周年記念展出品作が宮内省、外務省買上げとなる。1900年巴里万国博覧会で銅牌。渡米。01年太平洋画会を結成。07年東京府勸業博覧会で1等賞。第1回文展で文部省買上げ。10年第4回文展審査委員。11年～14年再渡欧。12年アカデミー・ジュリアンでジャン・ポール・ローランスに師事。25年帝国美術院会員。36年7月12日没、享年61歳。(佐)洋画家

光永眠雷 (みつなが・みんらい/1867～1928年)

1867年生れ。79年上京し、翌年東京工部大学校教授のジケローに入門し、洋画を学ぶ。84年イタリア人画家キヨッソーネに鉛筆デッサン、油絵を学ぶ。長崎では洋画家の益田暁園に、熊本では笠井直に学ぶ。代表作とされる「西郷隆盛肖像」を制作、話題。「竹崎茶屋」「竹崎順子」の肖像画。1928年没、62歳。洋画家

三根孝子 (みつね・たかこ/1921～1976年)

東京生れ。府立第五高等女学校卒。1951年春陽

会展で春陽会賞。1976年没、55歳。洋画家

論家、美術館長

三橋兄弟治 (みつはし・みとじ/1911～1996年)

神奈川県生れ。1930年神奈川県師範学校卒。29年槐樹社展入選、金沢重治に師事。独立美術研究所などで学ぶ。35年旺玄社展、40年第一賞、41年同人。36年二科展に入選、40年創元展に出品。紀元二千六百年奉祝展入選。53年水彩連盟展会員。64～65年訪欧。88年水彩連盟展初代理事長。89年新宿小田急本店グランドギャラリー回顧展。神奈川県で没、85歳。水彩画家、美教、水彩連盟理事長

水口祐務 (みなくち・ひろむ/1958年～)

徳島県生れ。1983年京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。80～88年第48回～51回、53回～56回独立展に出品、第50回独立展にて京都新聞社社長賞。(東京美術館・大阪・京都)。90～92年個展(池袋・東武)、第8回大阪現代アートフェアに出品。洋画家

南 桂子 (みなみ・けいこ/1911～2004年)

富山県生れ。1928年高岡女学校卒。49～58年自由美術展。浜口陽三と出会う。54年渡仏、銅版画指導者・フリードランデルの研究所学ぶ。61年神奈川県立近代美術館で「フリードランデル・浜口陽三・南桂子版画展」開催。82年渡米、96年帰国。世界各地で個展。本の挿画も数多く手掛けた。2004年歿、93歳。版画家、挿絵

南 薫造 (みなみ・くんぞう/1883～1950年)

広島県生れ。1907年東京美術学校西洋画科卒。07年渡英、仏。10年白馬会会員。白樺社主催滞欧展開催。11、12、13、15年文展二等賞。13年日本水彩画会創立に参加、評議員。18年光風会会員。32年東京美術学校教授。37年帝国芸術院会員。44年帝室技芸員。50年広島県で没、66歳。洋画家、美教、水彩、版画

南 崑 宏 (みなみしま・ひろし/1957～2018年)

長野県生れ。兄は彫刻家の南島隆。筑波大学芸術専門学群芸術学専攻卒。インド放浪を経て、いわき市立美術館に赴任。87年広島市現代美術館に赴任。93年カルティエ現代美術財団奨学生としてパリへ留学。2008年に熊本市現代美術館館長を退任、女子美術大学芸術学部芸術学科教授。08年プラハ国際芸術トリエンナーレ国際キュレーター。09年ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館コミッショナー。全国美術館会議理事、国際美術評論家連盟歴任。第3回西洋美術振興財団学術賞受賞(2008年)。松本市で没、58歳。評

南 庄作 (みなみ・しょうさく/1904～1995年)

栃木県生れ。1925年東京に通い、27年構造社の同人、本格的な彫刻への道に進む。曾村杜芽に師事。32年頃より構造社展に出品し、入選。40年齋藤素巖に師事し、構造社研究所にて塑像彫刻を修業。この頃の生活は午前中構造社研究所で勉強し、午後は平櫛田中のもとで木彫りの仕事に携わっていた。46年日展入選。53年芸術院会員である平櫛田中に師事し、本格的に彫刻を昭和37年まで修業する。毎年日展に出品し、入選は12回。63年田中から独立して市川市行徳の法泉寺境内の家にアトリエを増築して彫刻に打ち込む。日展で特選、64年無鑑査出品、65、66年出品委嘱、67年日展審査員、日本彫塑会運営委員、68年日展会員。栃木県で没、92歳。彫刻家

南 素行 (みなみ・そこう/1890～1967年)

北海道生れ。北海道師範を経て、東京美術学校師範科を首席卒。1922年京都女子高等専門学校、旧制平安中学校で美術の教鞭。23年日仏美術展覧会に出品。関西美術院で鹿子木孟郎、太田喜二郎に師事。38、39年新文展に入選。40年太田喜二郎中心に「華協会」結成、出品。大阪で没、76歳。洋画家、美教、版画

皆見鵬三 (みなみ・ほうぞう/1911～1967年)

岡山県生れ。高粱中学校卒。川端画学校に学ぶ。1935年帝国美術学校油画科卒。牧野虎雄に師事。33年旺玄会に入選、常任委員。多摩美術学校で助手。1967年没、56歳。洋画家

南大路一 (みなみおおじ・はじめ/1911～1994年)

東京生れ。1929年春陽会洋画研究所で学ぶ。31年春陽展に入選、48年同会会員。59年サンパウロ・ビエンナーレ展に招待出品。60年毎日新聞社主催の「現代日本美術展」で優秀賞。63年渡欧。68年国際形象展で愛知県美術館賞。84年紺綬褒章。1994年没、83歳。洋画家

南 政善 (みなみ・まさよし/1908～1976年)

石川県生れ。1934年帝展入選。35年東京美術学校油画科卒、第2部会展で特選。39年新文展で特選。41年文展で特選。37年光風会会員のち理事。38、42年聖戦美術展で陸軍大臣・海軍大臣賞。47年新樹会創立会員。55年日展会員。63年日展評議員。65年日展で文部大臣賞。東京で没、67歳。洋画家

皆見鵬三 (みなみ・ほうぞう/1911～1967年)

岡山県生れ。1933年帝国美術学校油画科卒。特待研究生、助手。35年多摩帝国美術学校創立、助手。40年旺玄展で牧野賞。従軍画家。旺玄社委員。1967年没、56歳。洋画家

皆吉志郎 (みなよし・しろう/1929年～)

大阪生れ。1950年東京美術学校卒。ベルギー政府留学生。サロン・ド・プランタン展でブルーリボン賞。55年大阪梅田画廊で個展。57年フランスに留学。グラン・シヨミエール研究所でギョエツ(獨)に師事。58、59年サロン・ドートンヌ展入選。59年ル・サロン展入選。57年一水会賞、63年一水会優賞、95年一水会常任委員、96年運営委員。74年東京池袋三越美術画廊にて個展。88、95年日展特選、96年会員、文部大臣賞。洋画家

峰 丘 (みね・おか/1948年～)

いわき市生れ。国立メキシコ自治大学造形学部に学ぶ。再渡墨、帰国後は故郷いわきで精力的に創作活動を続けている。メキシコで着想した強い色彩によるカラベラやガレアナなどの主題が有名。近年は、ユーモラスな深海魚や金地背景なども内外に知られる彼の代名詞。東南アジアや中欧各地で滞在指導制作を行いつつ個展を開催。絵画、立体、陶磁器等いわき市美術館で2018年個展開催。春陽会会員。洋画家、立体、陶芸

三根霞郷 (みね・かきょう/1883～1946年)

佐賀県生れ。1897年長崎尋常中学校入学、翌年退学。1900年上京、01年小山正太郎の画塾不同舎に入門し、青木繁、坂本繁二郎らに出会う。04年帰郷し、翌年から肖像画揮毫。09年ウラジオストックに2年間滞在し11年帰国。14年たびたび京都に滞在。34年小倉山滝口寺が創建され堂主隠棲する。1946年没、63歳。洋画家

峰岸義一 (みねぎし・ぎいち/1900～1985年)

埼玉県生れ。1925年日本美術学校卒。三科に出品。単位三科会員。29年渡欧、パリでピカソとの知遇。峰岸は「前衛水墨画」の実現をピカソに約束。32年フランス前衛美術を一举に紹介した「巴里東京新興美術展」を招来。33年二科展作品発表、古賀春江、東郷青児、阿部金剛と二科会の超現実主義傾向の代表的画家。33年前衛美術を標榜した洋画研究所「アヴァンギャルド洋画研究所」の開設を協議。38年二科会内の若手前衛画家グループ「九室会」の発起人。41年二科会会員。48年二紀会会員。後に名誉会員。54年、中川紀元、津田青楓、小川千甕、棟方志功、近

藤浩一路、水越松南らと日本水墨派展を日本橋三越で開催。65年、「墨の国展」を日本橋東急で開催。美術関係の著書も多数。1985年没、85歳。洋画家、水墨

峯岸魏山人 (みねぎし・ぎさんじん/1900～1985年)

埼玉県生れ。日本美術学校卒。1947年二紀会展に招待出品、のち同会委員、名誉会員。1985年没、85歳。洋画家、水墨

峰島尚志 (みねしま・なおし/生没年不詳)

1910年頃、版画同人誌「白刀」に石版画を発表。13年行樹社展に参加。13年『大阪朝日新聞』の日曜附録「版画展覧会」に「木版画の味」を寄稿、自刻作品が掲載。13年岡本帰一とともに東京三越で版画展覧会を開催、14年東京大正博覧会の「彫版印刷」の部に出品。『都新聞』に自画自刻の木版画を連載。1991年日本創作版画協会展入選。版画家

峯 孝 (みね・たかし/1913～2003年)

京都市生れ。東京美術学校中退。1936年国画会展に出品。のち建昌大夢の直土会に出品。49年自由美術家協会会員。80年武蔵野美大教授。肖像や人体像を得意とし、公共の記念像も制作。2003年没、89歳。作品「エドウィン・ダン銅像」。彫刻家

峰村リツ子 (みねむら・りつこ/1907～1995年)

新潟県生れ。1925年太平洋画会研究所に学ぶ。独立展に出品。フォーヴィスムの影響を受ける。34年三岸節子らと女紳会を結成。美術文化協会展、女流作家協会展(会員)、自由美術家協会展に出品。80年より度々現代画廊で個展。95年没、88歳。(出典わ眼)洋画家

箕浦 照 (みのうら・しょう/1901～1987年)

京都市生れ。1916年私立至誠館塾卒。寺松但齊洋画研究所で寺松国太郎に師事。23年関西美術院で洋画を研究。26年矢崎千代二に師事、パステル画を学ぶ。30年京都パステル画協会結成。35年京都市美術館で日本パステル画会展に100点で個展。87年没、86歳。パステル画家

箕浦昇一 (みのうら・しょういち/1949～2016年)

1949年生れ。73年東京藝術大学美術学部工芸科ビジュアルデザイン専攻卒。73年電通入社第3クリエイティブ局。2000年東京藝術大学美術学部助教授、06年～東京藝術大学美術学部教授。73年毎日広告賞(新聞広告部門)。95年日経広告賞。96年広告電通賞。個展(みゆき画廊)76、77、79年。個展(西武百貨

店)84、87年。2016年没、67歳。**洋画家**

箕口 博 (みのぐち・ひろし/1923～1977年)

長野県生れ。1959年上京。日本彫塑展、二科展、日展入選。60年日彫展会員。二科展に「虚No1」出品。以後「虚」シリーズを制作。62年記号派美術協会創立会員。65年東京ときわ画廊で個展。以後、個展を中心に発表。77年没、54歳。(出典 わ眼) **彫刻家**

みのわ 淳 (みのわ・じゅん/1930～2018年)

福井県生れ。1953年～難波田龍起に師事。54年金沢美術工芸大学油絵科卒。59年一陽会展で一陽賞。60年シェル美術賞展・佳作。62年丸善美術賞展・入賞。90年福井の美術・現代vol.1 “みのわ淳展”(福井県立美術館)、みのわ淳作品展(ストライプハウス美術館)個展。2002年ギャラリーセンターポイントで個展。2018年没、88歳、**洋画家**

三橋 健 (みはし・たけし/1912～1977年)

倉敷市生れ。1931年関西中学校卒、32年東京美術学校入学し、藤島武二に学ぶ、37年同校卒。36年独立美術協会展入選。以後連続入選。43年国画会に出品、55年会員。岡山県に戻り、大原農業研究所植物病理研究所の助手。45年大原美術館評議員。52～62年岡山県展の審査員。倉敷市で没、65歳。**洋画家、版画**

耳野卯三郎 (みみの・うさぶろう/1891～1974年)

大阪生れ。葵橋洋画研究所に通う。1916年東京美術学校西洋画科卒。33～65年光風会会員。34年帝展で特選。42年新文展で審査委員のち顧問。童画や児童雑誌の挿絵を制作。61年日展で日本芸術院賞。66年日本芸術院会員。東京で没、83歳。**洋画家、挿絵**

三村英一 (みむら・えいいち/1890～1958年)※

広島県生れ。1905年町絵師の徒弟、08年白馬会に入り洋画を学ぶ。11～13年関西美術会展に出品。16年ショウインドウ会社に勤務、図案部主任、編集顧問。20年杉並区居住し、西部花卉協同組合の顧問。新構造社の発展に尽力。29年構造社展出品し、翌年会友、32年会員。36年構造社が分裂した際、三村英一は代表となつて新構造社を結成。新構造社創立会員。東京で没、68歳。**洋画家、新構造社を結成**

宮いつき (みや・いつき/1956年～)

東京生れ。1978年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒。創画会出品(～現在)。88年創画会春季展賞受賞('88、'89、'91、'92、'93、'95年)。90

年多摩うるおい美術展多摩大賞。創画会賞('90、'91、'92、'99年)。91年現代美術選抜展(文化庁主催)、文化庁海外派遣によりアイルランド・イギリスに滞在。97年タカシマヤ美術賞。2000年東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻非常勤講師(～'05年)。02年日本画四十年展(文化庁主催)。創画会会員。**日本画家**

宮内義雄 (みやうち・よしお/1926～1982年)

千葉県生れ。1950年東京教育大学芸術科卒。66年東京・風月堂で最初の個展を開催。67年立軌会に参加、毎年同展に出品、同人。68年安井賞候補展出品、三月会展、新鋭選抜展、太陽展、国際形象展に招待出品。81年東京・銀座、資生堂ギャラリーで個展。千葉県立銚子高等学校で教えた。千葉県で没、55歳。**洋画家、美教**

宮内義也 (みやうち・よしや/1921～1984年)

1921年生れ。1944年東京美術学校工芸科図案部卒。82年日展で特選、日展会友。74年光風会会員、79年寺内賞。東京で没、63歳。**洋画家**

宮尾しげを (みやお・しげお/1901～1982年)

東京生れ。17歳で岡本一平に師事。新聞社に勤務。連載子供漫画「漫画太郎」を毎夕新聞に掲載。「団子串助漫遊記」を連載。「軽飛軽助」「一休さんと珍助」「今弁慶」等のヒット。江戸小咄や川柳、文楽人形芝居、郷土芸能などを研究、「文楽人形図譜」「日本祭礼行事事典」「江戸小咄集」「文楽人形」「東京昔と今」「日本の民俗芸能」「芸能民俗学」「江戸街芸風俗誌」「江戸川柳の味い方」「地方狂言の研究」の著書を残す。文化財保護審議会専門委員、国立劇場専門委員、日本民謡協会顧問、日本民族芸能協会・日本歌謡学会の各理事などをつとめ、日本文芸家協会・日本民俗学会・日本近世文学会・日本演劇学会・日本風俗史学会等の会員。著書『日本の戯画』(67年)のほか、日本漫画家協会名誉会員、日本浮世絵協会・日版会の理事などをつとめた。1965年社会教育功労賞、69年紫綬褒章を受け、75年勲四等。東京で没、80歳。**漫画家、版画家**

宮川一笑 (みやがわ・いつしよ/1689～1780年)

元禄(げんろく)2年生まれ。宮川長春の高弟で、肉筆の美人画にすぐれていた。宮川一門と狩野春賀との紛争事件に連座し、宝暦2年(1752)伊豆(いず)新島に流罪。配流地では藤原また県(あがた)姓を称し、安道と名のつた。安永8年12月14日その地で死去。91歳。通称は喜平治。別号に湖辺斎。**江戸時代中期の浮世絵師**

宮川春汀 (みやがわ・しゅんてい/1873～1914年)

愛知県生れ。富岡永洗の門人。1895年「宮川春汀」に改名。作画期は87年～1914年。明治20年代から明治30年代にかけては「風俗通」、「美人十二月月」、「風俗錦絵雑帖」などの風俗画の他、雑誌口絵、新聞挿絵を描く。柳田國男、田山花袋、国木田独步、徳田秋声、桐生悠々ら文人たちと交流。1914年没、42歳。
浮世絵師

水谷川忠麿 (みやがわ・ただまる/1902～1961年)

東京生れ。公爵近衛篤麿の四男。男爵水谷川忠起の養子。有島生馬に洋画を学ぶ。1923年京都帝国大学文学部に入学。大学時代はオーボエ奏者として同大オーケストラに参加。津田青楓塾に通い28年二科展に入選。雑誌『まんだら』『クロッキー』の編集に携わり、『靈山美術』を刊行。「紫山」の号で書画や作陶、昭和初頃木版画も制作。戦前は内務大臣秘書官・大蔵大臣秘書官・貴族院議員、戦後は春日大社・談山神社宮司、華道御門流家元などを歴任。奈良市で没、59歳。
洋画、版画、作家、華道御門流家元

宮川長春 (みやがわ・ちょうしゅん/1682～1752年)

宮川派の祖。尾張の人と伝える。通称、長左衛門。菱川師宣・懐月堂安度などの影響を受け、肉筆画に専念、艶麗な美人画を描いた。
江戸中期の浮世絵師

宮川社夫 (みやがわ・みやお/1933～2011年)

北九州市生れ。県立小倉工業高等学校卒。新塊樹社に属しながら団体展や個展に出品。77年新塊樹社を退会。80年にグループ「群翔」設立参加。幼稚園で絵画指導、アトリエで精力的に制作を行い、1000点以上の作品を遺した。1996年岡垣美術家連盟を設立、代表、地域の美術振興に貢献。2011年没、78歳。
洋画家

三宅円平 (みやけ・えんぺい/1894～1941年)

岡山県生れ。岡山県師範学校を卒業後教職に就くが、画業を志して上京し、川端画学校、太平洋画会研究所で学び、満谷国四郎の指導を受けた。帝展に6回入選、国際美術展に出品。作品は戦災に遭って消失したため、残っている作品は少ない。1941年没、47歳。
洋画家

三宅輝夫 (みやけ・てるお/1923～2008年)

兵庫県生れ。京都市立絵画専門学校に通い、戦前は、二科展、文展に入選。戦後も二紀展で入選を続け、二紀会同人。1954年渡欧、英国ザ・ロンドンザヴァインアートで葛飾北斎、藤田嗣治に次ぐ3人目の日

本人として個展を開催。海外でも高い評価をもち、国内の美術館などで多く所蔵されている。2008年没、85歳。
洋画家

宮城輝夫 (みやぎ・てるお/1912～2002年)

宮城県生れ。白石中学校卒業後、川端画学校で熊岡美彦に学び、川口軌外に師事。輝夫は、独立美術展に出席する傍ら、超現実主義系美術グループ「新造形美術協会」や「新象作家協会」に加わる。戦後、宮城県における前衛美術の牽引者。輝夫は、既成の枠にとらわれない自由な精神に溢れ、画面は緻密な構成により単純化され、独特な夢想の世界を作り上げた。2002年没、90歳。丸森町に作品が寄贈。
洋画家

三宅風白 (みやけ・こうはく/1893～1957年)

京都生れ。1915年京都市立絵画専門学校卒、山元春挙に師事。18年文展入選、30年帝展で特選となった。戦後は日展に出品依嘱者として作品を発表、36～49年まで京都市立絵画専門学校助教授、50年以後は光華女子大講師の教職。39年絵画専門学校より派遣、中国美術を視察、また、師山元春挙没後はその塾早苗会幹事として、更に同会解散後は同志と耕人社を結成し理事をつとめていた。京都市で没、65歳。
日本画家、挿絵画家、版画

三宅克己 (みやけ・こつき/1874～1954年)

徳島市生れ。大野幸彦(改姓前は曾山幸彦)、原田直次郎に師事。1897、98年渡米、渡欧。99年白馬会会員。1908、09年文展で三等賞。12年光風会創立会員。15年文展二等賞。51年日本芸術院賞恩賜賞。神奈川県で没、80歳。(出典 わ眼) **水彩画家、洋画家、版画**

三宅克己 II (みやけ・こつき/1874～1954年)

徳島市生れ。1890年大野幸彦に師事、原田直次郎の鍾美館に学ぶ。97年渡米、イェール大学附属美術学校に学ぶ、のちイギリスに渡り、制作し、99年帰朝。明治美術会、白馬会に出品。水彩画を専門に普及、明治30年代のわが洋画壇に水彩画隆盛時代を作る。度々欧米を巡歴して多くの作品を描いた。明治40年以後は文展に発表し、第2回展の「初冬」、第3回展の「湯ヶ島」3等賞、第9回展の「冬の小川」は2等賞。1925年帝展審査員。12年中沢弘光、山本森之助等と光風会を創立。水彩技法書、旅行記など著作。写真術の先覚者。51年多日本芸術院恩賜賞。水彩画界長老、光風会々員、日本水彩画会々員、日展出品委嘱。神奈川県で没、80歳。
水彩画家、洋画、版画

ミヤケ マイ (みやけ・まい/生年不詳～)

横浜市生れ。独学。2001年より作家活動を開始。日本独自の感覚に立脚しながら、展示される空間を生かし、繊細かつ大胆にサイトスペシフィックな作品を展開する作家。画廊や美術館、アートフェアでの展示のみならず、企業とのコラボレーション、本の装丁など、活動は多岐にわたる。08～09年奨学金を得て、Ecole Nationale superieur des Beaux-Arts(パリ国立美術大学大学院)に留学。10年ドゥラメル・フィメール・アーティストアワードを受賞。18年資生堂THE STOREウィンドウギャラリーディレクター就任。洋画家、装填、現代美術

宮城与徳 (みやぎ・よとく/1903～1943年)

沖縄県生れ。1915年名護尋常高等小学校卒。16年渡米、ブレイク公立学校外人部で英語を学ぶ。21年カリフォルニア州立美術学校入学、翌年サンディエゴ公立美術学校に転校、25年同校卒。28年ロサンゼルス個展。33年帰国し、ゾルゲに会い活動。41年にスパイ容疑で逮捕、収監、1943年西巣鴨東京拘置所で没、40歳。洋画家

宮坂 勝 (みやさか・まさる/1895～1953年)

長野県生れ。松本中学校卒。1919年東京美術学校西洋画科本科卒。23年～27年渡仏。アカデミー・モデルスに入り、オットン・リエスに師事。第6回国画創作協会展で滞欧作を出品し奨学賞。29年1930年協会会員。30年国画家会会員。31年帝国美術学校教授。38年第2回新文展に無鑑査出品。44年戦時特別展に無鑑査出品。46年第1回日展、第2回展で連続特選。49年国画家会松本支部洋画研究所を開設。53年4月10日東京で没、享年58歳。(佐)洋画家、美教

宮崎敬介 (みやざき・けいすけ/1970年～)

埼玉県生れ。父は宮崎駿。1994年武蔵野美術大学造形学部空間演出デザイン科卒。95年アニメ映画『耳をすませば』用に「牢獄でヴァイオリンを作る職人」を制作。96年木口木版画展「MOONSHINE」(ピンポイントギャラリー)。2007年木口木版画・銅版画宮崎敬介・佐藤妙子展(松明堂ギャラリー)。版画家、イラスト、漫画、アニメ

宮崎静夫 (みやざき・しずお/1927～2015年)

熊本県生れ。1945～49年シベリアに抑留。57年熊本市の海老原美術研究所に入所し、海老原喜之助に師事。61年「ドラム缶のシリーズ」でシュル美術賞佳作、熊日賞。68年渡欧し遊学。70年戦争体験「死者のために」シリーズを描く。98年熊本県立美術館分館と島田美術館で回顧展を開催。2008年熊本県

芸術功労者。10年「西日本文化賞」。2015年没、87歳。洋画家

宮崎丈二 (みやざき・じょうじ/1897～1970年)

銚子市生れ。専修大学中退。詩人・画家。「白樺」の影響を受けて文学に関心を抱く。1920年中川一政らと「詩」を創刊し「冬が来た」「機関車」などを発表。24年「爽やかな空」を刊行。27年「河」を主宰。他の詩集に「独坐」がある。画家としては19年草土社展に入選し、同人となる。65年現代画廊で個展、1970年没、73歳。70年遺作展。洋画家

宮崎 進 (みやざき・しん/1922～2018年)

山口県生れ。1942年日本美術学校科卒。45～49年シベリア抑留を経験。60年光風会賞。63年光風会会員。65年日展特選。67年安井賞。72～74年渡仏。81～92年多摩美術大学教授。98年芸術選奨文部大臣賞。元多摩美術大学美術館館長。(出典 わ眼) 洋画家、美術教育、美術館長

宮崎精一 (みやざき・せいいち/1912～1996年)

熊本県生れ。1930年日本美術学校に入学、3年間学んだ。37年独立展に入選、44年独立展独立賞、48年独立美術協会会員。45年人吉市に転居してきた海老原喜之助に師事。1996年没、83歳。洋画家

宮城与徳 (みやぎ・よとく/1903～1943年)

沖縄県生れ。沖縄師範中退。渡米してサンディエゴ公立美術学校で学び、アメリカ共産党日本人部に入党。1933年帰国。ゾルゲと尾崎秀実(ほつみ)に協力、組織して情報収集活動をおこなった。41年ゾルゲ事件で検挙、獄死、40歳。洋画家、反戦運動家

宮崎(渡辺)與平 (みやざき・よへい/1888～1912年)

長崎県生れ。京都市立美術工芸学校卒。1904年室町画塾で鹿子木孟郎に師事。06年中村不折に学ぶ。08年文展に初入選。10年文展で三等賞。挿絵画・日本画も描く。「ヨヘイ画集」を出版。1912年没、24、25歳。(出典 わ眼) 洋画家、挿絵、日本画、水彩

宮崎万平 (みやざき・まんぺい/1928年～)

静岡市生れ。1951年京都市立美術専門学校日本画科卒。51年独立美術研究所に入り、須田国太郎に師事。55年京都市展で市長賞。57年独立展で森有材賞。62年新象作家協会賞。新象作家協会会員。66年ニュー・ジオメトリック・アート・グループ(冷たい抽象)に参加、渡米NYに移住。10年間滞在。68年米

各地で個展。72年ドイツのギャラリーで個展。77年静岡市文化会館大綴帳制作。洋画家

宮迫千鶴 (みやさこ・ちづる/1947～2008年)

広島県生まれ。1970年広島県立女子大学文学部卒。独学で絵画制作。画家の谷川晃一と出会い、2005年「田島征三、谷川晃一、宮迫千鶴三人展」(練馬区立美術館、2005年)。著書;78年美術エッセイ集『海・オブジェ・反機能』(深夜叢書社)刊行。92年ライブツイエ「世界でもっとも美しい本展」画文集が銀賞。93年より伊豆高原アートフェスティバルを企画・開催。『美しい庭のように老いる』(筑摩書房、2001年)、『月光を浴びながら暮らすこと』(毎日新聞社、2002年)、『絵のある生活 コラージュ・ブック』(NHK出版、2002年)、詩画集『月夜のレストラン』(ネット武蔵野、2003年)。埼玉県で没、60歳。(引用 文化財研)洋画家、エッセイスト、評論

宮下圭介 (みやした・けいすけ/1944年～)

長野県生まれ。1968年信州大学教育学部美術科卒。ベニヤ板を貼り合わせる事でレリーフ状の厚みにある支持体を作り、その基盤を彫る行為とメディウムなどを塗る行為によって内接半円をみせる作品シリーズ「veil」を発表する。更に近作ではメディウムに微妙な色彩を施し、塗る行為に引っかく、線描するなどの行為を加えながら、描き方の相違を重ねた層をみせる絵画表現へと変化している。一貫して、新たな絵画表現の可能性を追求し、一方でスクリーンプリントによる版表現も行っている。作品《sign on sign》これまでの絵画と言う表現手段を批判的に表現するという独自の位置に立った代表作と言えよう。作品集『汎』には、第2、第4、第5集に作品をよせている。現代美術家、版画

宮下貞之助 (みやした・ていのすけ/1905～1968年)

神戸市生まれ。信濃橋洋画研究所、川端画学校に学ぶ、1928～30年渡仏、アカデミー・グラン・シヨミールに学ぶ。二科展、春陽会展に出品。東光会会員。1968年没、63歳。洋画家

宮下登喜雄 (みやした・ときお/1930年～)

東京生まれ。1957年春陽会展・春陽賞。1960～68年東京国際版画ビエンナーレ(64年文部大臣賞)。67年サンパウロ国際ビエンナーレ(ブラジル)。79年東京都の委嘱を受け欧米6カ国のビエンナーレ事務局を訪問調査。83年イタリア国際版画ビエンナーレ(イタリア)。87年文化庁在外研修員としてNYに滞在。90年20世紀日本版画展(アメリカ)。2001年 CWAJ 現代版画展(東京アメリカンクラブ・神保町)。版画家

宮下勝行 (みやした・まさつら/1932～2010年)

東京生まれ。東京藝術大学油画科卒。深沢幸雄に銅版画を学ぶ。シュル美術賞受賞。坂崎乙郎、ヨシダ・ヨシエ、瀬木慎一の各企画展に出品。1996年紀伊國屋画廊、00～03年青木画廊で個展。10年没、78歳。11年紀伊國屋画廊で遺作展。(出典 わ眼)洋画家、版画家

宮島佐一郎 (みやじま・さいちろう/1892～1961年)

東京生まれ。明治大学商科卒。独学で、大正末の中央美術展や、1934年旺玄社展入選し、35年中村彝氏賞、第4回展で会友。35年独立美術展入選、第11回展で独立賞、会友、44年準会員、48年会員。会務の手伝いなどに精励、明朗円満な人間味は好感をもたれた。東京で没、69歳。洋画家

宮島達男 (みやじま・たつお/1957年～)

東京生まれ。「Art in You」考え方を基盤に、発光ダイオード(LED)を使用したデジタルカウンター、LEDの作品を特徴とする美術家。コンピュータグラフィックス、ビデオなどを使用した作品。1984年東京藝術大学美術学部油画科卒、86年同大学大学院美術研究科絵画専攻修了。大学在学中には油絵を学んだ。「それは変化し続ける」、「それはあらゆるものと関係を結ぶ」、「それは永遠に続く」の3つのコンセプトでLEDと出会う。87年LED作品制作。90年アジア・カルチュラル・カウンシルの招きによりNY転居。90～91年ドイツ文化省芸術家留学基金留学生としてベルリンに転居。93年カルティエ現代美術財団アーティスト・イン・レジデンスプログラムによりパリに滞在。2006年東北芸術工科大学副学長。14年京都造形芸術大学副学長も兼任。現代美術家、コンピュータグラフィックス、ビデオを利用

宮嶋美明 (みやじま・みめい/1913～1985年)

新潟県生まれ。1942年独立美術協会展入選し、以後同展に8回出品するが、53年二紀会に出品、57年同人賞、58年同人努力賞、59年同人優賞、70年黒田賞、委員。代表作に「生命」のシリーズがある。千葉県で没、72歳。洋画家

宮田三郎 (みやた・さぶろう/1924～2013年)

長野県生まれ。1945年長野県師範学校卒。52年に上京。次兄の美術教材会社を手伝う。一水会展や日本水彩展、日展などに油絵や水彩画、版画を出品。「東京版画研究所」を創設し、主宰する。この頃より教育版画材料の考案・開発・普及に力を注ぎ、57年には版画教材エッチングボード(紙によるドライポイント材)や版画板(カラーボード)を考案。世界の美術教

育会議において紹介。80年に「第12集 木版画東海道篇」を制作し、シリーズを完成。版画集『宮田三郎木版画全集』（東京版画研究所 1983～84）全5巻を上梓。84年紺綬褒章受章。2013年没、89歳。2017年佐久穂町公民館で「宮田三郎木版画展」が開催。 **版画家、版画教材エッチングボード、版画板を考案**

宮田重雄（みやた・しげお/1900～1971年）

名古屋生まれ。1923年春陽会展入選。25年慶応義塾大学医学部卒。梅原龍三郎に師事。国画会展に出品。27～30年パリ留学、パストゥール研究所で血清研究。32年医学博士。38年国画会会員。戦後獅子文六の挿絵。チャーチル会指導。東京で没、70歳。 **洋画家、挿絵**

宮田晨哉（みやた・しんや/1925～2009年）

東京生まれ。1952年東京美術学校卒。56年国画会入選、57年新人賞。58～61年仏留学、サロン・ドートンヌ展に出品。63年国画会会員。朝日秀作展、安井賞展、等に推薦出品、爵の会、チャーチル会にも出品。63年武蔵野美術大学油絵学科非常勤講師、74年同科助教授、79年同科教授、82年同科主任教授。81年本学在外研究員として渡欧。2009年没、84歳。 **洋画家、美教**

宮田武彦（みやた・たけひこ/1907～1989年）

東京生まれ。1925年円鳥会展入選。31年東京美術学校西洋画科卒。光風会展で光風会賞。41年春陽会展に出品。49～81年春陽会会員。挿絵、装幀制作。82年東京セントラル絵画館で個展。東京で没。82歳。 **洋画家、挿絵、装幀**

宮 忠子（みや・ただこ/1931年～）

岡山市生まれ。山陽女子高等学校卒業後上京し、武蔵野美術学校西洋学科卒。在学中林武、三雲祥之助、清水多嘉示に師事。1974年現代画廊（東京）の「四方田草炎素描展」に感銘を受け、油彩から墨筆画へ転向する。80年日仏現代美術展出品（パリ市立プティ・パレ美術館）フランスソワール賞。 **洋画家**

宮田雅之（みやた・まさゆき/1926～1997年）

東京生まれ。1954年チャールズ・E・タトル出版社入社。60年全米ブックジャケットコンテスト入賞。63年谷崎潤一郎に見出され谷崎作品の挿絵を担当。その後、多くの著名作家の小説の挿絵を手がける。72年講談社出版文化賞（挿絵部門）。81年20世紀4人目の日本人画家として、ヴァチカン美術館に切り絵「日本のピエタ」収蔵。89年に画集刊行記念展「わらべの

詩」を開催。画集刊行記念展「万葉恋歌」を開催。92年米・ホワイトハウスに「桜花図」収蔵。画歴35周年記念個展「宮田雅之切り絵の世界」を開催。「刀勢画」という独創の世界を確立。日本人初の国連公式認定画家に選任される。1997年没、70歳。 **挿絵作家、切絵、刀勢画**

宮田亮平（みやた・りょうへい/1945年～）

新潟県生まれ。東京藝術大学大学院工芸・鍛金専攻修士課程修了、同大学教授、美術学部長、第9代東京藝術大学学長。2016年より文化庁長官。イルカをモチーフにした「シュプリングエン」シリーズで知られる。 **金工作家、東京藝術大学学長、文化庁長官**

宮地寅彦（みやち・とらひこ/1902～1995年）

金沢生まれ。1927年東京美術学校彫刻科卒。28年帝展に入選。構造社展にも出品、構造賞を受賞、会員。戦後は、日展を中心に出品をつづけ、審査員、出品委嘱。日本彫塑会の選考委員、理事。64年日展評議員、70年参与。人体表現のなかにフォルムの単純化による抽象的な要素をもちこむようになった。東京で没、92歳。 **彫刻家**

宮永岳彦（みやなが・たけひこ/1919～1987年）

静岡県生まれ。1936年名古屋市立工芸学校卒。松坂屋に入社。41年正宗得三郎に師事。42年二科展に入選。47年二紀展で褒状、二紀会同人。50年日本宣伝美術協会の創立に参加。グラフィックデザインで活躍。小田急電鉄、全日本空輸のポスター制作。63年講談社挿絵賞。57年二紀会委員。72年同会、理事。74年同会菊華賞。77年同展出品作で東郷青児美術館大賞。79年同展出品作で日本芸術院賞。86年二紀会理事長。東京で没、68歳。勲三等瑞宝章。秦野市立宮永岳彦記念美術館。 **洋画家、挿絵、童画、ポスター**

宮原麗子（みやはら・れいこ/1930年～）

長野県生まれ。1949年（昭和24年）長野県岡谷東高等学校卒。女子美術大学洋画科卒。同校の講師を勤め、自宅を解放して絵画教室を開く。女流画家協会委員、一水会会員、信州美術会会員、日本美術家連盟会員。展覧会は、公的美術館での企画展、個展開催など多数。また、各種展覧会へ出品、受賞。2000年紺綬褒章。女流画家協会委員。2008年一水会委員に推挙される。 **洋画家**

宮本匡四郎（みやもと・きょうしろう/1915～1996年）

台湾生まれ。豆本、蔵書票、版画挿絵等の制作を経て、1960年中央公論画廊にて第一回個展。無所属、

個展中心作品発表。61～64年養清堂画廊個展、ニューヨーク日本抽象作家 40 人展。73、75、77年 ムッパ画廊(パリ)、ヴァロンブルーズ画廊(ビアリッツ)個展。76、77年欧米作家と共に“The Breakers”展。1996年没、81歳。版画家

宮本恒平 (みやもと・こうへい/1890～1965 年)

東京生れ。1920年東京美術学校西洋画科卒。21～23年外遊。26～29年帝展に出品。30～36年渡欧、渡米。帰国後、春台美術展、太平洋展、光風展に出品。65年没、74歳。(出典 わ眼)洋画家

宮本光庸 (みやもと・こうよう/1913～2001 年)

徳島県生れ。日展参与、徳島県文化賞受賞、朝倉賞を受賞。日本の彫刻界に功績を残した。鳴門市の妙見山彫刻公園には遊歩道沿いに、彼の作品が展示されている。2001年没、88歳。彫刻家

宮本三郎 (みやもと・さぶろう/1905～1974 年)

石川県生れ。川端画学校、関西美術院に学ぶ。36年二科会員。38年渡欧、アカデミー・ランソンに通う。40年戦争記録画制作。43年帝国芸術院賞。47年二紀会創立会員、金沢美術工芸大学教授。53～66年多摩美術大学教授。66年日本芸術院会員。67年二紀会理事長。東京で没、69歳。洋画家、美教、版画

宮本秋風 (みやもと・しゅうふう/1958 年～)

福岡県生れ。1982年作品がボストン美術館、ロックフェラー記念美術館等買い上げ。2001年シアトル(米)にアトリエ。05年画業 35 周年を記念して、木版画集を出版。CWAJ(アメリカンクラブ)版画展招待作家。以後、シアトル・ロンドン・パリなど海外で個展開催。賞歴:京都画廊選抜展賞、86 年度芸術クラブ賞、他受賞。版画家

宮本重良 (みやもと・じゅうりょう/1895～1969 年)

東京生れ。石井鶴三に師事。1915年頃太平洋画会研究所卒、日本美術院研究所卒。1924年院展入選、30年日本美術院賞。36年同人。戦後も同展に出品し、59年評議員。61年彫塑部解散に伴って退会。粲々会を結成、68年まで毎年出品、69年「猿田彦神」「婦人像」「脚を拭く」「うずめの命」「小林氏像」(絶作)など代表的遺作が陳列された。木彫の仏像、神像を主に制作した他、芭蕉について研究し多くの芭蕉像を残した。東京で没、74歳。彫刻家

宮本順三 (みやもと・じゅんぞう/1915～2004 年)

大阪生れ。彦根高等商業学校卒。中之島洋画研究所に学ぶ。1935年グリコ株入社。56年チャーチル会会員。67年東大阪美術協会会員。70年頃から世界中を取材旅行。78年二元会会員。87年サロン・ド・パ

リ会員。サロン・ドートンヌ入選。92年ル・サロン永久会員。2004 年没、89歳。洋画家

宮本朝壽 (みやもと・ちやうとう/1909～1944 年)

福岡市生れ。1926年山崎朝雲に師事。29年日本美術協会展3席、以後39年まで受賞を重ねる。36年文展無鑑査展で選奨受賞。43年朝雲の推薦で山本五十六像制作のため海軍に入隊するが横須賀海軍病院で没、35歳。彫刻家

宮本豊蔵 (みやもと・とよぞう/1952 年～)

福島県生れ。東京のデザイン系専門学校で学ぶ。40歳で双葉町にアトリエを構えた。1985～87年フランス独学取材。86年ブロードウェイ新人賞。毎年個展を開いていたが東京電力福島第一原発事故により強制避難、流山に避難した。92年画集「宮本豊蔵: 描かずにはいられない在野の魂」を東京セントラル絵画館より出版。洋画家

宮本武蔵 (みやもと・むさし/1584～1645 年)

誕生地については美作説と播磨説が拮抗し決着をみない、幼少年期の生活拠点は美作国宮本村(岡山県美作市宮本)と思われる。武芸者としての遍歴ののち、寛永 17(1640)年には熊本藩主細川家の客分として仕えた。武蔵は余技として身近な禽鳥や道釈人物を題材に水墨画を描いている。その作画開始時期は不明ながら、画賛から推測される作画経緯や作品そのものの熟練度から、五十代半ばには構図や技法など、武蔵画の骨格が出来上がっていたと推測できる。画作を本格化させたのは熊本においてとみられ、同地周辺やゆかりの家に武蔵の筆と伝わる作品が伝来している。画系について、桃山時代の海北友松(1533-1615)年に画を学んだとも伝わっており、直接師事した可能性は低い、両者とも武人画家であって南宋時代の梁楷を学習したことで結びつけられたのであろう。二天一流の創始者で、『五輪書』を著した兵法家、水墨画、武人画家

宮谷一彦 (みやや・かずひこ/1945 年～)

大阪生れ。名古屋市立工芸高校産業美術科卒。石ノ森章太郎、永島慎二のアシスタントを務める。1967年「ねむりにつくとき」(『COM』月例新人賞受賞作)でデビュー。永島慎二に次ぐ「青春劇画のホープ」と期待される。69年『ヤングコミック』の「太陽への狙撃」、70年「性蝕記」がヒットし時代の寵児となる。学生運動の「日和」と公害を描いたこの作品は劇画マニアから絶大な支持を得た。76年『ヤングコミック』に連載された「肉弾時代」は、三島由紀夫と思われる人物を題材に過剰なまでのナルシズムを描き高い評価を得た。漫画家

宮 芳平 (みや・よしへい/1893～1971 年)

新潟県生れ。1911年上京、太平洋画会研究所を経て、白馬会洋画研究所で黒田清輝に学ぶ。16年東京美術学校中退。15年文展に入選。17年日本美術院洋画部に学ぶ。23年長野県諏訪高等女学校美術教師。38年旺玄社会員。61年国画家会員。65年銀座松坂屋画廊で個展。京都市で没、7

8歳。洋画家、美教、版画

宮良安宣 (みやら・あんせん/1862～1931年)

石垣島生れ。最後の八重山蔵元絵師。唐名は毛裔氏安宣。宮良安清の子。喜友名安著は伯父。喜友名安信は叔父。喜友名安信の後任として1891から97年蔵元絵師。石垣市立八重山博物館所蔵の「八重山蔵元絵師画稿」は、1923年に自身の絵も含めた蔵元絵師の画稿百枚以上を沖縄研究者・鎌倉芳太郎に譲り渡したものである。同画稿中に安宣の作「松樹図」や「マーラン船の図」が確認。豊年祭のときの旗頭の制作も行なった。1931年没、69歳。明治の絵師

宮脇愛子 (みやわき・あいこ/1929～2014年)

静岡県生れ。日本女子大学文学部卒。阿部展也、齋藤義重に師事。1957年カリフォルニア大学留学。59年養清堂画廊、62年東京画廊で個展。67年グッゲンハイム国際彫刻展買上賞。81年ヘンリー・ムーア大賞展エミリオ・グレコ特別優秀賞。86年東京野外現代彫刻展[世田谷・砧公園]東京都知事賞。98年[神奈川県立近代美術館]で個展。99年日本現代藝術振興賞。2003年フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ受賞。2014年没、85歳。彫刻家

宮脇公實 (みやわき・きみざね/1916～1969年)

兵庫県生れ。1936年多摩帝国美術学校入学、37年中退。36年光風会展入選、新制作派協会入選、37年新制作派展に出品。戦後、制作展に出品、51年受賞、協友、56年会員。47年自宅で「小さい画家たちの家」を主宰し、児童美術教育に功績。著書:「絵遊び、作り遊び」(昭和38年、新書館発行)や「造形遊び」。朝日秀作美術展、毎日国際展、毎日現代美術展招待出品。60年アートクラブ会員。東京で没、52歳。洋画家

宮脇憲三 (みやわき・けんぞう/1915～1964年)

姫路市生れ。東京美術学校卒。49、50年光風会でO氏賞。51年光風会会員。56年日展で特選。58～59年外遊。1964年没、48歳。洋画家

宮脇晴 (みやわき・はる/1902～1985年)

名古屋市生れ。大澤鉦一郎に師事。1917年「愛美社」の結成に参加。20年名古屋市立工芸学校図案科卒、28年同校教諭。33年春陽会展入選。53年春陽会会員。43年新文展で特選。49年大澤鉦一郎らと中部春陽会を結成。53年大澤らと名古屋春陽会研究所を開設。59、82年「宮脇晴作品集」刊行。60年南山大学講師。81年名古屋市博物館で回顧展。名古屋で没、82歳。洋画家、美教

宮脇晴 II (みやわき・はる/1902～1985年)

名古屋市生れ。1914年名古屋市立第一中学校中退。

15年大澤鉦一郎に師事。17年大澤らと「愛美社」結成。20年名古屋市立工芸学校図案科卒。第2回展展に初入選。32年第13回展展に出品。43年第6回新文展で特選。47年春陽会会友。48年名古屋市立第二工業高校造船科長。49年南山大学、税務大学校、河合塾の非常勤講師となる。中部春陽会設立。53年春陽会会員。78年愛知県教育委員会表彰。81年宮崎晴回顧展を名古屋市博物館で開催。85年2月5日没、享年82歳。(佐)洋画家、美教

明珍恒男 (みょうちん・つねお/1982～1940年)

長野県生れ。高村光雲に師事した。1903年東京美術学校木彫科卒。日本美術院二部(後の奈良美術院)に入所し、逝去に至る迄の38年間国宝仏像の修理に従ひ、修理技術者として多大の業績を貽した。35年新納忠之介の跡を継いで奈良美術院主事に就任。主なるものとして京都の東寺食堂の十一面観音、大阪四天王寺復興五重塔の扉彫刻8面が挙げられる。保存行政上として文部省宗教局嘱託、三重県社寺宝物調査嘱託、滋賀県社寺宝物修理嘱託、奈良県史蹟名勝天然記念物調査委員等の任にあり、尚「仏像彫刻」(スズカケ出版社刊行)をはじめ古美術に関する研究論文30余稿を残した。奈良市で没、59歳。彫刻家

三好計加 (みよし・けいか?/1896～1946年)

松山市生れ。北予中学生時代から水彩画をよくし、二年間の東京遊学でも特定の師をもたず独学で通し、帰郷後は同志とはかり扶桑会展を開催。1928年田嘉一郎らと青鳥社を結成、松山洋画研究所を主宰。伊予美術展、愛媛美術工芸展の運営委員。フォーヴ的表現から詩情あふれる牧歌的作柄である。1946年没、51歳。水彩画家、洋画家

三芳悌吉 (みよし・ていきち/1910～2000年)

東京生れ。太平洋画研究所修了。1946年行動美術協会創立、会員。雑誌、新聞連載小説、絵本など挿絵も多く、54年小学館児童文化賞を受賞。代表作に「木の実」連作。絵本に「もりのむしとのはらのむし」「みずのなかのちいさなせかい」「おおさんしょうお」「アイウエ王とカイクケ公」、挿絵に童門冬二「ばさらの群れ」。東京で没、90歳。洋画家、挿絵、絵本

弥勒祐徳 (みろく・すけのり/1919年～)

宮崎県生れ。1937年宮崎県立妻中学校卒。44年三納青年学校助教諭となり英語を担当。52年宮日総合美術展で入賞、宮日賞。英語担当から美術担当。58年宮崎県美術展入選し、69年最優秀賞。76年同美術展無鑑査。83年弥勒美術館「神楽館」をつくる。89年文部大臣地域芸術文化功労賞。91年宮崎県民文化賞。2008年西日本文化賞。宮崎県美術協会理事。洋画家、美教

三輪晃久 (みわ・あきひさ/1934年～)

京都生れ。1957年日展入選。58年京都市立芸術大学日本画科卒。58年堂本印象に師事。67、79年

日展特選、日春展日春賞 2 回、奨励賞 3 回。現在日展評議員。**日本画家**

三輪 修 (みわ・おさむ/1958 年～)

愛知県生れ。1972 年 独学で絵を始める。1975年中部白晝会(中部白晝賞)。83年白晝会展で白晝賞。93年白晝会展でM賞。2003年白晝会展で U 賞。08年白晝会展(東邦アート賞受賞)。白晝会会員。77年スイス美術賞展・日伯現代美術展。98年志摩の絵展招待出品。**洋画家**

三輪四郎 (みわ・しろう/1897～1924 年)

兵庫県生れ。1914年関西美術院で鹿子木孟郎に師事。19年向井潤吉らと「麗日会」を結成。同年関西美術院幹事。22年渡欧。23～24年アカデミー・コロッセでシャルル・グランに師事。京都で没、27歳。**洋画家**

三輪四郎 II (みわ・しろう/1898～1924 年)

兵庫県生れ。1916 年関西美術院に入り、鹿子木孟郎に学ぶ。19 年関西美術院で出会った向井潤吉らと「麗日会」を結成し、京都府立図書館でグループ展を開く。渡欧した須田国太郎の後任として関西美術院幹事に就く。22年渡仏。23年アカデミー・コロッセでシャルル・グランに師事。24年病に倒れ、帰国し、享年27歳で夭折。(佐)**洋画家**

三輪大次郎 (みわ・だいじろう/1868～1952 年)

新潟県生れ。三輪晁勢の父。1888年京都府画学校卒。小山正太郎の不同舎、川村清雄に学ぶ。90年明治美術会会員。のち日本画に転じた。1952年没、84歳。**日本画家、洋画家**

三輪大次郎 II (みわ・だいじろう/1868～1952 年)

新潟県生れ。1888年京都府画学校卒。田村宗立の明治画学館にも在籍。後、上京し、不同舎に学ぶ。90年明治美術会展に出品。以後、3、5回展に出品。後、京都に移住し、鈴木松年に日本画を師事。52年没、享年84歳。(佐)**日本画家、洋画家**

三輪 孝 (みわ・たかし/1911～1964 年)

大阪生れ。藤島武二に師事。1934年帝展入選。34～36年東光会展に出品。35年東京美術学校油画科卒。37、41年光風会展で受賞。43年同会会友。45年阿佐ヶ谷美術研究所を設立。のち阿佐ヶ谷美術学園長。総合デザイン研究所が付属。47年光風会会員。57年日展特選、日展委嘱。64年没、53歳。**洋画家、美教**

三輪晁勢 (みわ・ちようせい/1901～1983 年)

新潟県長岡市生れ。1921年京都市立美術工芸学校卒。24年京都市立絵画専門学校卒。堂本印象に師事し、画塾東丘社に入る。堂本画塾東丘社の創立に参加。27年帝展入選、31、34年帝展で特選。62年日本芸術院賞。79年日本芸術院会員。日展顧問。京都府美術工芸功労者、京都市文化功労者。1983年没、82歳。**日本画家、版画**

三輪田米山 (みわだ・べいざん/1821～1908 年)

伊予国生れ。日尾八幡神社の神官の家に生れる。1848年、28歳で家督を継ぐ。書風は天衣無縫、豪壮気宇壮大で酒を好みよく酒興に乗じて揮毫した。山本發次郎のコレクションでも知られる。近代書の先駆をなした書家として近年再評価。1908年没、88歳。**書家**

三輪勇之助 (みわ・ゆうのすけ/1920～1990 年)

三重県生れ。1937年富田中学校卒。43年多摩帝国美術学校西洋画科卒。58年二紀展で褒状。68年二紀会会員。69年二紀展で文部大臣奨励賞。85年二紀展で菊華賞。建築物と人物像の二重映像で知られる。69年二紀会理事。東京で没、69歳。**洋画家**

三輪良平 (みわ・りょうへい/1929～2011 年)

京都生れ。1953年京都市立美術専門学校修了。山口華楊に師事。52年日展入選、56、60年日展特選・白寿賞。62年日展で菊華賞。この頃、中路融人ら農鳥社の若手と研究会「あすなる」を結成。84年日展評議員。93年京都府文化賞功労賞。2011年没、81歳。**日本画家**